11.8 動物

調査区域には重要な種及び注目すべき生息地が分布し、建設機械の稼働、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る重要な種及び注目すべき生息地への影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行いました。

11.8.1 建設機械の稼働に係る動物

1) 調査

(1) 調査の手法

① 調査した情報

調査項目は、以下のとおりとしました。

・騒音の状況

「11.8.2 工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路の存在に係る動物(地表式又は掘割式、嵩上式)」における動物相の状況及び重要な種等の状況の調査の結果、都市計画対象道路事業実施区域の近傍で、猛禽類の重要な種(オオタカ)の営巣が確認されたことから、建設機械の稼働により発生する騒音が繁殖に影響を及ぼすおそれがあるため、当該重要な種(オオタカ)の営巣地及びその周囲の状況や騒音に係る調査を行いました。

その他、建設機械の稼働により発生する騒音が繁殖に影響を及ぼすおそれのある猛禽類の重要な種は確認されませんでした。なお、「重要な種」とは「学術上又は希少性の観点から重要なもの」を言います。

② 調査の基本的な手法

調査は、予測・評価に対して、合理的に十分対応できる手法として、現地調査により行いました。

現地調査は、騒音計及びデータレコーダを用いて、騒音レベルを 24 時間連続で記録しました。調査は「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年環境省告示第 64 号)に規定する騒音の測定方法により行いました。

なお、「営巣地及びその周囲の状況」、「繁殖環境の状況」については、「11.8.2 工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る動物」の重要な種等の状況の調査結果を利用しました。

③ 調査地域及び調査地点

調査地域は、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺としました。

騒音の状況に係る調査地点は、営巣地が確認された箇所周辺の騒音の状況が得られる地点の地上 1.2m の高さとしました。なお、調査地点の位置は保護上の観点から図示はしません。

④ 調査期間等

調査期間等は、騒音が 1 年間を通じて平均的な状況を呈する日の建設機械の稼働に係る動物への影響の予測に必要な時間帯として、表 11.8-1 に示す平日 1 日に 24 時間の連続測定を実施しました。

表 11.8-1　調査期間等

調査期間等
令和 3 年 11 月 9 日(火)12 時～10 日(水)12 時

(2) 調査結果

① 営巣地及びその周囲の状況

都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における重要な種(オオタカ)の営巣地及びその周囲の状況は、表 11.8-2 に示すとおりです。

表 11.8-2　営巣地及びその周囲の状況

営巣地	営巣地及びその周囲の状況
地区 A	営巣木の樹種：クロガネモチ 林　　相：高木層(～15m)は常緑のクロガネモチ、ヤブニッケイや落葉のコナラ等の広葉樹からなります。亜高木層(～8m)及び低木層(～4m)は常緑広葉樹のヒサカキ、ヤブニッケイ等が多く、草本層にはカクレミノの稚樹やコクラン等の林床草本が生育します。 社会環境：営巣林の樹上から視認できる範囲の近傍に、一般県道 399 号大塩別所線や工場、住宅地が存在します。
地区 B	営巣木の樹種：スギ 林　　相：高木層(～22m)はスギのほか、落葉のアベマキ、クリや常緑のカクレミノ等の広葉樹からなります。亜高木層(～8m)及び低木層(～3m)は常緑のカクレミノ、ネズミモチ、ヤブニッケイ等が多く、草本層にはベニシダ等の林床草本が生育します。 社会環境：営巣林の山の尾根を挟んだ反対側に、住宅地が存在します。自然公園法等に係る法規制区域及び周辺での開発計画はありません。付近にはため池、ハイキングコースがあり、ハイキングコースは営巣中心域に含まれます。

② 繁殖環境の状況

繁殖環境の状況は、表 11.8-3 及び表 11.8-4 に示すとおりです。

地区 A では平成 26 年度にオオタカの営巣が確認されましたが、それ以降、繁殖の成功は確認されていません。また、地区 B では平成 25 年度以降、途中失敗した令和 3 年度を除き、継続的なオオタカの繁殖の成功が確認されています。

表 11.8-3　地区 A における繁殖環境の状況

営巣状況 	営巣木の樹種	クロガネモチ
	樹高	約 14m
	胸高直径	38cm
	枝下高(巣の高さ)	約 11m
	巣の大きさ (長径×短径×厚さ)	約 70×60×45cm
	架巣型	又型
	巣の方向	南西
	傾斜	25°
	その他	平成26年度営巣を確認

表 11.8-4　地区 B における繁殖環境の状況

営巣状況 	営巣木の樹種	スギ
	樹高	約 20m
	胸高直径	36cm
	枝下高(巣の高さ)	約 17m
	巣の大きさ (長径×短径×厚さ)	約 60×50×45cm
	架巣型	又型
	巣の方向	北
	傾斜	5°
	その他	平成25年度営巣を確認以降、継続的に営巣を確認　※令和 3 年度を除く

③ 騒音の状況

騒音の状況に係る現地調査結果は、表 11.8-5 に示すとおりです。

調査地点における昼間の等価騒音レベル（L_{Aeq}）は 50dB、時間率騒音レベルのうち 90%レンジの上端値（L_{A5}）は 53dB、最大値（L_{Amax}）は 76dB となりました。

表 11.8-5　騒音の状況の現地調査結果

等価騒音レベル (L_{Aeq})	時間率騒音レベル (90%レンジの上端値、L_{A5})	騒音レベル最大値 (L_{Amax})
50dB	53dB	76dB

注）測定結果は、昼間：6～22 時の値を整理しています。

2) 予測

(1) 予測の手法

① 予測の基本的な手法

建設機械の稼働により発生する騒音が、重要な種(オオタカ)に対して、影響を及ぼすおそれがあるため、その影響の程度について、類似事例を参考に予測しました。

予測は、オオタカの営巣地における現況の騒音レベルと、音の伝搬理論に基づく予測式や距離減衰式を用いて計算した建設機械の稼働による騒音レベルの予測結果を比較することにより、オオタカの繁殖に及ぼす影響の程度を把握しました。

② 予測地域及び予測地点

予測地域は、調査地域と同じとしました。

予測地点は、重要な種(オオタカ)の営巣地のうち、継続的に繁殖の成功が確認されている営巣地（地区 B）1 箇所としました。

③ 予測対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び重要な種(オオタカ)の生態を踏まえ、建設機械の稼働による影響が最も大きくなると予想される時期とし、鋼橋架設における架設工の実施時としました。

(2) 予測結果

予測地点における予測結果は、表 11.8-6 に示すとおりです。

予測の結果、地区 B における騒音レベルは 52dB となり、鋼橋架設における架設工実施時の騒音は現況騒音と同程度であることが確認されました。また、樹木や地形等による音の遮蔽により、さらに影響は低減されるものと想定されます。

したがって、一時的に建設機械の稼働による騒音が発生した場合も、オオタカの繁殖活動への影響は小さいと考えられます。

表 11.8-6　予測結果

予測地点	予測対象としたユニット等	建設機械稼働位置から営巣地までの距離	予測結果 (L_{A5})	現況騒音 (L_{A5})
地区 B	架設工(鋼橋架設)	約 760m	52dB	53dB

注 1) 予測結果は建設機械からの騒音の影響のみを計算したものです。
注 2) 樹木や地形等による音の遮蔽、地表面の影響及び空気の音響吸収は考慮していません。

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討

予測の結果、建設機械の稼働により発生する騒音は、オオタカの繁殖活動への影響は小さいと考えられますが、オオタカの生息地への環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として、環境保全措置を検討しました。

検討の結果、「使用建設機械の配慮」及び「作業者に対する建設機械の取扱いの指導」を採用します。検討した環境保全措置は、表 11.8-7 に示すとおりです。

表 11.8-7　環境保全措置の検討

環境保全措置	環境保全措置の効果	実施の適否	適否の理由
使用建設機械の配慮	低騒音型建設機械の採用により、騒音の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できます。	適	猛禽類の繁殖に係る影響の低減が見込まれることから、本措置を実施します。
作業者に対する建設機械の取扱いの指導	作業時の不要なエンジン稼働を避けること等により、騒音の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できます。	適	猛禽類の繁殖に係る影響の低減が見込まれることから、本措置を実施します。

(2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(3) 検討結果の整理

環境保全措置として採用した「使用建設機械の配慮」及び「作業者に対する建設機械の取扱いの指導」の実施内容、効果等について整理した結果は、表 11.8-8 に示すとおりです。

表 11.8-8(1)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	使用建設機械の配慮
	位置	オオタカの営巣地周辺の建設機械が稼働する場所
保全対象		オオタカ
環境保全措置の効果		低騒音型建設機械の採用により、騒音の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		騒音、生態系への影響が低減されます。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、工事の詳細な施工計画段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.8-8(2)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	作業者に対する建設機械の取扱いの指導
	位置	オオタカの営巣地周辺の建設機械が稼働する場所
保全対象		オオタカ
環境保全措置の効果		作業時の不要なエンジン稼働を避けること等により、騒音の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		騒音、生態系への影響が低減されます。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

(4) 事後調査

① 事後調査の検討

予測は、重要な種の生息に及ぼす影響の程度を、類似事例を参考に実施していることから、不確実性は小さいと考えます。また、環境保全措置は、既存の知見及び事例、専門家等の意見を参考に適切に実施することから、効果の不確実性はないと考えます。ただし、オオタカは繁殖時の営巣中心域や行動圏を変える特性があることから、今後影響の程度が変化する可能性があり、不確実性が残ることから、表 11.8-9 に示すとおり事後調査を実施します。

なお、事後調査の実施時期及び実施方法等の詳細については、事業実施段階において、専門家等の指導及び助言を踏まえて検討します。

表 11.8-9　事後調査の内容

調査項目	調査内容
オオタカに係る繁殖状況	・調査時期 工事中(着工前含む)の調査対象の繁殖期間を基本 ・調査地域 調査対象の猛禽類の繁殖への影響が及ぶと予測される地域 ・調査方法 直接確認による生息状況の確認

② 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応

事後調査の結果、事前に予測し得ない環境上の著しい影響が生じた場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家等の意見及び指導を得ながら、必要に応じて追加調査等を行い、適切な措置を講じます。

③ 事後調査結果の公表の方法

事後調査結果の公表等については、原則として事業者が行いますが、公表時期及び方法については、関係機関と連携し、適切に行います。

4) 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

建設機械の稼働に係る動物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより評価しました。

(2) 評価結果

① 回避又は低減に係る評価

都市計画対象道路は、道路の計画段階において、重要な種の生息地をできる限り回避した計画としています。また、工事施工ヤードは都市計画対象道路上、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画とすることを想定しており、環境負荷の回避・低減が図られています。

加えて、環境保全措置として表 11.8-8 に示す「使用建設機械の配慮」及び「作業者に対する建設機械の取扱いの指導」を講じることにより、オオタカの生息地への環境影響をできる限り回避又は低減します。

また、オオタカは、営巣中心域や行動圏を変える特性があり、影響の程度が今後変化する可能性があることから、事後調査を実施し、事前に予測し得ない環境上の著しい影響が生じた場合は、関係機関と協議し、専門家等の意見及び指導を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じることとしています。

これらのことから、建設機械の稼働に係る動物への影響は、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。

11.8.2 工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る動物

1) 調査

(1) 調査の手法

① 調査した情報

調査項目は以下のとおりとしました。

・動物相の状況

・重要な種及び注目すべき生息地(以下、「重要な種等」という。)の状況

(1)重要な種等の生態

(2)重要な種等の分布及び生息の状況

(3)重要な種等の生息環境の状況

なお、「重要な種」とは「学術上又は希少性の観点から重要なもの」、「注目すべき生息地」とは「学術上もしくは希少性の観点から重要な生息地並びに地域の象徴となる生息地」を言います。

② 調査の基本的な手法

調査は、既存資料調査及び現地調査により行いました。現地調査は以下の方法により行いました。

i) 動物相の状況

現地踏査において、個体や痕跡等の目視や鳴き声の聞き取り、必要に応じ個体の採取による方法としました。

動物相の状況の調査手法は、表 11.8-10 に示すとおりです。

表 11.8-10(1)　動物相の状況の調査手法

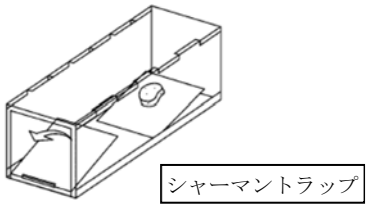
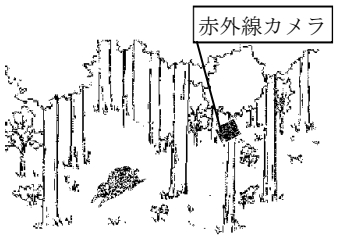
項目	調査方法	調査手法の概略	
哺乳類	ア．直接観察、フィールドサイン法	調査地域を踏査して、生体の目撃、糞、足跡、食痕等、哺乳類の痕跡(フィールドサイン)を目視観察し、種を記録しました。	
	イ．トラップによる捕獲	調査地域にシャーマントラップ等を設置し、主にネズミ、モグラ等の小型哺乳類を捕獲して生息する個体を確認し、種を記録しました。	
	ウ．無人撮影調査	けものみちに赤外線カメラを適宜設置し、自動撮影調査を行いました。赤外線カメラは、前を横切った動物をセンサーで感知して撮影します。	
	エ．バットディテクター、ねぐら調査	コウモリ類が発する超音波を可聴音に変換するバットディテクター(超音波検知器)を用いて調査しました。 また、昼間にねぐらとして利用しそうなトンネル、廃屋、橋脚下部等を観察し、越冬する個体の確認に努めました。	

表 11.8-10(2)　動物相の状況の調査手法

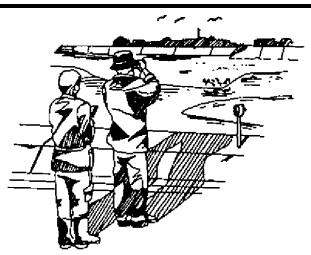
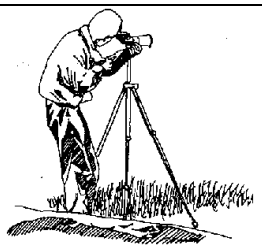
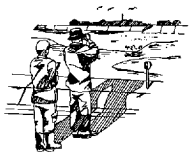
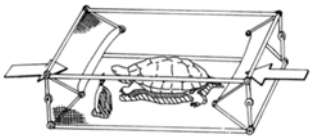
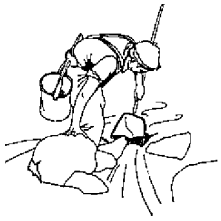
項目	調査方法	調査手法の概略	
鳥類	ア．直接観察	調査地域を踏査して、目視又は鳴き声で確認された種を記録しました。	
	イ．ラインセンサス法	調査地域に踏査ルートを設定し、一定速度で歩きながら、一定範囲内において確認された鳥類の種類及び個体数を記録しました。	
	ウ．定点観察法	調査地域の見通しのよい地点に定点(固定及び移動)を設置し、望遠鏡、双眼鏡等を用いて、確認された種を記録しました。 猛禽類調査では飛翔状況、行動内容等を記録しました。特に繁殖期には、つがいの止まり、餌運びに留意し、営巣地の特定に努めました。	
	エ．林内踏査	定点調査により猛禽類の営巣可能性があると考えられた地域を踏査し、目視や鳴き声により営巣箇所を探索しました。 また、猛禽類の繁殖状況を確認しました。	
	オ．コールバック法	IC レコーダー等にフクロウ等の鳴声を録音し、調査地域内の林内にてスピーカーで再生、鳴き声が返ってきた種を記録しました。	
爬虫類・両生類	ア．直接観察及び採取	調査地域を踏査して、目視又は鳴き声等で確認された種を記録しました。	
	イ．カメトラップ	カメ類を対象としたトラップです。魚肉等の餌を入れ、流れの緩やかな場所、ワンド・たまり、水路、細流等、カメ類の生息に適した環境がある場合に適宜設置しました。	
	ウ．止水性サンショウウオ調査 (「第 2 回自然環境保全基礎調査」(昭和 56 年、環境庁)により確認されたカスミサンショウウオ(現種名：セトウチサンショウウオ)を対象)	山地の谷部、水田周辺の止水環境を中心に目視観察を行いました。 止水性サンショウウオ(セトウチサンショウウオ等)の生息の可能性があることから、調査を実施しました。	 

表 11.8-10(3)　動物相の状況の調査手法

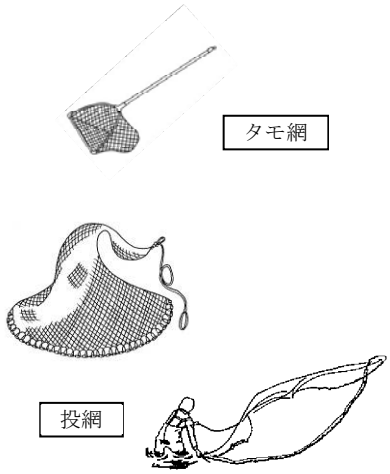
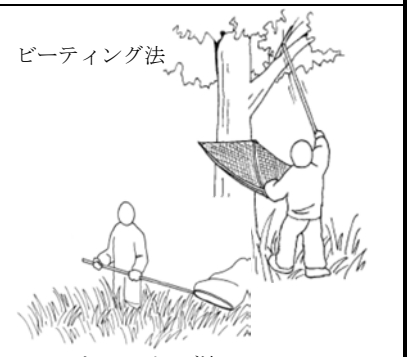
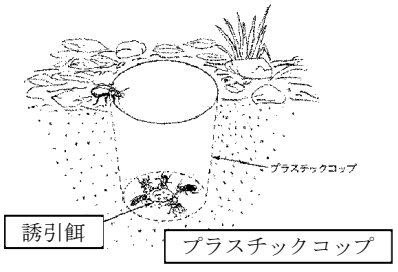
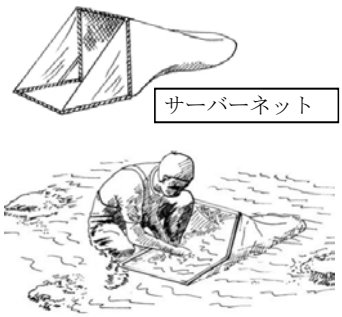
項目	調査方法	調査方法の概略	
魚類	ア. 直接観察及び採取	調査地域の水域に調査地点を設定して、目視確認及びタモ網、投網等で採取された種を記録しました。	
	イ. トラップ	調査地域の水域に調査地点を設定して、トラップ(セルびん、カゴ網)を設置し、採取された種を記録しました。	
クモ類・昆虫類	ア. 直接観察及び採取	調査地域を踏査して、目視又は鳴き声による確認及び捕虫網で採取された種を記録しました。 なお、草地においては捕虫網を振り回し昆虫類を採集するスウィーピング法、樹林においては樹木を叩いて落下する昆虫類を採集するビーティング法も併用しました。	
	イ. ライトトラップ法	調査地域に夜間照明を点灯させる地点を設定して、返しのついたボックスの上から光源を点灯させ、集まる昆虫を採集しました。	
	ウ. ベイトトラップ法	調査地域に調査地点を設定して、餌を入れたコップ等の容器を地中に埋め、誘引された種を記録しました。	

表 11.8-10(4)　動物相の状況の調査手法

項目	調査方法	調査方法の概略	
底生動物	ア.直接観察及び採取	調査地域の水域及び陸域において、個体の目視確認及びタモ網等で採取された種を記録しました。	
	イ．コドラート法	調査地域の水域に方形枠を設定し、サーバーネット等を用いて方形枠内に生息する種を採取し、記録しました。	
陸産貝類	直接観察及び採取	調査地域を踏査して、目視確認された種を記録しました。	

ii) 重要な種等の状況

A) 重要な種等の分布及び生息の状況

重要な種等の分布及び生息の状況については、表 11.8-11 及び表 11.8-12 に示す選定基準に該当する種等を対象に、「 i) 動物相の状況」の調査とあわせて行いました。

B) 重要な種等の生息環境の状況

現地踏査において、調査地域の微地形、水系、植物群落等の種類及び分布を目視確認する方法としました。

表 11.8-11(1) 重要な種の選定基準

番号	法律及び文献	選定基準及びランク
Ⅰ	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	特別：国指定特別天然記念物 国：国指定天然記念物
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特一：特定第一種国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
Ⅲ	「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅(飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種) CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種) CR：絶滅危惧ⅠA 類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種) EN:絶滅危惧ⅠB 類(ⅠA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種) VU：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足(評価するだけの情報が不足している種) LP:絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)
Ⅳ	「環境省版海洋生物レッドリストの公表について」(平成29年 3 月、環境省)	EX：絶滅(我が国ではすでに絶滅したと考えられる種) EW：野生絶滅(飼育・栽培下でのみ存続している種) CR：絶滅危惧 IA 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの) EN：絶滅危惧 IB 類(IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの) VU：絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足(評価するだけの情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

表 11.8-11(2)　重要な種の選定基準

番号	法律及び文献	選定基準及びランク
V	「兵庫県版レッドリスト2017(哺乳類･爬虫類･両生類･魚類・クモ類)」 「兵庫県版レッドリスト2025(鳥類)」 「兵庫県版レッドリスト2022(昆虫類)」 「兵庫県版レッドリスト2014(貝類及びその他無脊椎動物)」 ひょうごの環境ホームページ(令和7年3月現在)	EX：絶滅(兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生息していたと考えられるが､現在は見られなくなり、生息の可能性がないと考えられる種) A:Aランク(兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種) B:Bランク(兵庫県内において絶滅の危機が増大している種など、極力生息環境、自生地などの保全が必要な種) C：Cランク(兵庫県内において存続基盤が脆弱な種) 注：要注目種(最近減少が著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種) 調：要調査種(兵庫県での生息の実態がほとんどわからないことなどにより､現在の知見では貴重性の評価ができないが､今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種)
Ⅵ	「神戸の希少な野生動植物神戸版レッドデータ2020」(令和3年3月、神戸市)	今：今見られない(神戸市内での確認記録､標本があるなど、かつては生息･生育していたと考えられるが､現在は見られなくなり､生息･生育の可能性がないと考えられる種) A:Aランク(神戸市内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策が必要な種) B:Bランク(神戸市内において絶滅の危機が増大している種など、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種) C：Cランク(神戸市内において存続基盤が脆弱な種。極力、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種) 調：要調査(神戸市内での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより､現在の知見では貴重性の評価ができないが､今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種) 繁殖：鳥類 繁殖個体群として選定 通過：鳥類 通過個体群として選定 越冬：鳥類 越冬個体群として選定
Ⅶ	「明石市の大切にしたい生きもの　明石市レッドリスト」(平成31年3月、明石市)	今：今見られない(明石市に以前生息・生育していたが現在見られない種) A:Aランク(明石市内において生息･生育数が特に少ない種、又は生息･生育環境の悪化が著しい種などで､特に生息･生育環 境の保全に努めるべき種) B:Bランク(明石市内において生息・生育数が少ない種、近年減少している種､又は優れた自然環境の指標となる種などで、生息・生育環境の保全に努めるべき種) 調：要調査(知見が不十分で判断が困難な種)

表 11.8-12　注目すべき生息地の選定基準

番号	法律及び文献	選定基準及びランク
Ⅰ	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	国、県、市及び町指定天然記念物に指定されている動物の生息地
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	生息地等保護区(動物に係るもの)
Ⅲ	「兵庫県版レッドリスト 2011(地形・地質・自然景観・生態系)」 ひょうごの環境ホームページ(令和 7 年 3 月現在)	A：A ランク(規模的、質的にすぐれており貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの) B:B ランク(A ランクに準ずるもので、地方的価値、都道府県的価値に相当するもの) C:C ランク(B ランクに準ずるもので、市町村的価値に相当するもの) 注：要注目(［地質］温泉・湧水などのように地質以外の分野の自然現象のうち、地質との関連性があり重要とみなされるもの ［自然景観］その場所の貴重性だけでなく、今後の人の暮らしと自然環境の関係を考える上で重要とみなされるもの)
Ⅳ	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」 環境省ホームページ(令和 7 年 3 月現在)	1:基準 1(湿原・塩性湿地、河川・池沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、サンゴ礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合) 2:基準 2(希少種、固有種等が生育・生息している場合) 3:基準 3(多様な生物相を有している場合(ただし、外来種を除く)) 4:基準 4(特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合) 5:基準 5(生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、繁殖場等)である場合)
Ⅴ	「生物多様性の観点から重要度の高い海域」 環境省ホームページ(令和 7 年 3 月現在)	1:唯一性、又は希少性 2:種の生活史における重要性 3:絶滅危惧種又は減少しつつある種の生育・生息地 4:脆弱性、感受性又は低回復性 5:生物学的生産性 6:生物学的多様性 7:自然性 8:典型性・代表性

③ 調査地域

調査地域は、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺としました。そのうち、現地調査を行う地域は、方法書段階の都市計画対象道路事業実施区域及びその端部から250m程度を目安としました。ただし、行動圏が特に広い重要な種等については、必要に応じ適宜拡大しました。

④ 調査地点

調査地点及び調査ルートは、図 11.8-1～図 11.8-7 に示すとおりです。

i) 動物相の状況

調査地点及び調査ルートは、調査地域に生息する動物を確認しやすい場所に設定しました。

ii) 重要な種等の状況

調査地点及び調査ルートは、重要な種等の生態を踏まえ、調査地域において、それらが生息する可能性の高い場所に設定しました。

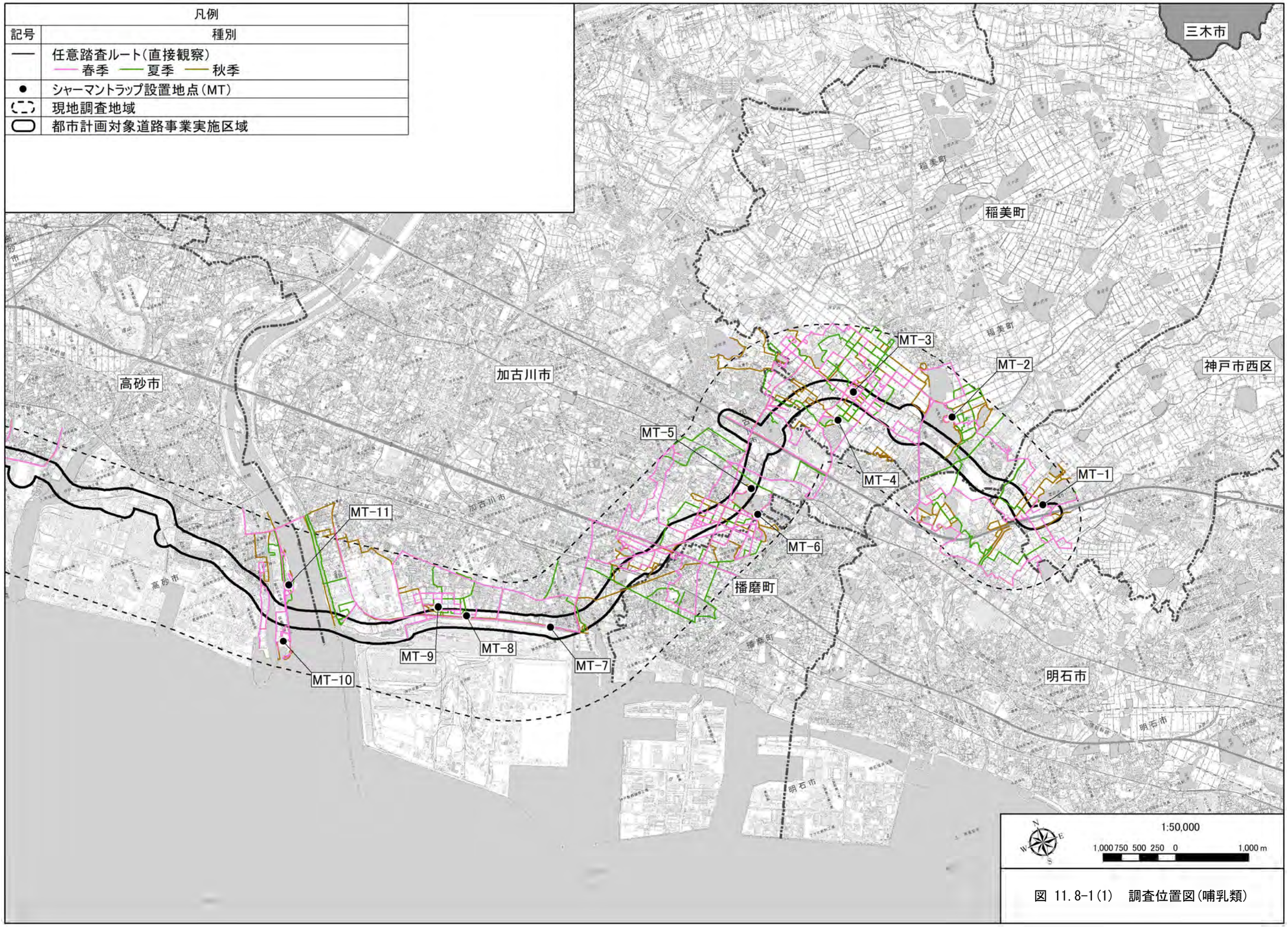


図 11.8-1(1)　調査位置図(哺乳類)

凡例	
記号	種別
──	任意踏査ルート(直接観察) 春季　夏季　秋季
●	シャーマントラップ設置地点(MT)
⬚	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

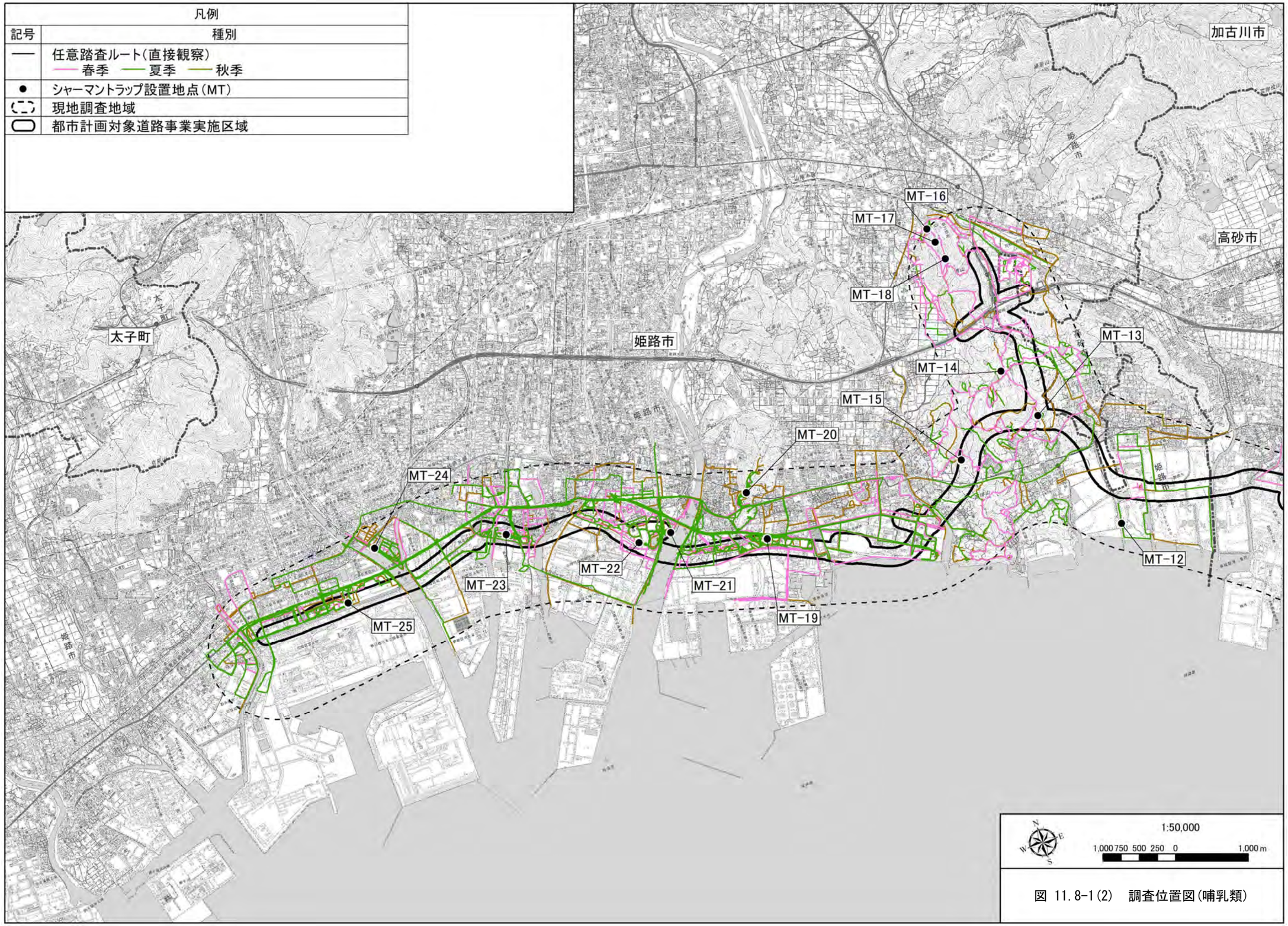


図 11.8-1(2)　調査位置図(哺乳類)

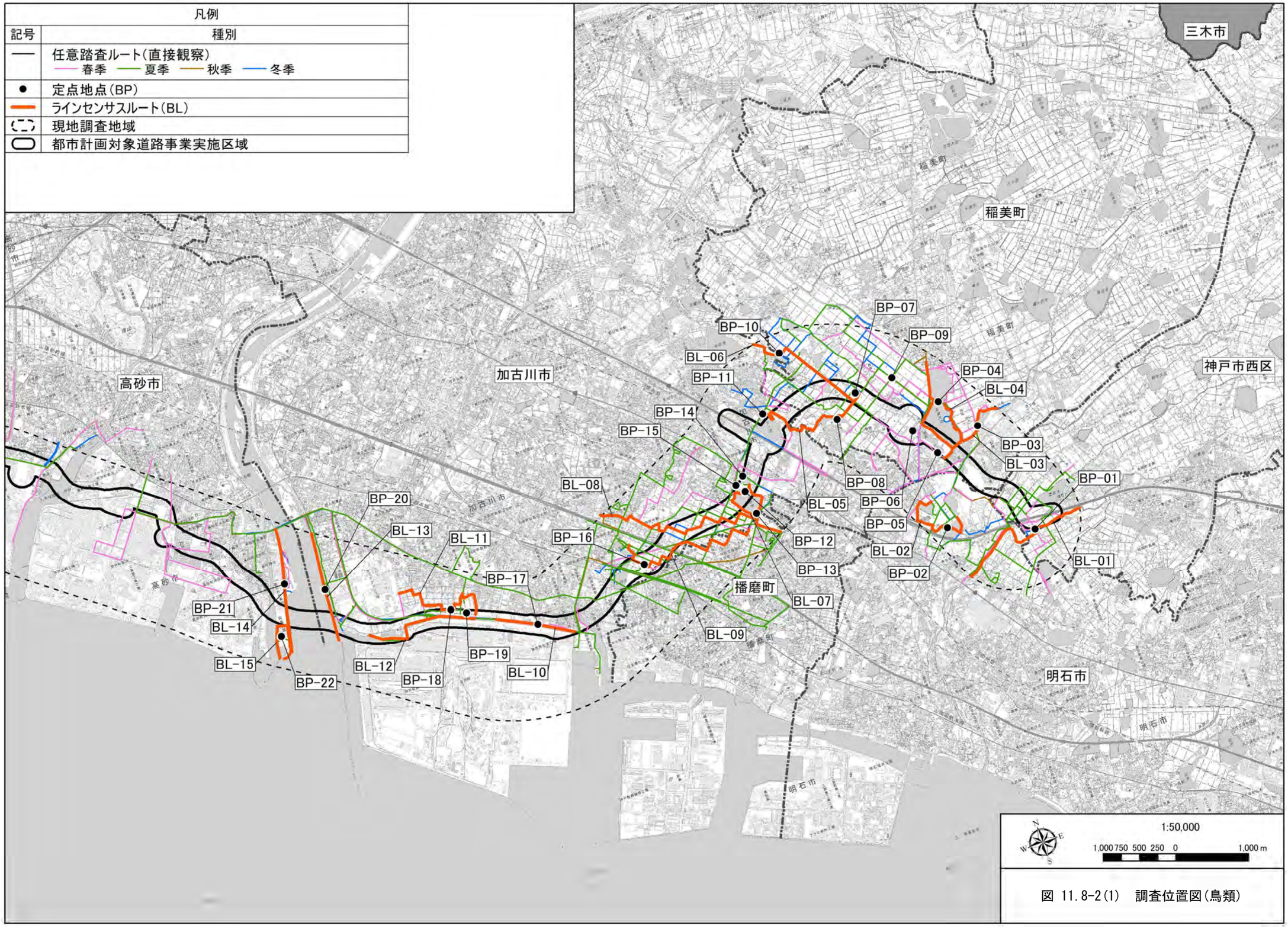


図 11.8-2(1)　調査位置図(鳥類)

凡例	
記号	種別
——	任意踏査ルート(直接観察) 春季 夏季 秋季 冬季
●	定点地点(BP)
▬	ラインセンサスルート(BL)
▭	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

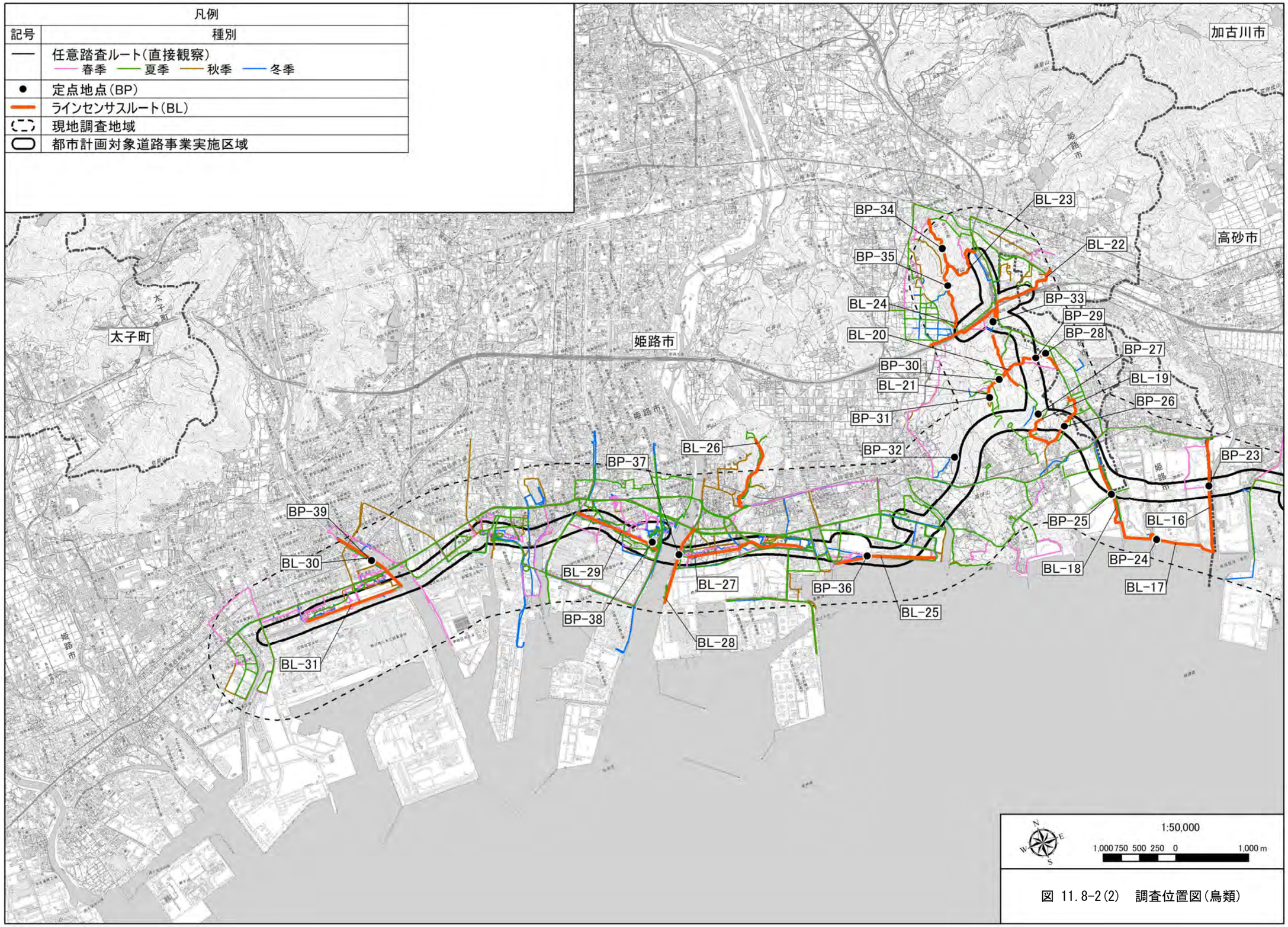


図 11.8-2(2)　調査位置図(鳥類)

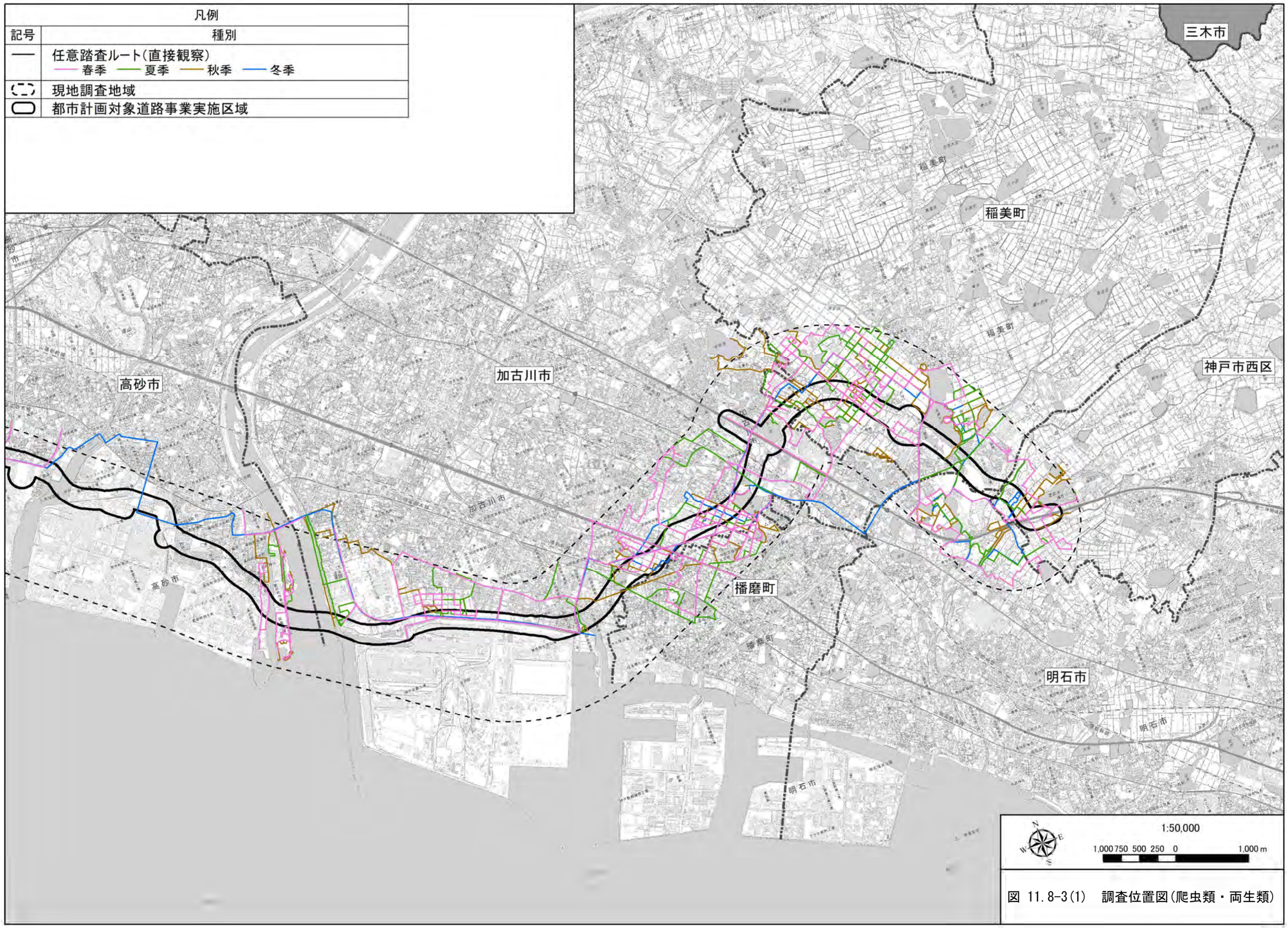


図 11.8-3(1)　調査位置図(爬虫類・両生類)

凡例	
記号	種別
——	任意踏査ルート(直接観察) 春季　夏季　秋季　冬季
⬚	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

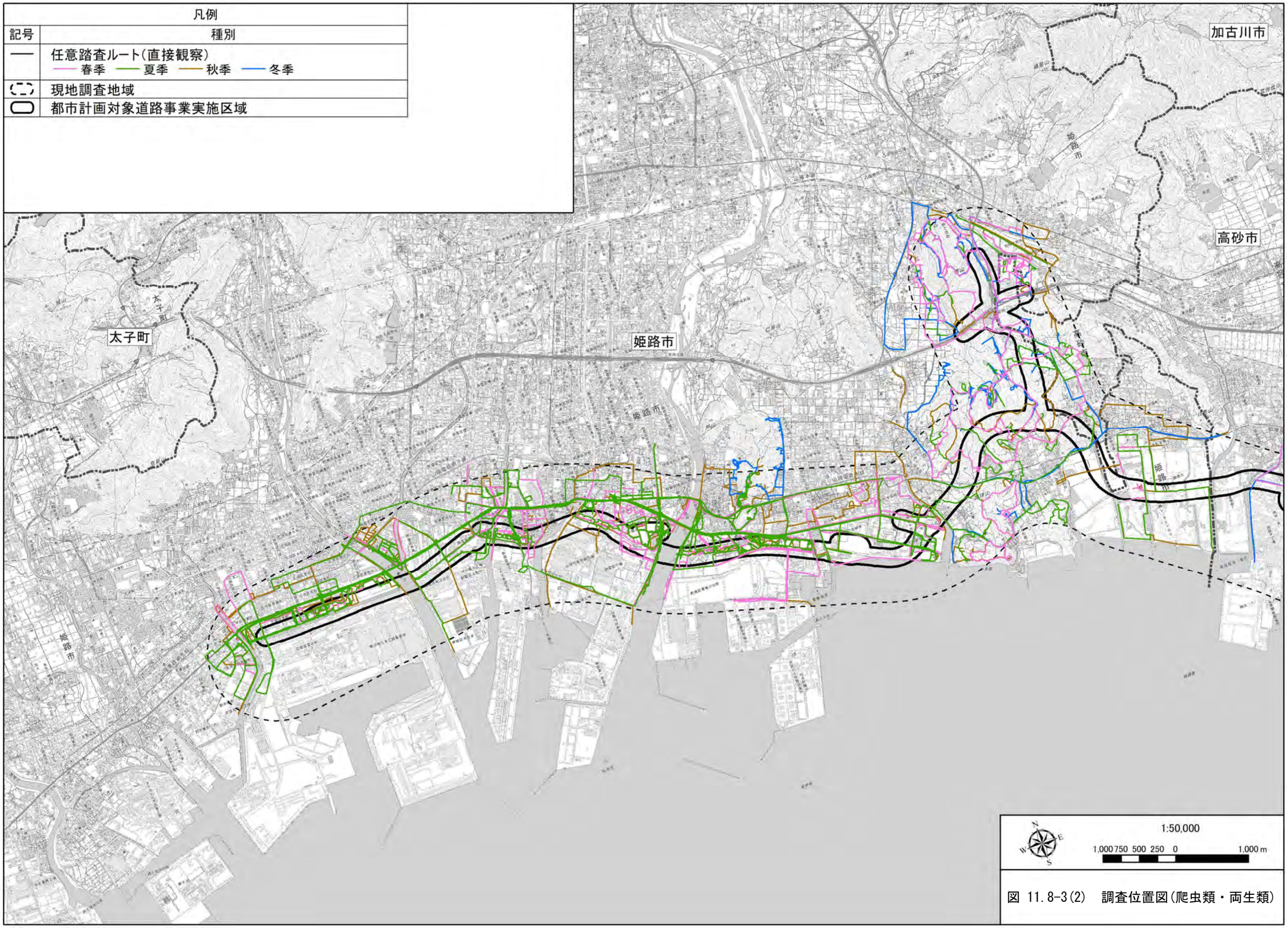


図 11.8-3(2)　調査位置図(爬虫類・両生類)

凡例	
記号	種別
●	調査地点（河川・水路）（R）
●	調査地点（ため池）（P）
▭	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

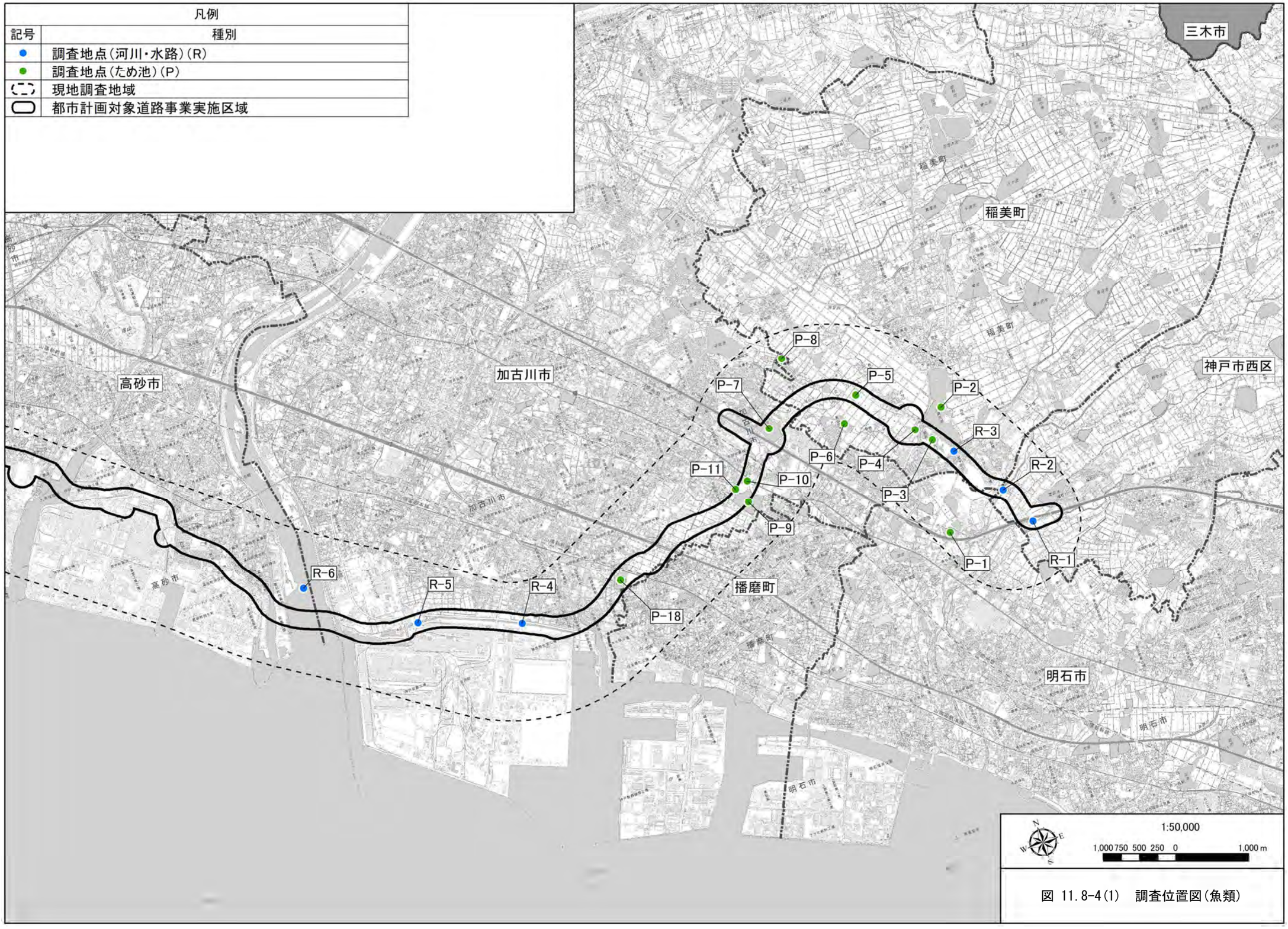


図 11.8-4(1)　調査位置図（魚類）

凡例	
記号	種別
●	調査地点(河川・水路)(R)
●	調査地点(ため池)(P)
▭	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

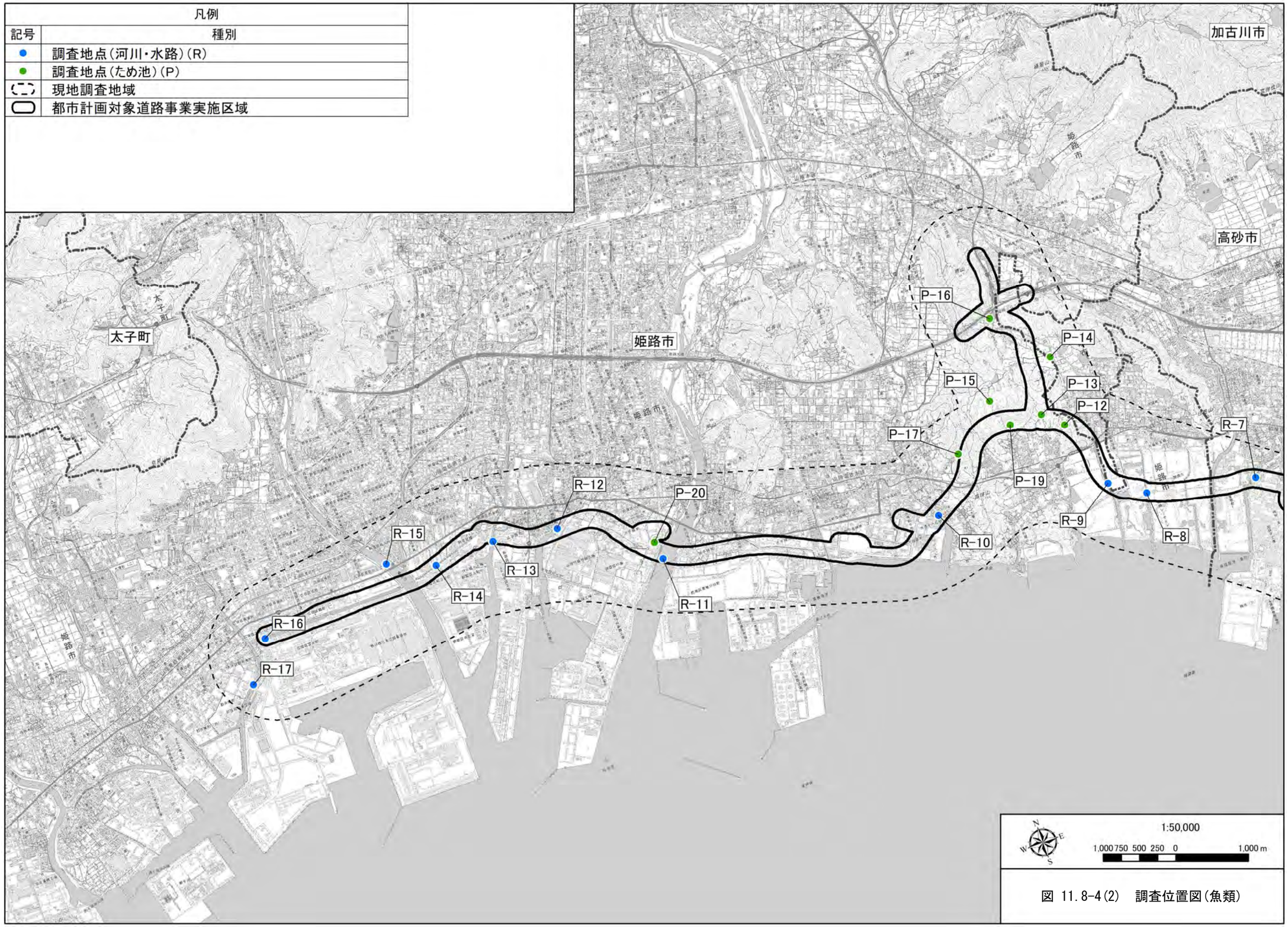


図 11.8-4(2)　調査位置図(魚類)

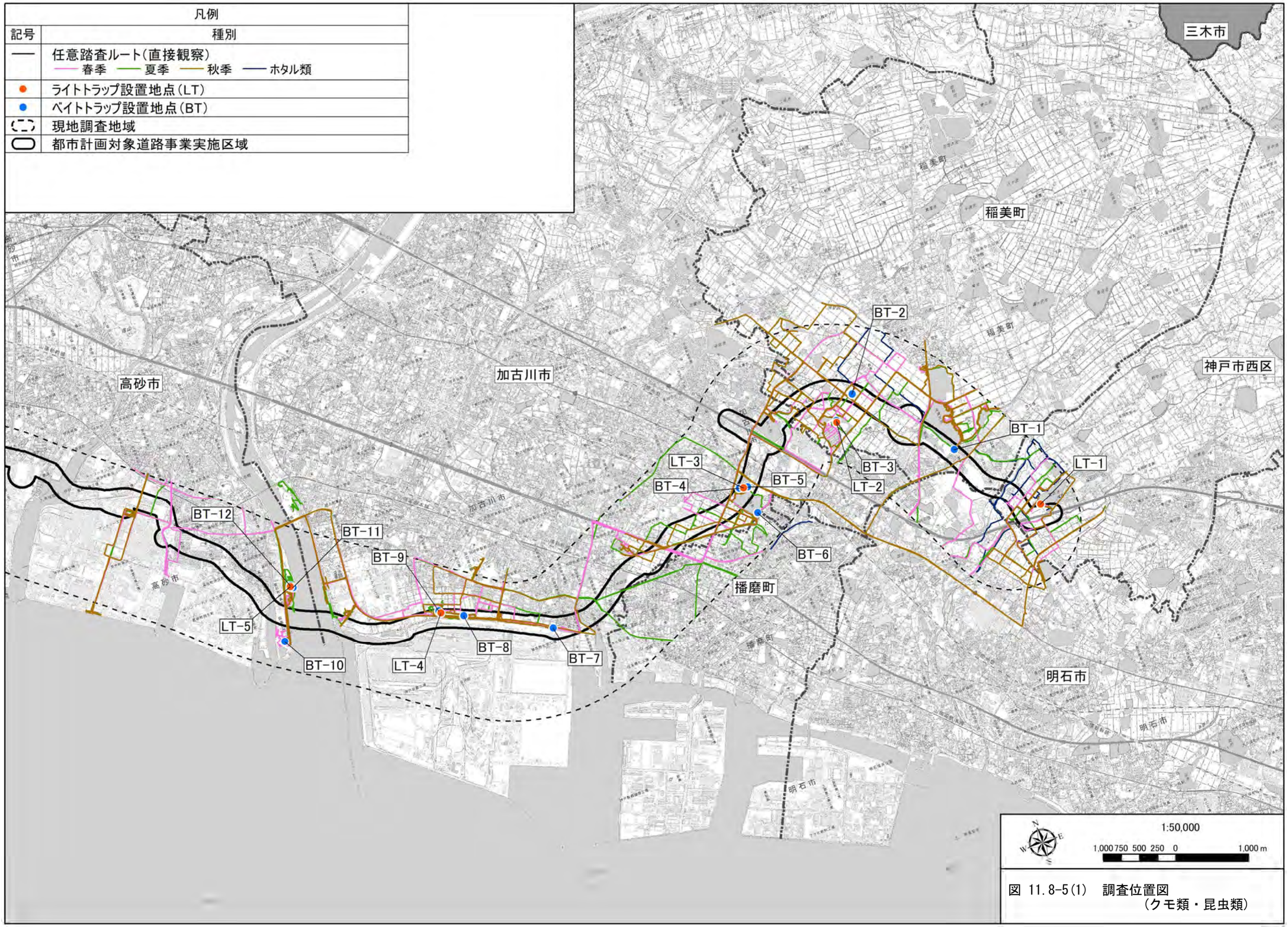


図 11.8-5(1)　調査位置図
（クモ類・昆虫類）

凡例	
記号	種別
——	任意踏査ルート（直接観察） 春季　夏季　秋季　ホタル類
●	ライトトラップ設置地点（LT）
●	ベイトトラップ設置地点（BT）
▭	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

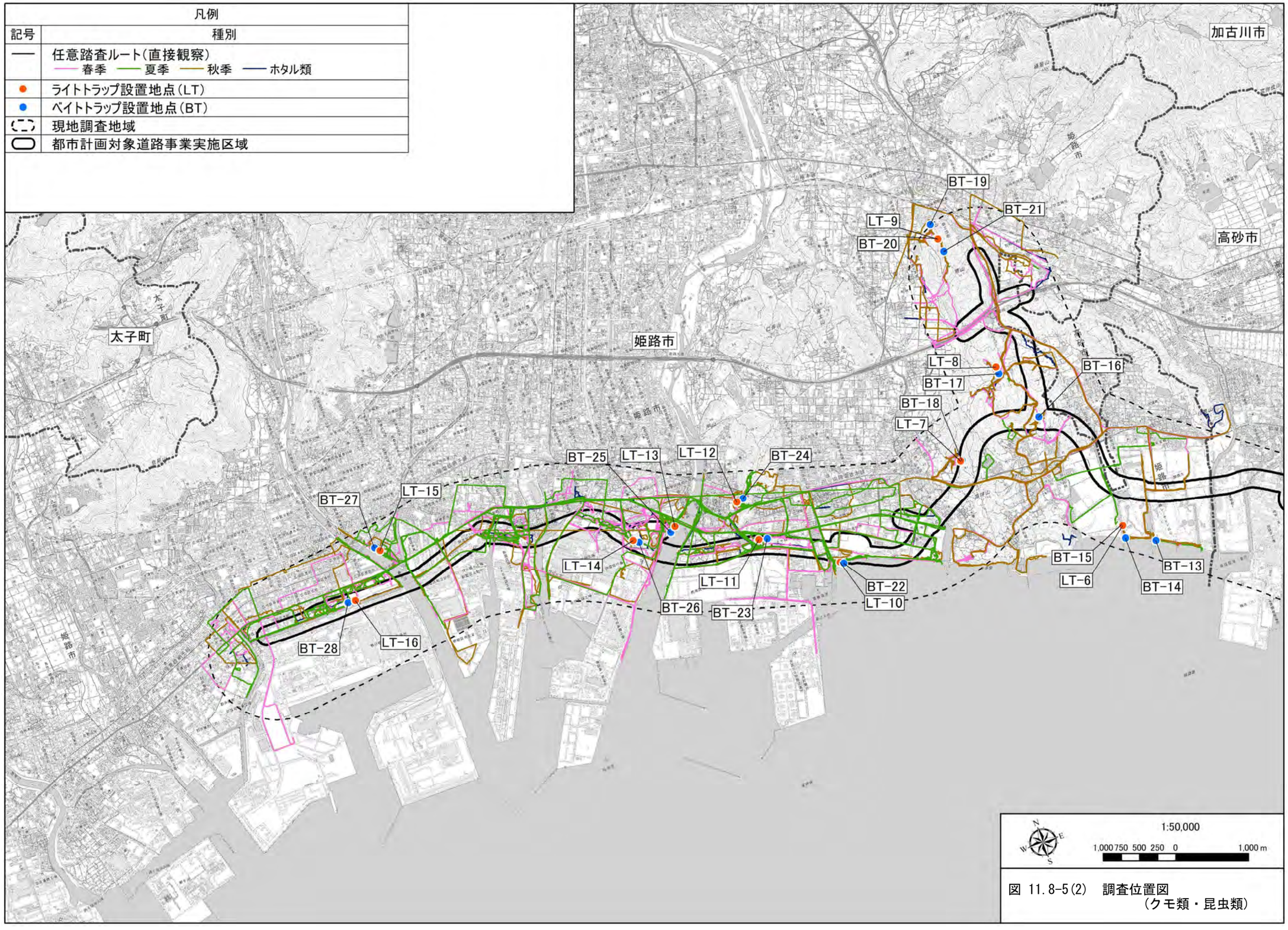


図 11.8-5(2)　調査位置図
（クモ類・昆虫類）

凡例	
記号	種別
●	調査地点（河川・水路）（R）
●	調査地点（ため池）（P）
●	調査地点（海岸）（C）
▭	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

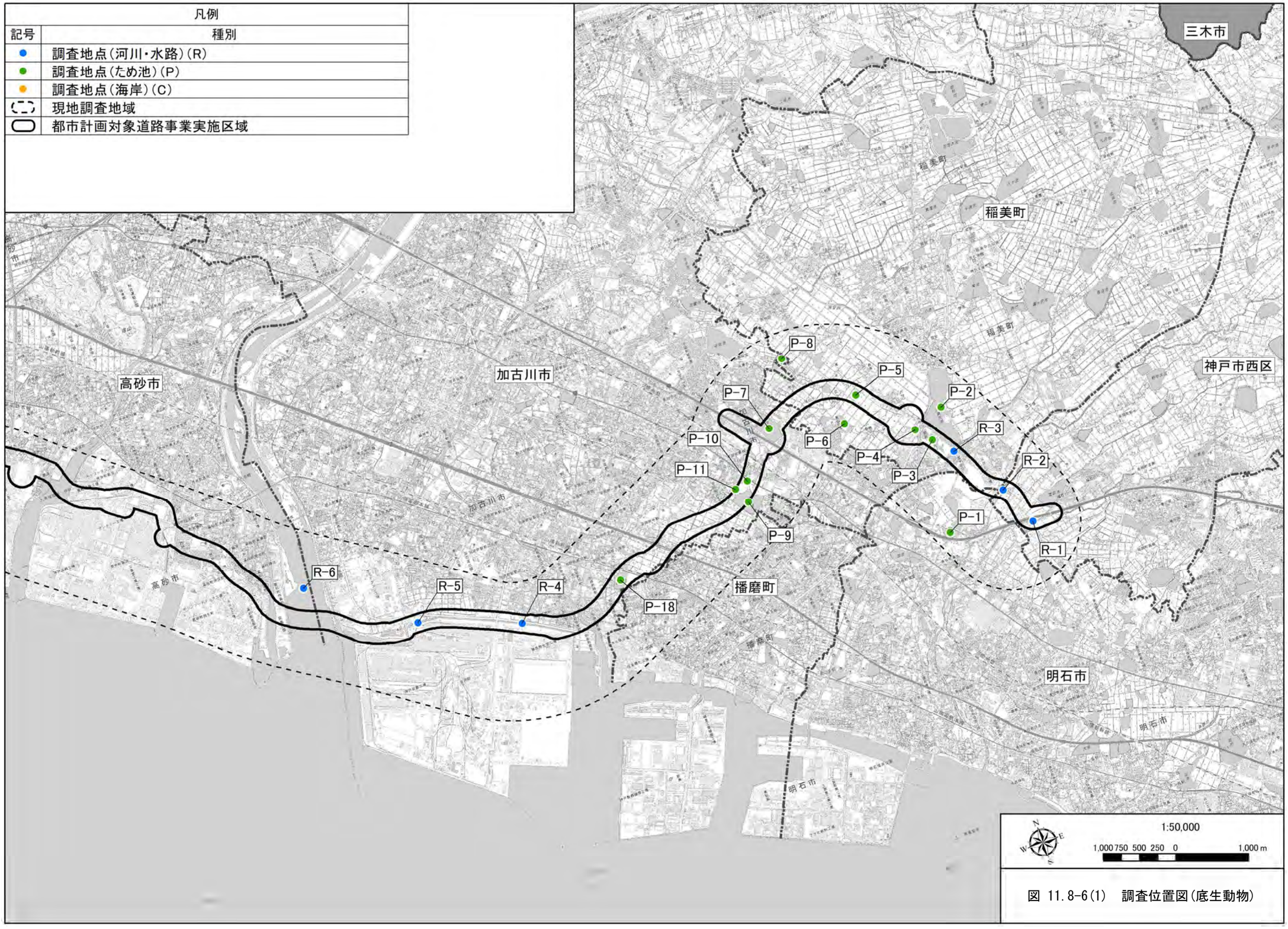


図 11.8-6(1)　調査位置図（底生動物）

凡例	
記号	種別
●	調査地点(河川・水路)(R)
●	調査地点(ため池)(P)
●	調査地点(海岸)(C)
▭	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

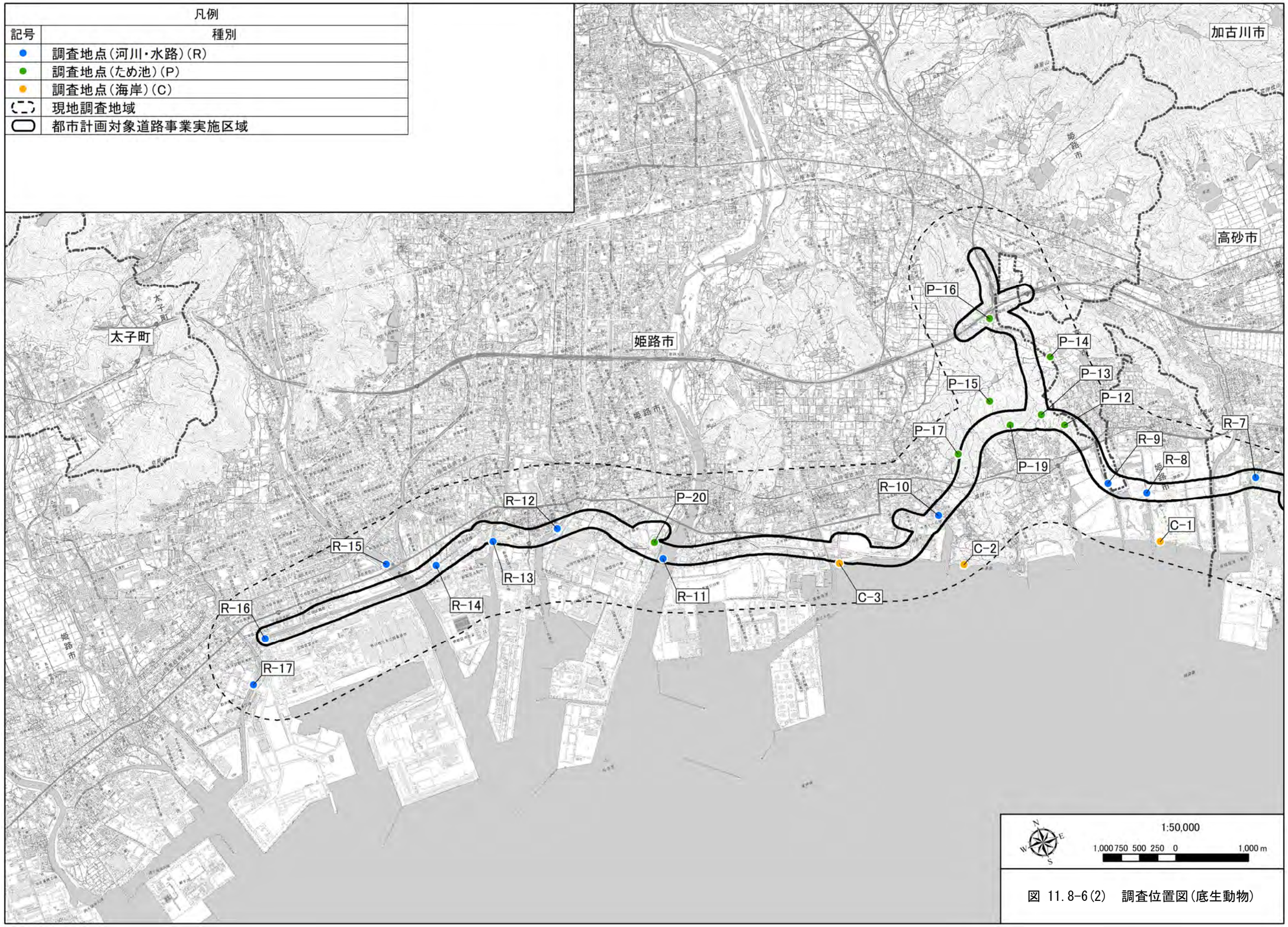


図 11.8-6(2)　調査位置図(底生動物)

凡例	
記号	種別
——	任意踏査ルート(直接観察) —— 夏季 —— 秋季
	現地調査地域
	都市計画対象道路事業実施区域

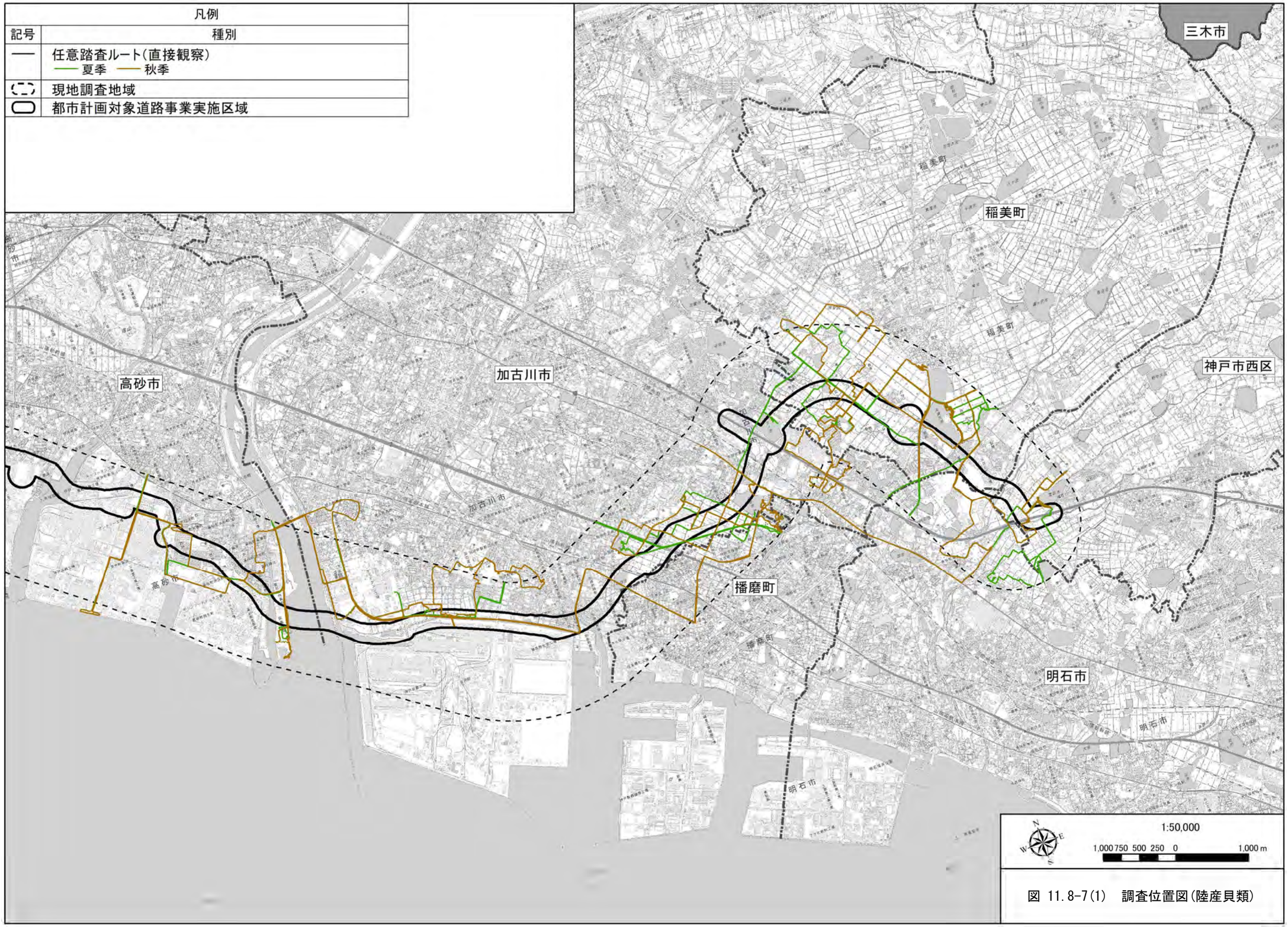


図 11.8-7(1)　調査位置図(陸産貝類)

凡例	
記号	種別
——	任意踏査ルート(直接観察) —— 夏季　—— 秋季
⬚	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

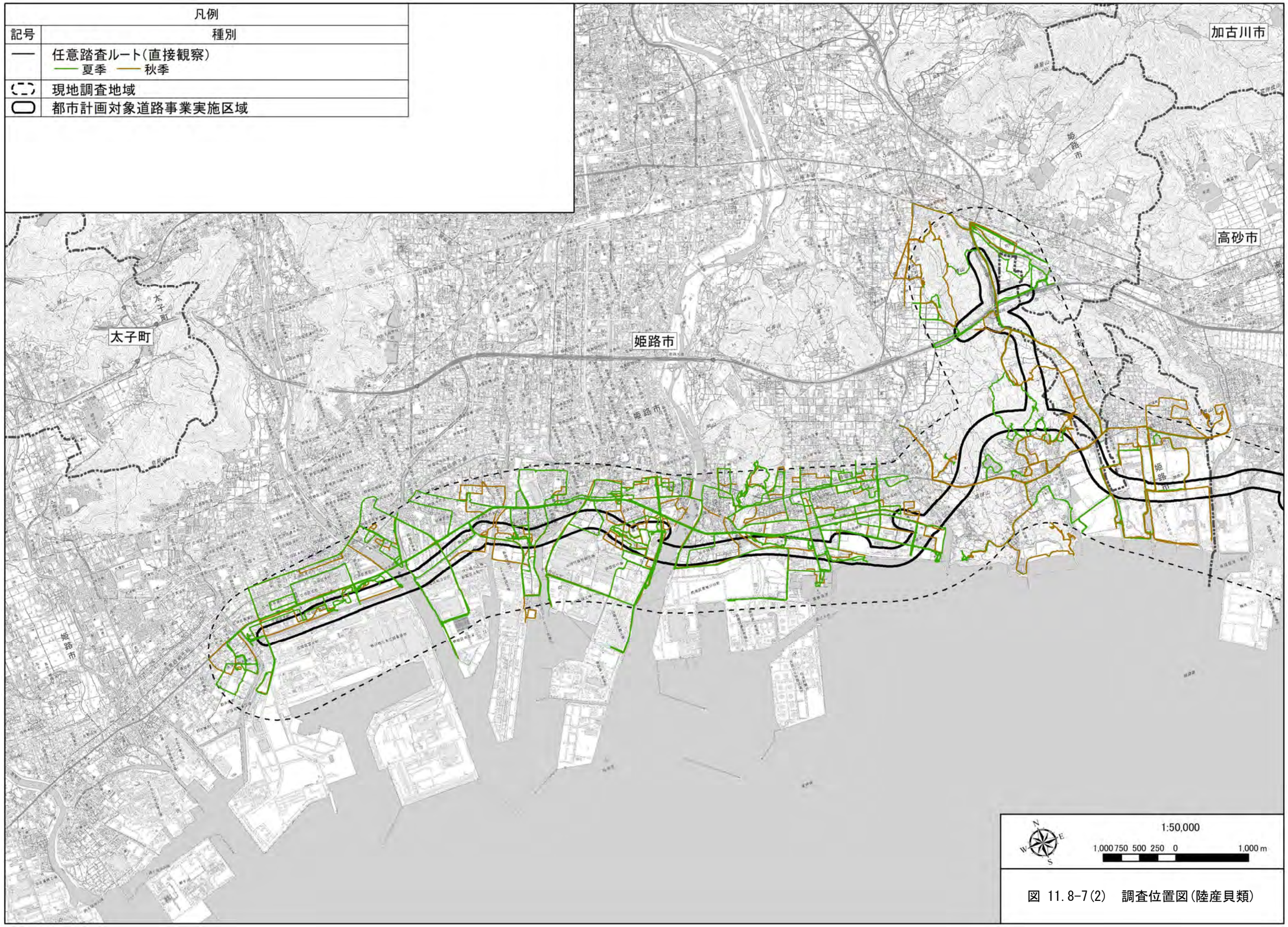


図 11.8-7(2)　調査位置図(陸産貝類)

⑤ 調査期間等

調査期間等は、表 11.8-13 に示すとおりです。

i）動物相の状況

調査期間等は、1 年間を基本とし、調査地域に生息する動物を確認しやすい時期・時間帯としました。

ii）重要な種等の状況

調査期間等は、重要な種等の生態を踏まえ、その生息の状況を確認しやすい時期・時間帯に設定しました。

表 11.8-13　調査期間等

項目	調査方法	調査実施時期
哺乳類	直接観察、フィールドサイン法 トラップによる捕獲 無人撮影調査 バットディテクター、ねぐら調査	秋季：令和2年9月10日、9月30日～10月2日、 10月12～16日 春季：令和3年5月17～21日、24～26日 夏季：令和3年7月19～21日、26～30日
鳥類	直接観察 ラインセンサス法 定点観察法	秋季：令和2年9月17日、10月5～7日 冬季：令和3年1月6～8日 春季：令和3年4月26日、28日、5月10～12日 夏季：令和3年6月7～9日、14～16日
	(猛禽類) 定点観察法 林内踏査	平成25年1月30～31日、2月1、20～22日、 3月4～6日、5月10～12日、26～28日、 6月10～12日、24～26日、 7月1、10～12日、20～22日 平成26年5月7～9日、26～28日、6月9～11日、 7月2～4日、16～18日 平成29年6月22日 平成30年2月15～16日、3月9～10日、 4月12～13日、5月10～11日、 6月12～13日、7月9～10日 平成31年2月7～8日、3月11～12日、 4月11～12日 令和元年5月13～14日、6月3～4日、 7月8～9日、11～12日 令和2年6月29日、7月14日 令和3年4月7日、7月2日 令和4年4月15日、7月8日 令和5年4月5日、7月10日
	(コウノトリ) ひょうたん池等における生息状況把握調査	春季：令和3年4月29日、5月31日 夏季：令和3年6月23日、7月30日
	(フクロウ・アオバズク等) 夜間の直接観察 コールバック法	秋季：令和2年10月5日 冬季：令和3年1月6日 春季：令和3年5月10日 夏季：令和3年6月14日
爬虫類・ 両生類	直接観察及び採取 カメトラップ	春季：令和3年5月17～21日、24～26日 夏季：令和3年7月19～21日、26～30日 秋季：令和2年9月30日～10月2日
	(止水性サンショウウオ類) 山地の谷部、水田周辺の止水環境の目視観察	冬季：令和3年2月15～18日、22日
魚類	直接観察及び採取 トラップ 遡上魚の捕獲調査(市川、夢前川、干潟等)	秋季：令和2年10月1～2日、7～8日 令和3年9月16日 早春季：令和3年3月8～9日 夏季：令和3年7月7～8日、15～16日、19～21日、 26～29日
クモ類・ 昆虫類	直接観察及び採取 ライトトラップ法 ベイトトラップ法	秋季：令和2年11月4～6日 令和5年9月25～26日 春季：令和3年5月12～14日、17～21日、27～28日、 6月9～10日 夏季：令和3年7月12～16日、19～21日、8月21日
	(ホタル類) 夜間の直接観察	春季：令和3年5月27～29日 初夏季：令和3年6月9～11日
底生動物	直接観察及び採取 コドラート法	秋季：令和2年10月1～2日、7～8日、 令和3年9月16日 春季：令和3年5月25～28日 夏季：令和3年6月24～25日 令和3年7月19～21日、26～30日
陸産貝類	直接観察及び採取	秋季：令和2年10月6～9日 夏季：令和3年6月22～25日、7月6～9日

(2) 調査結果

① 動物相の状況

i) 既存資料調査

調査区域における哺乳類の状況は、「第 4 章 4.1 自然的状況」に示すとおりです。

ii) 現地調査

A) 哺乳類

現地調査の結果、表 11.8-14 に示すとおり 6 目 11 科 15 種の哺乳類が確認されました。

表 11.8-14　動物相の状況の現地調査結果(哺乳類)

目名	科数	種数	種名
モグラ	2	2	ジネズミ、モグラ属
コウモリ	1	1	アブラコウモリ、ヒナコウモリ科
ウサギ	1	1	ノウサギ
ネズミ	2	4	アカネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ネズミ科、ヌートリア
ネコ	4	6	アライグマ、タヌキ、キツネ、シベリアイタチ、イタチ属、アナグマ、ハクビシン
ウシ	1	1	イノシシ
6 目	11 科	15 種	－

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

B) 鳥類

現地調査の結果、表 11.8-15 に示すとおり 17 目 40 科 132 種の鳥類が確認されました。

表 11.8-15　動物相の状況の現地調査結果(鳥類)

目名	科数	種数	種名
キジ	1	1	キジ
カモ	1	17	オシドリ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、アヒル、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ
カイツブリ	1	3	カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ
ハト	1	2	カワラバト(ドバト)、キジバト
アビ	1	1	オオハム
コウノトリ	1	1	コウノトリ
カツオドリ	1	1	カワウ
ペリカン	1	7	ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ
ツル	1	4	クイナ、ヒクイナ、バン、オオバン
カッコウ	1	1	ホトトギス
チドリ	4	24	ケリ、ムナグロ、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、セイタカシギ、ヤマシギ、タシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、トウネン、オジロトウネン、ハマシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ
タカ	2	6	ミサゴ、ハチクマ、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ
フクロウ	1	1	フクロウ
ブッポウソウ	1	1	カワセミ
キツツキ	1	3	アリスイ、コゲラ、アカゲラ
ハヤブサ	1	3	チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ
スズメ	20	56	サンショウクイ、リュウキュウサンショウクイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、シロガシラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、メボソムシクイ上種、オオムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、ソウシチョウ、メジロ、オオヨシキリ、セッカ、ハッカチョウ、ムクドリ、クロツグミ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、アトリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、イカル、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、クロジ、オオジュリン
17 目	40 科	132 種	―

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

C) 爬虫類・両生類

現地調査の結果、爬虫類は表 11.8-16 に示すとおり 2 目 8 科 10 種、両生類は表 11.8-17 に示すとおり 2 目 4 科 7 種が確認されました。

表 11.8-16 動物相の状況の現地調査結果(爬虫類)

目名	科数	種数	種名
カメ	3	3	クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンスッポン
有鱗	5	7	ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ニホンマムシ
2 目	8 科	10 種	―

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

表 11.8-17 動物相の状況の現地調査結果(両生類)

目名	科数	種数	種名
有尾	1	1	セトウチサンショウウオ
無尾	3	6	ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ウシガエル、ヌマガエル
2 目	4 科	7 種	―

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

D) 魚類

現地調査の結果、表 11.8-18 に示すとおり 14 目 37 科 74 種の魚類が確認されました。

表 11.8-18 動物相の状況の現地調査結果(魚類)

目名	科数	種数	種名
カライワシ	1	1	カライワシ
ウナギ	2	2	ニホンウナギ、マアナゴ
ニシン	2	3	サッパ、コノシロ、カタクチイワシ
コイ	2	11	コイ(型不明)、ゲンゴロウブナ、タイリクバラタナゴ、オイカワ、カワムツ、ヌマムツ、モツゴ、タモロコ、ニゴイ属、スゴモロコ類、ドジョウ
ナマズ	2	2	ナマズ、ゴンズイ
サケ	2	2	アユ、シラウオ
トゲウオ	1	1	ガンテンイシヨウジ
ボラ	1	2	ボラ、メナダ
トウゴロウイワシ	1	1	トウゴロウイワシ
カダヤシ	1	1	カダヤシ
ダツ	3	3	ミナミメダカ、クルメサヨリ、ダツ
スズキ	16	42	タケノコメバル、マゴチ、スズキ、ブルーギル、オオクチバス、ヒイラギ、コショウダイ、クロダイ、キチヌ、シログチ、シロギス、コトヒキ、シマイサキ、アナハゼ、トサカギンポ、イダテンギンポ、ミミズハゼ、イソミミズハゼ、ヒモハゼ、シロウオ、トビハゼ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、マサゴハゼ、ヌマチチブ、チチブ、ヒナハゼ、ゴクラクハゼ、シマヒレヨシノボリ、ヨシノボリ属、ウロハゼ、ツマグロスジハゼ、スジハゼ、ヒメハゼ、ウキゴリ、ビリンゴ、チクゼンハゼ、クボハゼ、エドハゼ、クロホシマンジュウダイ、アイゴ、カムルチー
カレイ	2	2	イシガレイ、クロウシノシタ
フグ	1	1	クサフグ
14 目	37 科	74 種	―

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

E) クモ類・昆虫類

現地調査の結果、クモ類は表 11.8-19 に示すとおり 1 目 30 科 187 種、昆虫類は表 11.8-20 に示すとおり 23 目 287 科 1,686 種が確認されました。

表 11.8-19　動物相の状況の現地調査結果(クモ類)

目名	科数	種数	種名
クモ	30	187	ジグモ、キノボリトタテグモ、ユカタヤマシログモ、ユウレイグモ、ダニグモ、ヒラタグモ、チリグモ、オウギグモ、チビホラヒメグモ、アシブトヒメグモ、ハラジロムナキグモ、ジョロウグモ、オニグモ等
1 目	30 科	187 種	―

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

表 11.8-20(1)　動物相の状況の現地調査結果(昆虫類)

目名	科数	種数	種名
トビムシ	4	4	ツチトビムシ科、トゲトビムシ科、アヤトビムシ科、マルトビムシ科
コムシ	1	1	ハサミコムシ科
イシノミ	1	1	イシノミ科
シミ	1	1	クロサアリシミ
カゲロウ	3	4	トウヨウモンカゲロウ、ヒメシロカゲロウ属、フタバコカゲロウ、D コカゲロウ
トンボ	8	39	アオイトトンボ、キイトトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、コオニヤンマ、オニヤンマ、オオヤマトンボ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、チョウトンボ、ナツアカネ等
ゴキブリ	2	5	クロゴキブリ、トルキスタンゴキブリ、モリチャバネゴキブリ、ツチゴキブリ本土亜種、ヒメクロゴキブリ
カマキリ	1	4	ハラビロカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリ、オオカマキリ
シロアリ	1	1	ヤマトシロアリ
ハサミムシ	4	7	ヒゲジロハサミムシ、コバネハサミムシ、コヒゲジロハサミムシ、ハマベハサミムシ、ミジンハサミムシ、エゾハサミムシ、オオハサミムシ
カワゲラ	2	2	オナシカワゲラ属、スズキクサカワゲラ
バッタ	12	53	ツユムシ、ホシササキリ、ケラ、スズムシ、アオマツムシ、マツムシ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、ハネナガイナゴ、オンブバッタ、トゲヒシバッタ等
ナナフシ	1	1	ナナフシモドキ
カジリムシ	3	6	*Trichadenotecnum* 属、キモンケチャタテ、*Valenzuela scriptus*、ブリッグスウスイロチャタテ、ジョウザンチャタテ、クロミャクチャタテ
アザミウマ	1	1	クダアザミウマ科
カメムシ	44	251	ヒメトビウンカ、ツマグロスケバ、ヒメベッコウハゴロモ、チッチゼミ、トバヨコバイ、アブラムシ科、ヨコヅナサシガメ、アワダチソウグンバイ、ホソヘリカメムシ、エサキアメンボ、チビミズムシ属、コマツモムシ等
ラクダムシ	1	1	ラクダムシ
アミメカゲロウ	6	19	オガタヒロバカゲロウ、ミズカゲロウ、ヤマトクサカゲロウ、セボシクサカゲロウ、アトコバネコナカゲロウ、ミヤマヒメカゲロウ、ミドリヒメカゲロウ、カスリウスバカゲロウ等
トビケラ	7	10	ムネカクトビケラ、コガタシマトビケラ、ヒメクダトビケラ属、マツイヒメトビケラ、オグラヒメトビケラ、ニンギョウトビケラ、カクツツトビケラ属、アオヒゲナガトビケラ等

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

表 11.8-20(2)　動物相の状況の現地調査結果(昆虫類)

目名	科数	種数	種名
チョウ	35	254	キマダラコウモリ、チャミノガ、キバガ科、ヒロヘリアオイラガ、イチモンジセセリ、ルリシジミ、ツマグロヒョウモン、クロヒカゲ本土亜種、アオスジアゲハ、キタキチョウ、ツトガ、カブラヤガ等
ハエ	51	246	ホソバネヒメガガンボ、ヒシモンユスリカ、キンパラナガハシカ、アメリカミズアブ、ウシアブ、アオメアブ、スキバツリアブ、ホソヒラタアブ、ヒゲナガヤチバエ等
コウチュウ	69	605	ミイデラゴミムシ、キイロチビゴモクムシ、ヨドシロヘリハンミョウ、ハイイロゲンゴロウ、キイロヒラタガムシ、ミヤマクワガタ、コアオハナムグリ、ヘイケボタル、ナナホシテントウ、キクスイカミキリ、ヤサイゾウムシ等
ハチ	29	170	ハグロハバチ、オオハリアリ、アメイロアリ、オオスズメバチ、キオビツチバチ、アメリカジガバチ、セイヨウミツバチ、アカガネコハナバチ、キヌゲハキリバチ等
23 目	287 科	1,686 種	－

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

F) 底生動物

現地調査の結果、表 11.8-21 に示すとおり 68 目 213 科 417 種の底生動物が確認されました。

表 11.8-21(1)　動物相の状況の現地調査結果(底生動物)

目名	科数	種数	種名
イソカイメン	1	2	ナミイソカイメン、ダイダイイソカイメン
ザラカイメン	1	1	ヨワカイメン
ウミエラ	1	1	ウミサボテン
イソギンチャク	2	2	ヨロイイソギンチャク、タテジマイソギンチャク
三岐腸	1	2	ナミウズムシ、アメリカナミウズムシ
ヒラムシ	1	1	ヒラムシ目(多岐腸目)
－	1	1	ホソヒモムシ科
異紐虫	1	1	リネウス科
単針	1	1	単針目
クサズリガイ	4	5	ウスヒザラガイ、ヤスリヒザラガイ、ババガセ、ヒメケハダヒザラガイ、ヒザラガイ
カサガイ	2	9	マツバガイ、ヨメガカサガイ、コモレビコガモガイ、コウダカアオガイ、カスリアオガイ、ツボミガイ、ヒメコザラガイ、シボリガイ、ウノアシ
古腹足	4	7	イシダタミガイ、イボキサゴ、スガイ、サザエ、クマノコガイ、コシダカガンガラ、トコブシ
アマオブネガイ	2	2	イシマキガイ、ミヤコドリガイ
新生腹足	21	35	スクミリンゴガイ、オオタニシ、ヒメタニシ、ホソウミニナ、チリメンカワニナ、フトヘナタリガイ、タマキビガイ、タマツボ、ヒラドカワザンショウガイ、ツメタガイ、アカニシ等
裸側	2	2	ヤマトウミウシ、マダラウミウシ
真後鰓	4	6	*Acteocina* 属、コメツブガイ、*Retusa* 属、キセワタガイ、ヨコヤマキセワタ、ブドウガイ
汎有肺	6	16	カラマツガイ、カキウラクチキレモドキ、イソアワモチ、コシダカヒメモノアラガイ、サカマキガイ、ヒラマキミズマイマイ、カワコザラガイ属等
柄眼	1	1	ナガオカモノアラガイ
フネガイ	1	1	カリガネエガイ
イガイ	1	7	ホトトギスガイ、カワヒバリガイ、タマエガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、クログチガイ等

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

表 11.8-21(2)　動物相の状況の現地調査結果(底生動物)

目名	科数	種数	種名
ウグイスガイ	1	2	マガキ、ケガキ
イタヤガイ	1	1	ナミマガシワガイ
マルスダレガイ	15	25	マルハナシガイ、キヌマトイガイ、タガソデガイ、ヤマトシジミ、チゴトリガイ、アサリ、ユウシオガイ、ヒメシラトリガイ、イソシジミ、マテガイ、バカガイ等
異靭帯	1	1	ソトオリガイ
オオノガイ	1	2	オオノガイ、クシケマスオガイ
サシバゴカイ	10	32	ウロコムシ属、サミドリサシバ、マイヅルチロリ、ヤマトキョウスチロリ、ハナオカカギゴカイ、ミドリシリス、ヒメヤマトカワゴカイ、ミナミシロガネゴカイ等
ウミケムシ	1	1	*Amphinome* 属
イソメ	5	6	スゴカイイソメ、*Marphysa* 属、カタマガリギボシイソメ、コアシギボシイソメ、セグロイソメ、*Schistomeringos* 属
ホコサキゴカイ	1	1	ホコサキゴカイ科
スピオ	2	12	ケンサキスピオ、シノブハネエラスピオ、*Polydora* 属、ヤマトスピオ、イトエラスピオ、フタエラスピオ、*Pseudopolydora* 属、アカテンスピオ、ミズヒキゴカイ等
イトゴカイ	3	6	イトゴカイ属、*Heteromastus* 属、*Mediomastus* 属、*Notomastus* 属、タマシキゴカイ、ナガオタケフシゴカイ
オフェリアゴカイ	1	1	ツツオオフェリア
フサゴカイ	3	6	ガンゼキフサゴカイ、*Nicolea* 属、*Streblosoma* 属、*Thelepus* 属、オクダウミイサゴムシ、*Asabellides* 属
ケヤリムシ	2	7	クビワケヤリムシ属、ケヤリムシ、ホンケヤリムシ属、カニヤドリカンザシゴカイ、エゾカサネカンザシゴカイ、ヤッコカンザシゴカイ、イバラカンザシゴカイ
ヒメミミズ	1	1	ナガハナコヒメミミズ
イトミミズ	1	2	エラオイミズミミズ、エラミミズ
厚環帯	1	1	イソミミズ
吻蛭	2	2	ヌマビル、ヌマエラビル
吻無蛭	2	2	シマイシビル、ヌマイシビル
フクロホシムシ	1	1	クロホシムシ
サメハダホシムシ	1	1	アンチラサメハダホシムシ
Scalpelliformes	1	1	カメノテ
無柄	2	8	クロフジツボ、タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、サラサフジツボ、サンカクフジツボ、シロスジフジツボ、ドロフジツボ
コノハエビ	1	1	コノハエビ
タナイス	1	2	キスイタナイス、ゼウクソ属
クーマ	1	1	クーマ属
ヨコエビ	16	24	ヘッピリモクズ属、ヒメハマトビムシ属、ニッポンドロソコエビ、アリアケドロクダムシ、トゲワレカラ、ホソヨコエビ、シミズメリタヨコエビ、ボンタソコエビ等
ワラジムシ	8	11	スナウミナナフシ属、ミズムシ(甲)、ウミミズムシ、ホソヘラムシ、ヒメスナホリムシ、エビノコバン、ハバヒロコツブムシ、イソコツブムシ属、フナムシ等
アミ	1	2	ムカシアミ属、クロイサザアミ
エビ	25	62	ヨシエビ、ミゾレヌマエビ、テナガエビ、テッポウエビ、アメリカザリガニ、ユビナガホンヤドカリ、ヨコヤアナジャコ、マメコブシガニ、クロベンケイガニ、モクズガニ等
カゲロウ	1	4	サホコカゲロウ、フタバカゲロウ属、ウスイロフトヒゲコカゲロウ、ウデマガリコカゲロウ
トンボ	5	15	クロイトトンボ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、オオヤマトンボ、ショウジョウトンボ、コフキトンボ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボ等

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和6年度生物リスト)」(令和6年10月、国土交通省)に従いました。

表 11.8-21(3)　動物相の状況の現地調査結果(底生動物)

目名	科数	種数	種名
カメムシ	7	15	アメンボ、ナガレカタビロアメンボ、オオミズムシ、クロチビミズムシ、オモナガコミズムシ、コオイムシ、タイコウチ、ヒメミズカマキリ、マツモムシ、マルミズムシ等
トビケラ	4	4	コガタシマトビケラ、ミヤマイワトビケラ属、ヒメトビケラ属、カクツツトビケラ属
ハエ	3	15	クロユスリカ、ユスリカ属、ホソミユスリカ属、オオミドリユスリカ、ミナミユスリカ、エリユスリカ属、ハモンユスリカ属、ヒゲユスリカ属、ホソカ属、*Odontomyia* 属等
コウチュウ	4	15	ハイイロゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、タマガムシ、キイロヒラタガムシ、コガムシ、ヒメガムシ、トビイロマルハナノミ属、イブシアシナガドロムシ等
ホウキムシ	1	1	*Phoronis* 属
舌殻	2	2	シャミセンガイ属、スズメガイダマシ属
唇口	4	4	チゴケムシ、フサコケムシ、ホソフサコケムシ、モングチコケムシ
ヒメヒトデ	1	1	イトマキヒトデ
キヒトデ	1	1	キヒトデ
モミジガイ	1	1	トゲモミジガイ
ハナビラクモヒトデ	1	2	ナガトゲクモヒトデ、トゲクモヒトデ
楯手	1	1	マナマコ
無足	1	1	イカリナマコ科
ホンウニ	3	3	サンショウウニ属、バフンウニ、ムラサキウニ
マメボヤ	2	2	ウスボヤ科、ザラボヤ
マボヤ	1	2	フタスジボヤ、シロボヤ
68 目	213 科	417 種	－

注) 種名及び分類順は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年 10 月、国土交通省)に従いました。

G) 陸産貝類

現地調査の結果、表 11.8-22 に示すとおり 2 目 15 科 40 種の陸産貝類が確認されました。

表 11.8-22　動物相の状況の現地調査結果(陸産貝類)

目名	科数	種数	種名
中腹足	1	1	アズキガイ
柄眼	14	39	ヒメオカモノアラガイ、チョウセンスナガイ、マルナタネガイ、ミジンマイマイ、ナミギセル、オカチョウジガイ、ナタネガイ、ヒメコハクガイ、コハクガイ、ナメクジ、ヤマナメクジ、チャコウラナメクジ、ヒメベッコウガイ、ヒメカサキビ、ニッポンマイマイ、コソバマイマイ等
2 目	15 科	40 種	－

注) 種名及び分類順は、原則として「種の多様性調査(動物分布調査)対象種一覧 陸産貝類」(平成 14 年、環境省)に従いました。

② 重要な種等の状況

重要な種は、表 11.8-23～表 11.8-31 に示すとおり、既存資料調査及び現地調査により、哺乳類 25 種、鳥類 189 種、爬虫類 12 種、両生類 14 種、魚類 63 種、クモ類 17 種、昆虫類 343 種、底生動物 163 種、陸産貝類 42 種が確認されました。

注目すべき生息地は、表 11.8-32 に示すとおり、既存資料調査及び現地調査により、夢前川右岸の水路(昆虫類)、加古川河口(底生動物)、加古川河口周辺(鳥類、魚類、昆虫類、甲殻類等、貝類、その他無脊椎動物)、いなみの台地のため池群(鳥類、魚類、昆虫類(水生昆虫))、加古川河口・下流域(鳥類、昆虫類、底生動物)、市川河口・下流域(魚類、底生動物)、夢前川河口・下流域(昆虫類)、姫路市東部の自然海浜(底生動物)が確認されました。

なお、重要な種等の位置は保護上の観点から分布表示はしません。

表 11.8-23　重要な種の状況(哺乳類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	トガリネズミ	ジネズミ					注	B		○	○
2		カワネズミ					注	調		○	
3	モグラ	ヒミズ						B		○	
4		ミズラモグラ			NT		調			○	
5		コウベモグラ						B	A	○	
―		モグラ属[注2)]						B*1)	A*1)		○
6	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ(ニホンコキクガシラコウモリ)					調	調		○	
7		キクガシラコウモリ					調	調		○	
8	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ					調	調		○	
9		ヒナコウモリ					調			○	
10		ユビナガコウモリ					調	調		○	
11		テングコウモリ					調	調		○	
12	リス	ニホンリス						B		○	
13		ニホンモモンガ					A	調		○	
14		ムササビ					A	A		○	
15	ネズミ	スミスネズミ					調	A		○	
16		ハタネズミ						A		○	
17		アカネズミ						C		○	○
18		ヒメネズミ						B		○	
19		カヤネズミ						B	A	○	○
20	クマ	ツキノワグマ			LP		注			○	
21	イヌ	タヌキ							B	○	○
22		キツネ						調	B	○	○
23	イタチ	テン(ホンドテン)						調		○	
24		ニホンイタチ						調		○	
―		イタチ属[注3)]						調*2)			○
25		アナグマ						B	B	○	○
	9 科	25 種	0 種	0 種	2 種	0 種	13 種	21 種	5 種	25 種	8 種

注 1) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。
注 2) モグラ属は、コウベモグラと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。
*1) コウベモグラの場合に該当するランクを示しました。
注 3) イタチ属は、ニホンイタチと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。
*2) ニホンイタチの場合に該当するランクを示しました。

表 11.8-24(1)　重要な種の状況(鳥類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	キジ	ウズラ			VU		A	越冬：調		○	
2		ヤマドリ					注	繁殖：調		○	
3	カモ	ヒシクイ	国		VU		B			○	
4		マガン	国		NT		C			○	
5		コクガン	国		VU		注		B	○	
6		コハクチョウ					C			○	
7		オオハクチョウ					B			○	
8		ツクシガモ			VU		注		B	○	
9		オシドリ			DD		B	越冬：C		○	○
10		ヨシガモ						越冬：C		○	○
11		アメリカヒドリ					C			○	
12		シマアジ					C	通過：C		○	○
13		トモエガモ			VU		C	越冬：B	A	○	
14		シノリガモ					B	越冬：調		○	
15		ビロードキンクロ					B	越冬：調		○	
16		クロガモ					C			○	○
17		ホオジロガモ					注			○	
18	ハト	カラスバト	国		NT					○	
19	アビ	アビ					調			○	
20		オオハム					調			○	○
21		シロエリオオハム					調			○	
22	コウノトリ	コウノトリ	特別	国内	CR		A			○	○
23	カツオドリ	アカアシカツオドリ			EN					○	
24	ウ	ヒメウ			EN		B		B	○	
25	サギ	サンカノゴイ			EN		A			○	
26		ヨシゴイ			NT		A	繁殖：A	A	○	
27		オオヨシゴイ		国内	CR		調			○	
28		ミゾゴイ			VU		A	繁殖：A		○	
29		ゴイサギ						繁殖：B		○	○
30		ササゴイ					C	繁殖：B	調	○	○
31		アマサギ						繁殖：B		○	○
32		ダイサギ						繁殖：B		○	○
33		チュウサギ			NT		C	繁殖：B	B	○	○
34		コサギ						繁殖：B		○	○
35		クロサギ					B			○	
36		カラシラサギ			NT		注			○	
37	トキ	クロトキ			DD					○	
38		ヘラサギ			DD		C		調	○	
39		クロツラヘラサギ		国内	EN		C		A	○	
40	クイナ	クイナ					B	越冬：B	B	○	○
41		ヒメクイナ					調			○	
42		ヒクイナ			NT		B	繁殖：B 越冬：C		○	○
43	カッコウ	ジュウイチ					C	通過：C		○	
44		ホトトギス						繁殖：B		○	○
45		ツツドリ						繁殖：B		○	
46		カッコウ					注	通過：C		○	
47	ヨタカ	ヨタカ			NT		A	繁殖：B	B	○	
48	アマツバメ	ヒメアマツバメ					B			○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-24(2)　重要な種の状況(鳥類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
49	チドリ	タゲリ						越冬：B		○	
50		ケリ			DD					○	○
51		ムナグロ						通過：C		○	○
52		ダイゼン					C			○	
53		イカルチドリ					B	繁殖：B 越冬：B	調	○	○
54		コチドリ						繁殖：C		○	○
55		シロチドリ			VU		A	繁殖：B 越冬：B	A	○	○
56		オオメダイチドリ					B			○	
57	ミヤコドリ	ミヤコドリ					C			○	
58	セイタカシギ	セイタカシギ			VU		B	通過：B	B	○	○
59	シギ	ヤマシギ					B	越冬：C		○	○
60		アオシギ					B	越冬：B		○	
61		オオジシギ			NT		B	通過：B		○	
62		ハリオシギ						通過：調		○	
63		チュウジシギ					B	通過：B		○	
64		タシギ					C	越冬：B		○	○
65		オオハシシギ							調	○	
66		オグロシギ					B	通過：B	B	○	
67		オオソリハシシギ			VU		B			○	
68		コシャクシギ			EN					○	
69		チュウシャクシギ						通過：B		○	○
70		ダイシャクシギ					B			○	
71		ホウロクシギ			VU		B			○	
72		ツルシギ			VU		B	通過：B		○	
73		アカアシシギ			VU		B	通過：B	B	○	
74		コアオアシシギ					B	通過：B	調	○	
75		アオアシシギ					B	通過：B		○	○
76		クサシギ						越冬：C		○	○
77		タカブシギ			VU		B	通過：C	B	○	○
78		キアシシギ						通過：B	B	○	○
79		ソリハシシギ					B	通過：B	調	○	
80		イソシギ					C			○	○
81		キョウジョシギ					C		B	○	
82		オバシギ					B			○	
83		コオバシギ					B			○	
84		ミユビシギ					B			○	
85		トウネン						通過：B		○	○
86		オジロトウネン					B	越冬：B	B	○	○
87		ヒバリシギ					B	通過：B		○	
88		ウズラシギ					B	通過：B		○	
89		サルハマシギ					B			○	
90		ハマシギ			NT		C	越冬：C	B	○	○
91		ヘラシギ		国内	CR		B			○	
92		キリアイ					B			○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-24(3)　重要な種の状況(鳥類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
93	シギ	エリマキシギ					B			○	
94		アカエリヒレアシシギ					調	通過：B		○	
95	タマシギ	タマシギ			VU		B	繁殖：B 越冬：B	A	○	
96	ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU		B	通過：C		○	
97	カモメ	ミツユビカモメ					調			○	
98		ズグロカモメ			VU		B		B	○	○
99		オオセグロカモメ			NT					○	○
100		オオアジサシ			VU		注		調	○	
101		コアジサシ			VU		A	繁殖：B	A	○	
102		ベニアジサシ			VU					○	
103		アジサシ					調	通過：C	調	○	
104		クロハラアジサシ					注			○	
105		ハジロクロハラアジサシ					調			○	
106	ウミスズメ	マダラウミスズメ			DD		調		調	○	
107		ウミスズメ			CR		C	越冬：調	調	○	
108		カンムリウミスズメ	国		VU		注		調	○	
109	ミサゴ	ミサゴ			NT		B	繁殖：A 越冬：C	A	○	○
110	タカ	ハチクマ			NT		B	繁殖：B	B	○	○
111		オジロワシ	国	国内	VU		B			○	
112		オオワシ	国	国内	VU					○	
113		チュウヒ		国内	EN		A	越冬：A		○	
114		ハイイロチュウヒ					C			○	
115		ツミ					B	繁殖：調 越冬：C	調	○	
116		ハイタカ			NT		C	越冬：C		○	○
117		オオタカ			NT		B	繁殖：B 越冬：C	A	○	○
118		サシバ			VU		B	繁殖：A	B	○	
119		ノスリ					B	越冬：C		○	○
120		ケアシノスリ					B			○	
121		イヌワシ	国	国内	EN		A			○	
122		クマタカ		国内	EN		A			○	
123	フクロウ	オオコノハズク					B	越冬：C	調	○	
124		コノハズク					A			○	
125		フクロウ						繁殖：B 越冬：B	B	○	○
126		アオバズク					B	繁殖：B	A	○	
127		トラフズク					B	越冬：B		○	
128		コミミズク					B	越冬：B	調	○	
129	ヤツガシラ	ヤツガシラ					注			○	
130	カワセミ	アカショウビン					B	繁殖：調 通過：C		○	
131		カワセミ					注		A	○	○
132		ヤマセミ					A	繁殖：A 越冬：A		○	
133	ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN		A	通過：C		○	
134	キツツキ	アリスイ					B	越冬：C		○	○
135		オオアカゲラ					B			○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-24(4)　重要な種の状況(鳥類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
136	キツツキ	アカゲラ					注	越冬：C		○	○
137		ミユビゲラ		国内	CR					○	
138		アオゲラ					注	繁殖：C 越冬：C		○	
139	ハヤブサ	チョウゲンボウ						繁殖：A		○	○
140		コチョウゲンボウ					C	越冬：B		○	○
141		チゴハヤブサ					C			○	
142		ハヤブサ		国内	VU		B	繁殖：A 越冬：C	B	○	○
143	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内	EN		注	繁殖：調 通過：調		○	
144	サンショウクイ	サンショウクイ			VU		注	繁殖：B		○	○
145	カササギヒタキ	サンコウチョウ						繁殖：C	調	○	
146	モズ	チゴモズ			CR		調			○	
147		アカモズ		国内	EN		C			○	
148	カラス	オナガ					Ex			○	
149		コクマルガラス					注			○	
150	ツリスガラ	ツリスガラ					B	越冬：C		○	
151	シジュウカラ	コガラ					注			○	
－	ムシクイ	メボソムシクイ上種[注2)]			DD*1		B*2)				○
152		オオムシクイ			DD					○	○
153		メボソムシクイ					B			○	
154	センニュウ	マキノセンニュウ			NT		調			○	
155		シマセンニュウ					注			○	
156		オオセッカ		国内	EN					○	
157		エゾセンニュウ					調			○	
158	ヨシキリ	オオヨシキリ					注	繁殖：B	B	○	○
159		コヨシキリ					C	通過：B		○	
160	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ					C			○	
161	キバシリ	キバシリ					A			○	
162	ミソサザイ	ミソサザイ						繁殖：C		○	
163	ムクドリ	コムクドリ					注			○	
164	カワガラス	カワガラス					C	繁殖：B 越冬：B		○	
165	ヒタキ	マミジロ					B			○	
166		トラツグミ						繁殖：C		○	
167		コマドリ					A			○	
168		コルリ					A			○	
169		ルリビタキ					A			○	○
170		ジョウビタキ					注			○	○
171		ノビタキ					A			○	○
172		コサメビタキ					C			○	○
173		キビタキ					注		B	○	○
174		オジロビタキ					注			○	
175		オオルリ					注		調	○	○

注 1) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。
注 2) メボソムシクイ上種は、オオムシクイ又はメボソムシクイと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。
*1) オオムシクイの場合に該当するランクを示します。
*2) メボソムシクイの場合に該当するランクを示します。

表 11.8-24(5)　重要な種の状況(鳥類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
176	イワヒバリ	カヤクグリ					A	越冬：C		○	
177	スズメ	ニュウナイスズメ					注			○	
178	セキレイ	セグロセキレイ							調	○	○
179		ムネアカタヒバリ					調			○	
180	アトリ	ベニヒワ					調			○	
181		オオマシコ					注	越冬：調		○	
182		イスカ					注			○	
183		コイカル					C			○	
184	ホオジロ	ホオアカ					A	越冬：C		○	○
185		ノジコ			NT		A	通過：C		○	
186		アオジ					A			○	○
187		クロジ					A	越冬：C		○	○
188		コジュリン			VU					○	
189		オオジュリン						越冬：C		○	○
	50 科	189 種	9 種	14 種	66 種	0 種	154 種	93 種	49 種	189 種	60 種

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-25　重要な種の状況(爬虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	ウミガメ	アカウミガメ			EN		A	A	A	○	
2	イシガメ	ニホンイシガメ			NT		C	A	A	○	
3	スッポン	ニホンスッポン			DD		調	C		○	○
4	ヤモリ	ニホンヤモリ					注			○	○
5		タワヤモリ			NT		B	調		○	
6	トカゲ	ニホントカゲ							B	○	○
7	タカチホヘビ	タカチホヘビ					C	A		○	
8	ナミヘビ	シマヘビ						調		○	○
9		アオダイショウ						調		○	○
10		ジムグリ					注	B		○	
11		シロマダラ					C	B		○	
12		ヒバカリ					注	C	B	○	○
	7 科	12 種	0 種	0 種	4 種	0 種	9 種	10 種	4 種	12 種	6 種

注 1）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。
注 2）種名及び分類は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和 6 年度生物リスト)」(令和 6 年、国土交通省)に準じました。

表 11.8-26　重要な種の状況(両生類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ			NT		B	A		○	
2		セトウチサンショウウオ[注2)]		特二	VU		B	B	A	○	○
3	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特別		VU		B	調		○	
4	イモリ	アカハライモリ			NT		注	B		○	
5	ヒキガエル	ニホンヒキガエル					C	C		○	
6	アカガエル	タゴガエル					C	C		○	
7		ニホンアカガエル					C	C	A	○	○
8		ヤマアカガエル					C	調		○	
9		トノサマガエル			NT				B	○	○
10		ナゴヤダルマガエル[注3)]			EN		A	A	A	○	○
11		ツチガエル					C	B	A	○	
12	アオガエル	シュレーゲルアオガエル					C	C		○	
13		モリアオガエル					B	B		○	
14		カジカガエル					C	B		○	
	6科	14種	1種	1種	6種	0種	13種	13種	5種	14種	4種

注1) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。
注2) 既存資料調査ではカスミサンショウウオとして抽出しましたが、令和元年にセトウチサンショウウオに種名変更されたため、記載種名はセトウチサンショウウオとしました。
注3) 既存資料調査ではダルマガエルとして抽出しましたが、平成14年にナゴヤダルマガエルに種名変更されたため、記載種名はナゴヤダルマガエルとしました。

表 11.8-27(1)　重要な種の状況(魚類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種			VU		B	調		○	
2	マダラトビエイ	ナルトビエイ				NT				○	
3	ウナギ	ニホンウナギ			EN		C	C	B	○	○
4	コイ	ギンブナ						C	B	○	
5		ヤリタナゴ			NT		B	B	A	○	
6		アブラボテ			NT		C	調		○	
7		カネヒラ					B	調	調	○	
8		イチモンジタナゴ			CR		調	A		○	
9		シロヒレタビラ			EN		A	A		○	
10		ニッポンバラタナゴ			CR		A	A		○	
11		ワタカ			CR					○	
12		カワバタモロコ		特二	EN		A	A		○	
13		ハス			VU					○	
14		ヌマムツ							B	○	○
15		アブラハヤ					C			○	
16		カワヒガイ			NT		C	調		○	
－		ヒガイ類[注2)]			NT		C	調		○	
17		ムギツク						A		○	
18		ホンモロコ			CR					○	
19		ゼゼラ			VU		調			○	
20		カマツカ							B	○	
21		ツチフキ			EN		調			○	

注1) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。
注2) ヒガイ類は、カワヒガイと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。

表 11.8-27(2)　重要な種の状況(魚類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
22	コイ	イトモロコ						B	B	○	
23		スゴモロコ			VU					○	
24		コウライモロコ						C	B	○	
25	ドジョウ	ドジョウ			NT		注	C	A	○	○
26		オオシマドジョウ						B		○	
27		チュウガタスジシマドジョウ			VU			B	A	○	
－		スジシマドジョウ種群[注2)]			VU			B	A	○	
28	フクドジョウ	ホトケドジョウ			EN		A			○	
29		ナガレホトケドジョウ			EN		調	B		○	
30	ギギ	ギギ						B		○	
31	アカザ	アカザ			VU			A		○	
32	キュウリウオ	ワカサギ					調			○	
33	アユ	アユ						C	B	○	○
34	シラウオ	シラウオ					A		A	○	○
35	サケ	サツキマス（アマゴ）			NT		調			○	
36	トゲウオ	ハリヨ			CR					○	
37	メダカ	ミナミメダカ			VU		注	C	B	○	○
38	サヨリ	クルメサヨリ			NT		A			○	○
39	メバル	タケノコメバル				NT					○
40	ケツギョ	オヤニラミ			EN		C			○	
41	アイナメ	アイナメ				LP 瀬戸内海				○	
42	カジカ	カジカ			NT		C			○	
43		カジカ中卵型			EN		B			○	
44	イソギンポ	トサカギンポ					調			○	○
45	カワアナゴ	カワアナゴ						B	B	○	
46	ハゼ	イドミミズハゼ			NT		調			○	
47		ミミズハゼ						C	B	○	○
48		ヒモハゼ			NT		C			○	○
49		シロウオ			VU		A			○	○
50		トビハゼ			NT		A			○	○
51		マサゴハゼ			VU		A			○	○
52		シモフリシマハゼ					調			○	
53		ヒナハゼ					調			○	○
54		シマヨシノボリ						調		○	
55		オオヨシノボリ					C	B		○	
56		クロヨシノボリ					調	B		○	
57		ゴクラクハゼ						C	B	○	○
58		シマヒレヨシノボリ			NT		調			○	○
59		スミウキゴリ						C		○	
60		ウキゴリ					C	C	B	○	○
61		チクゼンハゼ			VU		A			○	○
62		クボハゼ			EN		A			○	○
63		エドハゼ			VU		A			○	○
	22 科	63 種	0 種	1 種	36 種	3 種	39 種	30 種	17 種	62 種	21 種

注 1) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。
注 2) スジシマドジョウ種群は、チュウガタスジシマドジョウと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。

表 11.8-28　重要な種の状況(クモ類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	ジグモ	ワスレナグモ			NT		B			○	
2	カネコトタテグモ	カネコトタテグモ			NT		A			○	
3	トタテグモ	キノボリトタテグモ			NT		A			○	○
4		キシノウエトタテグモ			NT		A			○	
5	ヒメグモ	ハラダカツクネグモ					調			○	
6	ヨリメグモ	ヨリメグモ					注			○	
7	アシナガグモ	キンヨウグモ					C			○	
8	コガネグモ	コケオニグモ					C			○	
9		マメイタイセキグモ					調			○	
10		ムツトゲイセキグモ					C			○	
11		ゲホウグモ					調			○	
12		コオニグモモドキ					B			○	
13	コモリグモ	カコウコモリグモ					A			○	○
14	サシアシグモ	シノビグモ					B			○	
15	ヒトエグモ	ヒトエグモ					A			○	
16	ミヤマシボグモ	シボグモモドキ					B			○	
17	カニグモ	カトウツケオグモ					C			○	
	12 科	17 種	0 種	0 種	4 種	0 種	17 種	0 種	0 種	17 種	2 種

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(1)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	トビイロカゲロウ	オオトゲエラカゲロウ					注	B		○	
2	マダラカゲロウ	コウノマダラカゲロウ					注			○	
3		チノマダラカゲロウ					C			○	
4	ガガンボカゲロウ	ガガンボカゲロウ						調		○	
5	フタオカゲロウ	オオフタオカゲロウ						C		○	
6	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ			EN		A	今		○	
7		オツネントンボ					調			○	○
8	イトトンボ	ベニイトトンボ			NT		A	A	調	○	
9		モートンイトトンボ			NT		B	B		○	
10		セスジイトトンボ					調			○	○
11		ムスジイトトンボ					注	C		○	
12		オオイトトンボ					B	B	B	○	
13	モノサシトンボ	グンバイトンボ			NT		B	B		○	
14	カワトンボ	アオハダトンボ			NT		B	今		○	
15	ムカシトンボ	ムカシトンボ					C	A		○	
16	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT		B	A	A	○	
17		アオヤンマ			NT		A	A	A	○	
18		ルリボシヤンマ					B	A		○	
19		マルタンヤンマ					調	C		○	○
20		カトリヤンマ					C	B	調	○	○
21		サラサヤンマ					B	B	B	○	○
22	サナエトンボ	ミヤマサナエ					調			○	
23		キイロサナエ			NT		A	C		○	
24		ヒメクロサナエ						B		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(2)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
25	サナエトンボ	オナガサナエ						C		○	
26		アオサナエ					注	A		○	
27		ホンサナエ					B	A		○	
28		ヒメサナエ					B			○	
29		オジロサナエ						C		○	
30		タベサナエ			NT			C		○	
31		フタスジサナエ			NT					○	○
32		オグマサナエ			NT			C		○	
33	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ					B	A		○	
34	エゾトンボ	トラフトンボ						C		○	
35		キイロヤマトンボ			NT		A	今		○	
36		ハネビロエゾトンボ			VU		A	B		○	○
37		タカネトンボ					調	調		○	
38		エゾトンボ					B	B		○	
39	トンボ	ベッコウトンボ		国内	CR		EX	今	今	○	
40		ヨツボシトンボ					C	C	B	○	
41		ハッチョウトンボ					B	B	A	○	
42		キトンボ						C	B	○	
43		アキアカネ						C	調	○	
44		ナニワトンボ			VU		注	C	B	○	
45		ノシメトンボ					調	C	調	○	○
46		マイコアカネ					B	C		○	○
47		マダラナニワトンボ			EN		A	今		○	
48		ミヤマアカネ					注	C	B	○	
49		オオキトンボ			EN		B	C		○	○
50	ヒメカマキリ	サツマヒメカマキリ						調		○	
51	ヒロムネカワゲラ	ミヤマノギカワゲラ					C			○	
52	クツワムシ	クツワムシ					注	調		○	
53	キリギリス	カヤキリ						調		○	
54	マツムシ	クチキコオロギ						調		○	
55		カヤコオロギ						C		○	○
56	コオロギ	ヒメコオロギ						C		○	
57		クロツヤコオロギ						調		○	
58		クチナガコオロギ						C		○	
59	カネタタキ	イソカネタタキ					注			○	
60	ヒバリモドキ	ハマスズ					B			○	
61		キタヤチスズ						C		○	
62	バッタ	イナゴモドキ						C		○	
63	イナゴ	セグロイナゴ					注			○	
64	ガロアムシ	ガロアムシ					注			○	
65	セミ	エゾゼミ						C		○	
66		ハルゼミ					C		B	○	○
67	ヨコバイ	フクロクヨコバイ			NT					○	
68		スナヨコバイ			NT					○	
69	サシガメ	ハリサシガメ			NT			調		○	
70		フタオビマダラカモドキサシガメ			DD					○	
71		ゴミアシナガサシガメ			VU					○	
72		フサヒゲサシガメ			VU					○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(3)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
73	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ			NT			調		○	○
74	キンカメムシ	ニシキキンカメムシ					注			○	
75	アメンボ	エサキアメンボ			NT		B	C		○	○
76	イトアメンボ	イトアメンボ			VU		A	調		○	
77	ミズムシ（昆）	ミゾナシミズムシ			NT			調		○	
78		ホッケミズムシ			NT		A	A		○	
79		オオミズムシ			NT		C	B		○	
80		ナガミズムシ			NT		A	A		○	
81		ミヤケミズムシ			NT		C	調		○	
82	メミズムシ	メミズムシ						調		○	○
83	コオイムシ	コオイムシ			NT					○	
84		タガメ		特二	VU		B	今		○	
85	タイコウチ	ヒメタイコウチ					A	A	A	○	
86		ミズカマキリ					注	調		○	
87	ナベブタムシ	トゲナベブタムシ			VU		A	A		○	
88		ナベブタムシ						C		○	
89	コバンムシ	コバンムシ		特二	EN		A	A		○	
90	ヘビトンボ	タイリククロスジヘビトンボ						調		○	
91		ヤマトクロスジヘビトンボ						調		○	
92	ラクダムシ	ラクダムシ					調			○	○
93	ツノトンボ	キバネツノトンボ					B			○	
94	ウスバカゲロウ	オオウスバカゲロウ					B			○	
95	ヒゲナガカワトビケラ	チャバネヒゲナガカワトビケラ						調		○	
96	ナガレトビケラ	クレメンスナガレトビケラ						調		○	
97		レゼイナガレトビケラ						調		○	
98	アシエダトビケラ	ビワアシエダトビケラ			NT		注			○	
99	カタツムリトビケラ	カタツムリトビケラ					C	C		○	
100	ヒゲナガトビケラ	ギンボシツツトビケラ			NT					○	
101		ミサキツノトビケラ						調		○	
102	フトヒゲトビケラ	ヒトスジキソトビケラ						今		○	
103	ニセマイコガ	セグロベニトゲアシガ						C		○	○
104	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ			EN		A			○	
105		アオバセセリ本土亜種						C		○	
106		ダイミョウセセリ					注		調	○	
107		ホソバセセリ					C	C	調	○	
108		ギンイチモンジセセリ			NT		B	B		○	
109		ヒメキマダラセセリ					注			○	
110		ミヤマチャバネセセリ					C	B		○	
111		オオチャバネセセリ						C	B	○	
112		コチャバネセセリ							調	○	○
113		スジグロチャバネセセリ 北海道・本州・九州亜種			NT		A			○	
114		ヘリグロチャバネセセリ					B	B		○	
115	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ							B	○	
116		オナガシジミ					B			○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(4)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
117	シジミチョウ	ウラゴマダラシジミ					注	C	調	○	
118		スギタニルリシジミ本州亜種					注			○	
119		ヒロオビミドリシジミ					C			○	
120		オオミドリシジミ						調	調	○	
121		ウラジロミドリシジミ					注			○	
122		アカシジミ							B	○	○
123		ウラナミアカシジミ					注	C	調	○	○
124		ミドリシジミ					注	C	B	○	○
125		クロシジミ			EN		A	A		○	
126		キマダラルリツバメ			NT		B			○	
127		ゴイシシジミ					B	C	B	○	○
128		クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種			NT		B	B		○	
129		ウラキンシジミ					注			○	○
130		ウラミスジシジミ						C		○	
131		シルビアシジミ			EN		C	A	調	○	○
132	タテハチョウ	サカハチチョウ					注	C		○	
133		ミドリヒョウモン							B	○	○
134		ウラギンスジヒョウモン			VU		B	A	A	○	
135		オオウラギンスジヒョウモン						C		○	
136		ヒメヒカゲ本州西部亜種			EN		A	今	今	○	
137		イシガケチョウ							調	○	
138		メスグロヒョウモン					注	調	調	○	○
139		スミナガシ本土亜種						C		○	
140		ウラギンヒョウモン						B	調	○	
141		オオウラギンヒョウモン			CR		EX	今		○	
142		キマダラモドキ			NT		B			○	
143		イチモンジチョウ							調	○	○
144		クモガタヒョウモン					C	B		○	
145		ミスジチョウ						C		○	
146		オオヒカゲ					A			○	
147		オオムラサキ			NT		C	C		○	
148		ウラナミジャノメ本土亜種			VU		B	今	A	○	
149		ヒメキマダラヒカゲ					注			○	
150	アゲハチョウ	ギフチョウ			VU		B	A	今	○	
151		オナガアゲハ					注		調	○	
152		ウスバシロチョウ					注			○	
153	シロチョウ	ツマキチョウ本土亜種							調	○	
154		ツマグロキチョウ			EN		注		調	○	○
155		スジボソヤマキチョウ					B			○	
156		タイワンモンシロチョウ対馬・朝鮮半島亜種			CR					○	
157		スジグロシロチョウ							調	○	
158		ヤマトスジグロシロチョウ本州中・南部亜種					注	調		○	
159	ツトガ	ゴマフツトガ			NT					○	
160	ヤママユガ	オナガミズアオ本土亜種			NT					○	
161	スズメガ	ヒメスズメ			NT					○	
162		オオシモフリスズメ						C		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(5)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
163	ヒトリガ	キハダカノコ						C		○	
164		ヤネホソバ			NT					○	
165	ドクガ	ナチキシタドクガ					調			○	
166		トラサンドクガ			NT					○	
167		スゲドクガ			NT					○	○
168	ヤガ	コシロシタバ			NT					○	
169		ナマリキシタバ					C	B		○	
170		クロシオキシタバ					注			○	○
171		カバフキシタバ					C			○	
172		ゴマシオキシタバ						B		○	
173		フシキキシタバ					C			○	
174		カギモンハナオイアツバ			NT					○	
175		ゴマダラキリガ					C			○	
176		アオモンギンセダカモクメ			NT		調			○	
177		サヌキキリガ					C			○	
178		ウスミミモンキリガ			NT					○	
179		キスジウスキヨトウ			VU						○
180		キシタアツバ			NT					○	○
181		ヨモギキリガ					C			○	
182	コブガ	サラサリンガ						C		○	
183	ハルカ	ハマダラハルカ			DD					○	
184	クサアブ	ネグロクサアブ			DD		注	C		○	
185	シギアブ	キアシキンシギアブ						調		○	
186	ミズアブ	ミズアブ						調		○	○
187	ムシヒキアブ	トゲツヤイシアブ						調		○	
188	ツリアブ	トラツリアブ					注	C		○	
189		シバカワツリアブ						調		○	
190	ハナアブ	ルリハナアブ						調		○	○
191		ケンランアリノスアブ			VU		調	C		○	
192	オサムシ	ウミミズギワゴミムシ			NT		C	調		○	
193		マイマイカブリ							B	○	
194		セアカオサムシ			NT		調	C		○	
195		クロヒメヒョウタンゴミムシ					調			○	
196		オサムシモドキ					調	今		○	
197		タナカツヤハネゴミムシ			DD					○	○
198		チョウセンゴモクムシ			VU					○	
199		クロモンヒラナガゴミムシ						調		○	
200		キノコゴミムシ						C		○	○
201		キベリマルクビゴミムシ			EN		B	A		○	
202		オオトックリゴミムシ			NT					○	○
203		ウミホソチビゴミムシ			NT		C			○	○
204		イグチケブカゴミムシ			NT			調		○	
205		オオヒョウタンゴミムシ			NT		A			○	
206	ハンミョウ	ヨドシロヘリハンミョウ			VU		A			○	○
207		アイヌハンミョウ			NT		C	C		○	
208		ルイスハンミョウ			EN		A			○	
209	ゲンゴロウ	キボシケシゲンゴロウ			DD		調	C		○	
210		クロゲンゴロウ			NT			C		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(6)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
211	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ		特二	VU		A	A		○	
212		マルコガタノゲンゴロウ		国内	CR		A	今		○	
213		コガタノゲンゴロウ			VU		A	A		○	
214		マルガタゲンゴロウ		特二	VU		C	今		○	
215		シマゲンゴロウ			NT		注	B		○	
216		マダラシマゲンゴロウ		国内	CR		EX	今		○	
217		コマルケシゲンゴロウ			NT					○	
218		オニギリマルケシゲンゴロウ			NT			C		○	
219		ケシゲンゴロウ			NT		C	B		○	
220		ヒメケシゲンゴロウ			VU			C		○	
221		キベリクロヒメゲンゴロウ			NT			C		○	
222		コウベツブゲンゴロウ			NT		調	B		○	
223		ルイスツブゲンゴロウ			VU		調	C		○	
224		シャープツブゲンゴロウ			NT			B		○	
225		ニセコウベツブゲンゴロウ						調		○	
226		マルチビゲンゴロウ			NT					○	
227		メクラゲンゴロウ			DD		調			○	
228		ヒメシマチビゲンゴロウ					調			○	
229		クロマメゲンゴロウ						調		○	
230		ヒメゲンゴロウ						C		○	
231	ミズスマシ	オオミズスマシ			NT		調	B		○	
232		コミズスマシ			EN			調		○	
233		ヒメミズスマシ			EN		B	B		○	
234		ミズスマシ			VU		B	A		○	
235	コガシラミズムシ	クロホシコガシラミズムシ			VU					○	
236		キイロコガシラミズムシ			VU		C	C		○	
237		マダラコガシラミズムシ			VU		C	C		○	
238	コツブゲンゴロウ	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ			VU		B	A		○	
239	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ					C	B		○	
240	ムカシゲンゴロウ	ムカシゲンゴロウ			DD		調			○	
241	セスジガムシ	セスジガムシ			EN			調		○	
242	ホソガムシ	チュウブホソガムシ			VU					○	
243		ヤマトホソガムシ			NT			調		○	
244	ガムシ	スジヒラタガムシ			NT					○	○
245		コガムシ			DD					○	○
246		ガムシ			NT			C		○	
247		シジミガムシ			EN		B	調		○	
248		ミユキシジミガムシ			NT			調		○	
249	クワガタムシ	オオクワガタ			VU		B	今		○	
250		マメクワガタ					C			○	
251	コガネムシ	ヒメサクラコガネ					調			○	
252		ヤマトアオドウガネ					C		調	○	○
253		アカマダラハナムグリ			DD		A	B		○	
254		オオフタホシマグソコガネ						C		○	
255		ダイコクコガネ			VU		A			○	
256		コカブトムシ						調	B	○	○
257		ツヤスジコガネ						C		○	

注) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(7)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
258	コガネムシ	オオチャイロハナムグリ			NT		B			○	
259		シロスジコガネ					B	今	調	○	
260		ヒゲコガネ					B	C	調	○	
261		クロカナブン						調		○	
262	ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ			VU		C			○	
263	タマムシ	アオタマムシ					注			○	
264		クロマダラタマムシ					C		B	○	
265	コメツキムシ	ツシマヒメサビキコリ					調			○	○
266		スナサビキコリ					調			○	○
267	ホタル	ヘイケボタル					注	調	調	○	○
268		ヒメボタル					注			○	
269	ジョウカイモドキ	イソジョウカイモドキ			DD						○
270	テントウムシ	ジュウクホシテントウ						C		○	
271		ジュウサンホシテントウ						C		○	○
272	ツチハンミョウ	マメハンミョウ					C			○	
273	ゴミムシダマシ	ヤマトオサムシダマシ			NT			調		○	
274	カミキリムシ	センノキカミキリ						調		○	
275		ヨコヤマヒメカミキリ						C		○	
276		ベーツヒラタカミキリ					C			○	
277		キイロミヤマカミキリ						C		○	
278		マヤサンコブヤハズカミキリ					C			○	
279		オオシロカミキリ						調		○	
280		ベニバハナカミキリ						C		○	
281		セダカコブヤハズカミキリ						B		○	
282		カタキハナカミキリ						B		○	
283		クリストフコトラカミキリ						調		○	
284		ヨツボシカミキリ			EN			A		○	
285		アサカミキリ			VU		A			○	
286		ヤノトラカミキリ						調		○	
287	ハムシ	キンイロネクイハムシ			NT		C	B		○	
288		カツラネクイハムシ					B	A		○	
289	ゾウムシ	ハマベゾウムシ					調				○
290	コンボウハバチ	アカガネコンボウハバチ						C		○	
291		ホシアシブトハバチ			DD		調		調	○	
292		キイロモモブトハバチ							調	○	
293		ナシアシブトハバチ						C		○	
294	ハバチ	ツマグロアカハバチ						C		○	
295		スミスシロオビハバチ						C		○	
296	ヤドリキバチ	トサヤドリキバチ			DD			C		○	
297	コマユバチ	ウマノオバチ			NT		C	C	B	○	
298	ヒメバチ	ミズバチ			DD			調		○	
299	セダカヤセバチ	ホシセダカヤセバチ							調	○	
300	セイボウ	オオセイボウ			DD					○	○
301	アリ	ケブカツヤオオアリ			DD					○	
302		ツノアカヤマアリ			DD					○	
303		トゲアリ			VU			調		○	○
304	スズメバチ	ケブカスジドロバチ							調	○	
305		ハグロフタオビドロバチ							調	○	
306		キオビホオナガスズメバチ			DD					○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-29(8)　重要な種の状況(昆虫類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
307	スズメバチ	カバオビドロバチ本土亜種							B	○	
308		フタモンアシナガバチ本土亜種							調	○	○
309		ヤマトアシナガバチ			DD					○	○
310		オオハムシドロバチ			DD				調	○	
311		ハラナガハムシドロバチ							調	○	○
312		モンスズメバチ			DD				調	○	○
313	クモバチ	アケボノクモバチ			DD					○	
314		キオビクモバチ							B	○	
315		スギハラクモバチ			DD		調	調	B	○	
316		フタモンクモバチ			NT			調	A	○	
317		アオスジクモバチ			DD					○	
318	アリバチ	セヅノアリバチ							調	○	
319	ツチバチ	シロオビハラナガツチバチ							調	○	
320	セナガアナバチ	サトセナガアナバチ						C	B	○	
321	ギングチバチ	シロスジギングチ							調	○	
322		サクラトゲアナバチ							調	○	
323		ニッポントゲアナバチ							調	○	
324		アカアシハヤバチ							調	○	○
325	ドロバチモドキ	ヤマトスナハキバチ本土亜種			DD				調	○	○
326		ニッポンハナダカバチ			VU		C	調		○	
327		キアシハナダカバチモドキ			VU					○	○
328	アリマキバチ	カラトイスカバチ			DD			調	調	○	
329	アナバチ	フジジガバチ			NT					○	
330		ヤマトルリジガバチ							調	○	○
331		キゴシジガバチ					C	C	A	○	
332		フクイアナバチ			NT		C	C	B	○	
333	ミツバチ	シロスジフトハナバチ							B	○	○
334		クロマルハナバチ			NT					○	
335		ウスルリモンハナバチ					C		A	○	
336		ナミルリモンハナバチ			DD		調	調	調	○	
337	ハキリバチ	トモンハナバチ					調	調		○	○
338		ヒロバトガリハナバチ							調	○	
339		ヤマトハキリバチ							調	○	
340		キヌゲハキリバチ						調		○	○
341		クズハキリバチ			DD				調	○	
342		キバラハキリバチ			NT				調	○	○
343		マイマイツツハナバチ			DD			調		○	
	111 科	343 種	0 種	7 種	152 種	0 種	175 種	202 種	81 種	340 種	63 種

注) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-30(1)　重要な種の状況(底生動物)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	ウメボシイソギンチャク	ニンジンイソギンチャク					A			○	
2	ヒラタウズムシ	ミヤマウズムシ					調			○	
3	ユキノカサガイ	ツボミガイ			NT		C	A		○	○
4	ニシキウズガイ	イボキサゴ			NT		C			○	○
5	アマオブネガイ	ヒロクチカノコガイ			NT		B			○	
6	ユキスズメガイ	ミヤコドリガイ			NT		A	C		○	○
7		ヒナユキスズメガイ			NT		A			○	
8	タニシ	マルタニシ			VU		C	B		○	
9		オオタニシ			NT					○	○
10	オニノツノガイ	コゲツノブエガイ			VU		A			○	○
11	ウミニナ	ホソウミニナ						B		○	○
12		ウミニナ			NT			A		○	○
13	トゲカワニナ	タケノコカワニナ			VU		A			○	
14	カワニナ	クロダカワニナ			NT		C	C		○	
15	キバウミニナ	フトヘナタリガイ			NT						○
16		ヘナタリガイ			NT		A			○	○
17		カワアイガイ			VU		A			○	○
18	クリムシチョウジガイ	ゴマツボ			VU		A			○	
19	ワカウラツボ	カワグチツボ			NT		C			○	
20		ワカウラツボ			VU		A			○	
21	カワザンショウガイ	クリイロカワザンショウガイ			NT		C	B		○	○
22		サツマクリイロカワザンショウガイ					C			○	
23		ツブカワザンショウガイ			NT		B	A		○	
24		ヒラドカワザンショウガイ					B			○	○
25		ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ			NT		B			○	○
26		ヨシダカワザンショウガイ			NT		B			○	
27		カハタレカワザンショウガイ			VU		A			○	
28	エゾマメタニシ	イナバマメタニシ			VU		B	B		○	
29		ヒメマルマメタニシ			VU		C	C		○	
30		マメタニシ			CR		A			○	
31	ミズゴマツボ	エドガワミズゴマツボ			NT		C			○	○
32	イソコハクガイ	シラギクガイ			NT		A			○	
33	ハナゴウナ	ヒモイカリナマコツマミガイ			VU		A	C		○	
34	タマガイ	アダムスタマガイ			NT					○	
35	イトカケガイ	イナザワハベガイ					B			○	○
36	ムシロガイ	アラムシロガイ						C		○	○
37		ムシロガイ			NT		B	C		○	
38	クダタマガイ	コメツブツララガイ			VU					○	
39		コヤスツララガイ			NT		B			○	
40	ヘコミツララガイ	マツシマコメツブ					B			○	
41	トウガタガイ	カキウラクチキレモドキ					C	C		○	○
42		ヒガタヨコイトカケギリガイ			DD						○
43		シゲヤスイトカケギリガイ			NT						○
44		ヌカルミクチキレガイ			NT		A				○

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-30(2)　重要な種の状況(底生動物)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
45	オカミミガイ	オカミミガイ			VU		A			○	
46		ウスコミミガイ			NT		A			○	
47		ナギサノシタタリガイ					B	C		○	
48	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD						○
49		モノアラガイ			NT					○	○
50	ヒラマキガイ	カワネジガイ			CR		A			○	
51		カワコザラガイ			CR					○	
52		ミズコハクガイ			VU		A			○	
53		ヒラマキミズマイマイ			DD					○	○
54		クルマヒラマキガイ			VU		B	B		○	○
55		ヒラマキガイモドキ			NT					○	
56	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			NT			C			○
57	フネガイ	サルボウガイ						B		○	
58	イタボガキ	コケゴロモ					注			○	
59		イタボガキ			CR+EN					○	
60	ハボウキガイ	タイラギ			NT		C			○	
61		ハボウキガイ			NT		A	C		○	
62	イシガイ	フネドブガイ					A			○	
63		タガイ						C		○	
64		ニセマツカサガイ			VU		A			○	
65		ササノハガイ			VU		A			○	
66		イシガイ					C	B		○	
67		カタハガイ		特二	VU		A			○	
68		マツカサガイ広域分布種			NT		B			○	
69	ウロコガイ	ニッポンマメアゲマキガイ			NT		A			○	○
70	チリハギガイ	コハクノツユガイ					A			○	
71		マツモトウロコガイ			NT		A			○	
72	ブンブクヤドリガイ	スジホシムシヤドリガイ			NT		A			○	
73	キヌマトイガイ	ナミガイ					C			○	
74	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ			NT			C		○	○
75	シジミ	ヤマトシジミ			NT		C			○	○
76		マシジミ			VU		注	C		○	
77	ドブシジミ	ドブシジミ					C	B		○	
78	マルスダレガイ	ハマグリ			VU		A			○	
79		カガミガイ						A		○	
80		メオニアサリ						C		○	
81	ハナグモリ	ハナグモリガイ			VU		A			○	○
82	ニッコウガイ	ユウシオガイ			NT		A				○
83		ヒメシラトリガイ						A		○	○
84		ウズザクラガイ			NT		B				○
85	シオサザナミ	オチバガイ			NT		A			○	
86		ムラサキガイ			VU		A			○	
87	キヌタアゲマキ	キヌタアゲマキ			NT		B			○	
88	マテガイ	マテガイ					注			○	○
89	バカガイ	シオフキガイ					A			○	
90		ミルクイガイ			VU		A	A		○	
91	チドリマスオ	クチバガイ			NT					○	

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-30(3)　重要な種の状況(底生動物)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
92	オキナガイ	オキナガイ					B	A		○	
93	オオノガイ	オオノガイ			NT		B			○	○
94	チロリ	クシケマスオガイ			NT		B			○	○
95		マキントシチロリ					C			○	○
96	ゴカイ	チロリ					C			○	○
97		コケゴカイ					C			○	○
98		ヒメヤマトカワゴカイ					C*1)				○
99		ヤマトカワゴカイ					C*1)				○
—		カワゴカイ属注2)					C*1)			○	○
100		スナイソゴカイ					調			○	○
101	ナナテイソメ	スゴカイイソメ					C			○	○
102	ギボシイソメ	コアシギボシイソメ					C			○	○
103	ツバサゴカイ	ムギワラムシ				NT	A			○	
104		スナタバムシ					B			○	
105	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ					C			○	○
106	ウオビル	ヌマエラビル			DD						○
107	スジホシムシ	スジホシムシモドキ				NT	B			○	
108	フジツボ	スジホシムシ				NT	調			○	
109		サラサフジツボ				NT					○
110		シロスジフジツボ						調		○	○
111	クルマエビ	クルマエビ					C			○	
112	ヌマエビ	ヤマトヌマエビ					B	調		○	
113		ミゾレヌマエビ					B			○	○
114	テナガエビ	ミナミテナガエビ					C	C		○	
115		ヒラテテナガエビ					A	B		○	
116		シラタエビ					B			○	○
117	テッポウエビ	テッポウエビ					C			○	○
118	エビジャコ	エビジャコ属					B			○	○
119	ヤドカリ	テナガツノヤドカリ				DD					○
120	ホンヤドカリ	ヨモギホンヤドカリ				NT		C		○	
121	ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ					C			○	
122	スナモグリ	ニホンスナモグリ					C			○	○
123	アナジャコ	アナジャコ					B			○	
124		ヨコヤアナジャコ					C			○	○
125	コブシガニ	マメコブシガニ					B			○	○
126	ケブカガニ	マキトラノオガニ					B			○	
127	ベンケイガニ	アカテガニ					B	B		○	○
128		ウモレベンケイガニ				VU	A			○	○
129		クシテガニ				NT	A			○	○
130		フタバカクガニ					B	B		○	○
131		ユビアカベンケイガニ				NT	C			○	○
132		クロベンケイガニ					C	C		○	○
133		ベンケイガニ				NT	B	A		○	○

注1) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。
注2) カワゴカイ属は、ヒメヤマトカワゴカイ又はヤマトカワゴカイと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。
*1) 選定基準Ⅴにおける「カワゴカイ属の数種」の場合に該当するランクを示します。

表 11.8-30(4)　重要な種の状況(底生動物)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
134	モクズガニ	ハマガニ				NT	B	A		○	○
135		ヒメアシハラガニ				NT	B			○	○
136		アシハラガニ					C	B		○	○
137		スネナガイソガニ					C			○	○
138		ヒメケフサイソガニ				NT	B			○	○
139		ウモレマメガニ				VU	A			○	○
140		タイワンヒライソモドキ				NT	B			○	
141		トリウミアカイソモドキ				NT	B			○	○
142	ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ					A			○	
143	コメツキガニ	チゴガニ					C			○	○
144		コメツキガニ					C			○	○
145	オサガニ	オサガニ				NT	A			○	○
146		ヒメヤマトオサガニ				NT	B			○	
147		ヤマトオサガニ					C			○	○
148	スナガニ	ハクセンシオマネキ			VU		C			○	○
149		スナガニ					B	B		○	○
150	カニダマシ	ヤドリカニダマシ				NT	A			○	
151	サナエトンボ	オナガサナエ						C			○
152		アオサナエ					注	A		○	
153		フタスジサナエ			NT						○
154	ミズムシ（昆）	オオミズムシ			NT		C	B			○
155	コオイムシ	コオイムシ			NT						○
156	ゲンゴロウ	コマルケシゲンゴロウ			NT						○
157		オオマルケシゲンゴロウ			NT						○
158	ガムシ	コガムシ			DD						○
159	シャミセンガイ	シャミセンガイ属					A			○	○
160	ヒメテンコケムシ	カンテンコケムシ					B			○	
161	イカリナマコ	ヒモイカリナマコ					B			○	
162	ヨウミャクカシパン	ハスノハカシパン					B			○	
163	ナメクジウオ	ヒガシナメクジウオ				VU	B			○	
	88 科	163 種	0 種	1 種	78 種	20 種	129 種	44 種	0 種	144 種	83 種

注）選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-31　重要な種の状況(陸産貝類)

番号	科名	種名	選定基準							既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ		
1	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ			NT			C		○	
2	ヤマキサゴ	ヤマキサゴ						C		○	
3	ヤマタニシ	サドヤマトガイ			NT		注	B		○	
4	ムシオイガイ	ミヤコムシオイガイ					C			○	
5		ハリマムシオイガイ					A	A		○	
6		ミヤマムシオイ					A			○	
7	ゴマガイ	オオウエゴマガイ						C		○	
8	ケシガイ	スジケシガイ						C		○	
9	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			NT			C		○	○
10	キバサナギガイ	ナガナタネガイ			LP		B			○	
11		チョウセンスナガイ					A				○
12		キバサナギガイ			CR+EN		A	今		○	
13	マキゾメガイ	マルナタネガイ					B			○	○
14		ヒラドマルナタネ					B			○	
15	キセルガイモドキ	キセルガイモドキ					C	B		○	
16	キセルガイ	ヒメコギセル						C		○	
17		オオギセル			NT					○	
18		コンボウギセル					A			○	
19		シリオレトノサマギセル			NT			C		○	
20		ハゲギセル						C		○	
21		ホソヒメギセル			VU					○	
22	ホソアシヒダナメクジ	イボイボナメクジ			NT		A	A		○	
23	オオコウラナメクジ	オオコウラナメクジ			NT		B	C		○	
24	ベッコウマイマイ	ヒラベッコウガイ			DD					○	
25		ハクサンベッコウ			DD					○	
26		キヌツヤベッコウ			DD					○	
27		レンズガイ			VU		A			○	
28		ヒメハリマキビ			NT					○	
29		ウメムラシタラガイ			NT			C		○	
30		オオウエキビ			DD			C		○	
31		ヒメカサキビ			NT					○	○
32	ニッポンマイマイ	ケハダビロウドマイマイ			NT		B	B		○	
33	(ナンバンマイマイ)	ビロウドマイマイ			DD		B	B		○	
34		ヤマタカマイマイ			NT			C		○	
35	オナジマイマイ	クチマガリマイマイ			NT		B	B		○	
36		マヤサンマイマイ			VU		A	A		○	
37		ヌノビキケマイマイ			VU		A	A		○	
38		コオオベソマイマイ						C		○	
39		イセノナミマイマイ					注			○	
40		ギューリキマイマイ					注	B		○	
41		ヒメコウロマイマイ					C			○	
42		カタマメマイマイ			VU		EX	A		○	
	16 科	42 種	0 種	0 種	25 種	0 種	23 種	25 種	0 種	41 種	4 種

注) 選定基準及びランクは、表 11.8-11 に対応しています。

表 11.8-32　注目すべき生息地

番号	生息地	選定基準					既存資料調査	現地調査
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ		
1	夢前川右岸の水路(昆虫類)				2		○	○
2	加古川河口(底生動物)				2,3		○	○
3	加古川河口周辺 (鳥類、魚類、昆虫類、甲殻類等、貝類、その他無脊椎動物)					3	○	○
4	いなみの台地のため池群 (鳥類、魚類、昆虫類(水生昆虫))			A			○	○
5	加古川河口・下流域(鳥類、昆虫類、底生動物)			A			○	○
6	市川河口・下流域(魚類、底生動物)			B			○	○
7	夢前川河口・下流域(昆虫類)			C			○	○
8	姫路市東部の自然海浜(底生動物)			B			○	○

注）選定基準及びランクは、表 11.8-12 に対応しています。

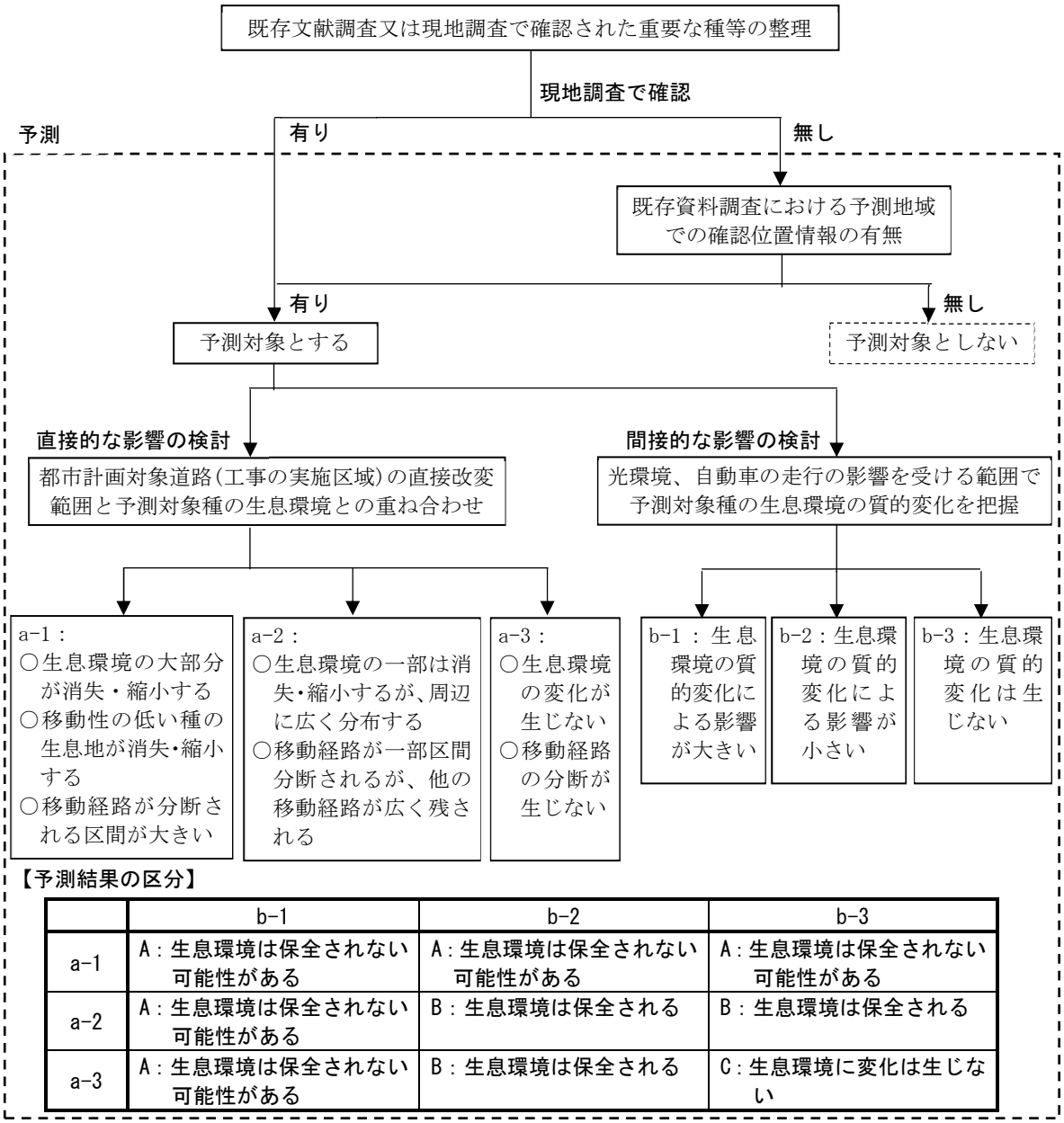
2) 予測

(1) 予測の手法

① 予測の基本的な手法

予測は、技術手法に基づき、事業実施に伴う都市計画対象道路(工事の実施区域)と重要な種及び注目すべき生息地の分布範囲から、生息地が消失・縮小する程度や重要な種等の移動経路が分断される程度を把握しました。また、工事の実施及び道路の存在における対象種の生態を踏まえた生息環境の質的変化の程度を把握しました。次に、それらが重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を、科学的知見や類似事例を参考に予測しました。

予測手順は、図 11.8-8 に示すとおりです。



【予測結果の区分】

	b-1	b-2	b-3
a-1	A：生息環境は保全されない可能性がある	A：生息環境は保全されない可能性がある	A：生息環境は保全されない可能性がある
a-2	A：生息環境は保全されない可能性がある	B：生息環境は保全される	B：生息環境は保全される
a-3	A：生息環境は保全されない可能性がある	B：生息環境は保全される	C：生息環境に変化は生じない

注 1) 直接的な影響(直接改変の影響)、間接的な影響(質的変化の影響)をそれぞれ検討し、より大きな影響に基づき環境影響の程度 (A～C) を判定しました。直接的な影響及び間接的な影響の程度は、調査地域に生息する重要な種の生息環境のうち、影響を受ける生息環境の割合を踏まえて判定しました。

注 2) 光環境に係る間接的な影響の検討を行う範囲は、都市計画対象道路(工事の実施区域)から 50m の範囲としました。これは、「道路建設に伴う森林の伐開により閉鎖されていた林冠が開かれ、林内に強い日射や風の影響が及ぶようになった結果、樹木の枯損や林床植生に変化が生じた範囲が道路端から 11～53m である」という研究報告(「道路建設による周辺植生への影響-総説-」(亀山章 「応用植物社会学研究 1976 年 3 月」(P75-90)))に基づき想定した範囲です。

図 11.8-8 予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域と同じとしました。

③ 予測対象時期等

予測対象時期は、事業特性及び重要な種等の生態を踏まえ、影響が最大となるおそれのある時期としました。

④ 予測対象

予測対象は、既存資料調査及び現地調査により確認された重要な種等のうち、予測地域で生息する可能性のある種及び生息地としました。

予測対象とした重要な種等は表 11.8-33 に、注目すべき生息地は表 11.8-34 に示すとおりです。

なお、間接的な影響の検討においては、光環境の影響を受ける種としてホタル類を、自動車の走行の影響を受ける種としてコウノトリ及び希少猛禽類を予測対象としました。

表 11.8-33(1)　予測対象種等の選定結果(重要な種)

区分		予測対象種等	
		種名	種数
哺乳類	現地調査で確認された重要な種(8 種)	ジネズミ、モグラ属、アカネズミ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、イタチ属、アナグマ	8 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種(該当なし)	－	
鳥類	現地調査で確認された重要な種(60 種)	オシドリ、ヨシガモ、シマアジ、クロガモ、オオハム、コウノトリ、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、クイナ、ヒクイナ、ホトトギス、ケリ、ムナグロ、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリ、セイタカシギ、ヤマシギ、タシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、トウネン、オジロトウネン、ハマシギ、ズグロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、アリスイ、アカゲラ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、メボソムシクイ上種[注)]、オオムシクイ、オオヨシキリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、セグロセキレイ、ホオアカ、アオジ、クロジ、オオジュリン	60 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種(該当なし)	－	
爬虫類	現地調査で確認された重要な種(6 種)	ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ	6 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種(該当なし)	－	

注）メボソムシクイ上種は、オオムシクイと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。

表 11.8-33(2)　予測対象種等の選定結果(重要な種)

区分		予測対象種等	
		種名	種数
両生類	現地調査で確認された重要な種 (4 種)	セトウチサンショウウオ、ニホンアカガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル	4 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種 (該当なし)	－	
魚類	現地調査で確認された重要な種 (21 種)	ニホンウナギ、ヌマムツ、ドジョウ、アユ、シラウオ、ミナミメダカ、クルメサヨリ、タケノコメバル、トサカギンポ、ミミズハゼ、ヒモハゼ、シロウオ、トビハゼ、マサゴハゼ、ヒナハゼ、ゴクラクハゼ、シマヒレヨシノボリ、ウキゴリ、チクゼンハゼ、クボハゼ、エドハゼ	21 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種 (該当なし)	－	
クモ類	現地調査で確認された重要な種 (2 種)	キノボリトタテグモ、カコウコモリグモ	2 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種 (該当なし)	－	
昆虫類	現地調査で確認された重要な種 (63 種)	オツネントンボ、セスジイトトンボ、マルタンヤンマ、カトリヤンマ、サラサヤンマ、フタスジサナエ、ハネビロエゾトンボ、ノシメトンボ、マイコアカネ、オオキトンボ、カヤコオロギ、ハルゼミ、シロヘリツチカメムシ、エサキアメンボ、メミズムシ、ラクダムシ、セグロベニトゲアシガ、コチャバネセセリ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミドリシジミ、ゴイシシジミ、ウラキンシジミ、シルビアシジミ、ミドリヒョウモン、メスグロヒョウモン、イチモンジチョウ、ツマグロキチョウ、スゲドクガ、キスジウスキヨトウ、クロシオキシタバ、キシタアツバ、ミズアブ、ルリハナアブ、タナカツヤハネゴミムシ、キノコゴミムシ、オオトックリゴミムシ、ウミホソチビゴミムシ、ヨドシロヘリハンミョウ、スジヒラタガムシ、コガムシ、ヤマトアオドウガネ、コカブトムシ、ツシマヒメサビキコリ、スナサビキコリ、ヘイケボタル、イソジョウカイモドキ、ジュウサンホシテントウ、ハマベゾウムシ、オオセイボウ、トゲアリ、フタモンアシナガバチ本土亜種、ヤマトアシナガバチ、ハラナガハムシドロバチ、モンスズメバチ、アカアシハヤバチ、ヤマトスナハキバチ本土亜種、キアシハナダカバチモドキ、ヤマトルリジガバチ、シロスジフトハナバチ、トモンハナバチ、キヌゲハキリバチ、キバラハキリバチ	63 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種 (該当なし)	－	

表 11.8-33(3)　予測対象種等の選定結果(重要な種)

区分		予測対象種等	
		種名	種数
底生動物	現地調査で確認された重要な種 (83 種)	ツボミガイ、イボキサゴ、ミヤコドリガイ、オオタニシ、コゲツノブエガイ、ホソウミニナ、ウミニナ、フトヘナタリガイ、ヘナタリガイ、カワアイガイ、クリイロカワザンショウガイ、ヒラドカワザンショウガイ、ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ、エドガワミズゴマツボ、イナザワハベガイ、アラムシロガイ、カキウラクチキレモドキ、ヒガタヨコイトカケギリガイ、シゲヤスイトカケギリガイ、ヌカルミクチキレガイ、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ、ナガオカモノアラガイ、ニッポンマメアゲマキガイ、ウネナシトマヤガイ、ヤマトシジミ、ハナグモリガイ、ユウシオガイ、ヒメシラトリガイ、ウズザクラガイ、マテガイ、オオノガイ、クシケマスオガイ、マキントシチロリ、チロリ、コケゴカイ、ヒメヤマトカワゴカイ、ヤマトカワゴカイ、カワゴカイ属[注)]、スナイソゴカイ、スゴカイイソメ、コアシギボシイソメ、タマシキゴカイ、ヌマエラビル、サラサフジツボ、シロスジフジツボ、ミゾレヌマエビ、シラタエビ、テッポウエビ、エビジャコ属、テナガツノヤドカリ、ニホンスナモグリ、ヨコヤアナジャコ、マメコブシガニ、クロベンケイガニ、アカテガニ、ウモレベンケイガニ、フタバカクガニ、クシテガニ、ユビアカベンケイガニ、ベンケイガニ、ハマガニ、ヒメアシハラガニ、アシハラガニ、スネナガイソガニ、ヒメケフサイソガニ、ウモレマメガニ、トリウミアカイソモドキ、チゴガニ、コメツキガニ、オサガニ、ヤマトオサガニ、ハクセンシオマネキ、スナガニ、オナガサナエ、フタスジサナエ、オオミズムシ、コオイムシ、コマルケシゲンゴロウ、オオマルケシゲンゴロウ、コガムシ、シャミセンガイ属	83 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種 (該当なし)	－	
陸産貝類	現地調査で確認された重要な種 (4 種)	ナガオカモノアラガイ、チョウセンスナガイ、マルナタネガイ、ヒメカサキビ	4 種
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生息する可能性のある重要な種 (該当なし)	－	

注) カワゴカイ属は、ヒメヤマトカワゴカイ又はヤマトカワゴカイと重複の可能性があるため、種数合計から除外しました。

表 11.8-34　予測対象種等の選定結果(注目すべき生息地)

区分		予測対象種等	
		生息地	箇所数
注目すべき生息地	現地調査及び既存文献調査において予測地域に存在するとされている注目すべき生息地 (8 箇所)	・夢前川右岸の水路(昆虫類) ・加古川河口(底生動物) ・加古川河口周辺(鳥類、魚類、昆虫類、甲殻類等、貝類、その他無脊椎動物) ・いなみの台地のため池群(鳥類、魚類、昆虫類(水生昆虫)) ・加古川河口・下流域(鳥類、昆虫類、底生動物) ・市川河口・下流域(魚類、底生動物) ・夢前川河口・下流域(昆虫類) ・姫路市東部の自然海浜(底生動物)	8 箇所

(2) 予測結果

予測結果の概要は、表 11.8-35 及び表 11.8-36 に示すとおりです。

生息環境への影響の程度は以下のとおりです。

A：生息環境は保全されない可能性がある

B：生息環境は保全される

C：生息環境に変化は生じない

鳥類のオオタカは、繁殖環境及び主要な餌場環境の一部が影響を受ける可能性があり、「生息環境は保全されない可能性がある」と予測されました。また、底生動物のオオタニシ、ヒラドカワザンショウガイについては、移動性が低い種で生息地が縮小することから、「生息環境は保全されない可能性がある」と予測されました。その他の種及び注目すべき生息地については、「生息環境は保全される」、「生息環境に変化は生じない」と予測されました。

表 11.8-35(1)　予測結果の概要(重要な種)

番号	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
1	哺乳類	ジネズミ	B	B
2		モグラ属[注1)]	B	B
3		アカネズミ	B	B
4		カヤネズミ	B	B
5		タヌキ	B	B
6		キツネ	B	B
7		イタチ属[注2)]	B	B
8		アナグマ	B	B
1	鳥類	オシドリ	B	B
2		ヨシガモ	B	B
3		シマアジ	B	B
4		クロガモ	B	B
5		オオハム	B	B
6		コウノトリ	B	B
7		ゴイサギ	B	B
8		ササゴイ	B	B
9		アマサギ	B	B
10		ダイサギ	B	B
11		チュウサギ	B	B
12		コサギ	B	B
13		クイナ	B	B
14		ヒクイナ	B	B
15		ホトトギス	B	B
16		ケリ	B	B
17		ムナグロ	B	B
18		イカルチドリ	B	B
19		コチドリ	B	B
20		シロチドリ	B	B
21		セイタカシギ	B	B
22		ヤマシギ	B	B
23		タシギ	B	B
24		チュウシャクシギ	B	B
25		アオアシシギ	B	B
26		クサシギ	B	B
27		タカブシギ	B	B
28		キアシシギ	B	B

注1) モグラ属は、コウベモグラの場合に該当します。
注2) イタチ属は、ニホンイタチの場合に該当します。

表 11.8-35(2)　予測結果の概要(重要な種)

番号	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
29	鳥類	イソシギ	B	B
30		トウネン	B	B
31		オジロトウネン	B	B
32		ハマシギ	B	B
33		ズグロカモメ	B	B
34		オオセグロカモメ	B	B
35		ミサゴ	B	B
36		ハチクマ	B	B
37		ハイタカ	B	B
38		オオタカ	A	A
39		ノスリ	B	B
40		フクロウ	B	B
41		カワセミ	B	B
42		アリスイ	B	B
43		アカゲラ	B	B
44		チョウゲンボウ	B	B
45		コチョウゲンボウ	B	B
46		ハヤブサ	B	B
47		サンショウクイ	B	B
－		メボソムシクイ上種[注)]	B	B
48		オオムシクイ	B	B
49		オオヨシキリ	B	B
50		ルリビタキ	B	B
51		ジョウビタキ	B	B
52		ノビタキ	B	B
53		コサメビタキ	B	B
54		キビタキ	B	B
55		オオルリ	B	B
56		セグロセキレイ	B	B
57		ホオアカ	B	B
58		アオジ	B	B
59		クロジ	B	B
60		オオジュリン	B	B
1	爬虫類	ニホンスッポン	B	B
2		ニホンヤモリ	B	B
3		ニホントカゲ	B	B
4		シマヘビ	B	B
5		アオダイショウ	B	B
6		ヒバカリ	B	B
1	両生類	セトウチサンショウウオ	B	B
2		ニホンアカガエル	B	B
3		トノサマガエル	B	B
4		ナゴヤダルマガエル	B	B
1	魚類	ニホンウナギ	B	B
2		ヌマムツ	B	B
3		ドジョウ	B	B
4		アユ	B	B
5		シラウオ	B	B
6		ミナミメダカ	B	B
7		クルメサヨリ	B	B
8		タケノコメバル	B	B
9		トサカギンポ	B	B
10		ミミズハゼ	B	B
11		ヒモハゼ	B	B

注）メボソムシクイ上種は、オオムシクイ又はメボソムシクイの場合に該当します。

表 11.8-35(3)　予測結果の概要(重要な種)

番号	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
12	魚類	シロウオ	B	B
13		トビハゼ	B	B
14		マサゴハゼ	B	B
15		ヒナハゼ	B	B
16		ゴクラクハゼ	B	B
17		シマヒレヨシノボリ	B	B
18		ウキゴリ	B	B
19		チクゼンハゼ	B	B
20		クボハゼ	B	B
21		エドハゼ	B	B
1	クモ類	キノボリトタテグモ	B	B
2		カコウコモリグモ	B	B
1	昆虫類	オツネントンボ	B	B
2		セスジイトトンボ	B	B
3		マルタンヤンマ	B	B
4		カトリヤンマ	B	B
5		サラサヤンマ	B	B
6		フタスジサナエ	B	B
7		ハネビロエゾトンボ	B	B
8		ノシメトンボ	B	B
9		マイコアカネ	B	B
10		オオキトンボ	B	B
11		カヤコオロギ	B	B
12		ハルゼミ	B	B
13		シロヘリツチカメムシ	B	B
14		エサキアメンボ	B	B
15		メミズムシ	B	B
16		ラクダムシ	B	B
17		セグロベニトゲアシガ	B	B
18		コチャバネセセリ	B	B
19		アカシジミ	B	B
20		ウラナミアカシジミ	B	B
21		ミドリシジミ	B	B
22		ゴイシシジミ	B	B
23		ウラキンシジミ	B	B
24		シルビアシジミ	B	B
25		ミドリヒョウモン	B	B
26		メスグロヒョウモン	B	B
27		イチモンジチョウ	B	B
28		ツマグロキチョウ	B	B
29		スゲドクガ	B	B
30		キスジウスキヨトウ	B	B
31		クロシオキシタバ	B	B
32		キシタアツバ	B	B
33		ミズアブ	B	B
34		ルリハナアブ	B	B
35		タナカツヤハネゴミムシ	B	B
36		キノコゴミムシ	B	B
37		オオトックリゴミムシ	B	B
38		ウミホソチビゴミムシ	B	B
39		ヨドシロヘリハンミョウ	B	B
40		スジヒラタガムシ	B	B
41		コガムシ	B	B
42		ヤマトアオドウガネ	B	B

表 11.8-35(4)　予測結果の概要(重要な種)

番号	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
43	昆虫類	コカブトムシ	B	B
44		ツシマヒメサビキコリ	B	B
45		スナサビキコリ	B	B
46		ヘイケボタル	B	B
47		イソジョウカイモドキ	B	B
48		ジュウサンホシテントウ	B	B
49		ハマベゾウムシ	B	B
50		オオセイボウ	B	B
51		トゲアリ	B	B
52		フタモンアシナガバチ本土亜種	B	B
53		ヤマトアシナガバチ	B	B
54		ハラナガハムシドロバチ	B	B
55		モンスズメバチ	B	B
56		アカアシハヤバチ	B	B
57		ヤマトスナハキバチ本土亜種	B	B
58		キアシハナダカバチモドキ	B	B
59		ヤマトルリジガバチ	B	B
60		シロスジフトハナバチ	B	B
61		トモンハナバチ	B	B
62		キヌゲハキリバチ	B	B
63		キバラハキリバチ	B	B
1	底生動物	ツボミガイ	B	B
2		イボキサゴ	B	B
3		ミヤコドリガイ	B	B
4		オオタニシ	A	A
5		コゲツノブエガイ	B	B
6		ホソウミニナ	B	B
7		ウミニナ	B	B
8		フトヘナタリガイ	B	B
9		ヘナタリガイ	B	B
10		カワアイガイ	B	B
11		クリイロカワザンショウガイ	B	B
12		ヒラドカワザンショウガイ	A	A
13		ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	B	B
14		エドガワミズゴマツボ	B	B
15		イナザワハベガイ	B	B
16		アラムシロガイ	B	B
17		カキウラクチキレモドキ	B	B
18		ヒガタヨコイトカケギリガイ	B	B
19		シゲヤスイトカケギリガイ	B	B
20		ヌカルミクチキレガイ	B	B
21		コシダカヒメモノアラガイ	B	B
22		モノアラガイ	B	B
23		ヒラマキミズマイマイ	B	B
24		クルマヒラマキガイ	B	B
25		ナガオカモノアラガイ	B	B
26		ニッポンマメアゲマキガイ	B	B
27		ウネナシトマヤガイ	B	B
28		ヤマトシジミ	B	B
29		ハナグモリガイ	B	B
30		ユウシオガイ	B	B
31		ヒメシラトリガイ	B	B
32		ウズザクラガイ	B	B

表 11.8-35(5)　予測結果の概要(重要な種)

番号	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
33	底生動物	マテガイ	B	B
34		オオノガイ	B	B
35		クシケマスオガイ	B	B
36		マキントシチロリ	B	B
37		チロリ	B	B
38		コケゴカイ	B	B
39		ヒメヤマトカワゴカイ	B	B
40		ヤマトカワゴカイ	B	B
－		カワゴカイ属[注)]	B	B
41		スナイソゴカイ	B	B
42		スゴカイイソメ	B	B
43		コアシギボシイソメ	B	B
44		タマシキゴカイ	B	B
45		ヌマエラビル	B	B
46		サラサフジツボ	B	B
47		シロスジフジツボ	B	B
48		ミゾレヌマエビ	B	B
49		シラタエビ	B	B
50		テッポウエビ	B	B
51		エビジャコ属	B	B
52		テナガツノヤドカリ	B	B
53		ニホンスナモグリ	B	B
54		ヨコヤアナジャコ	B	B
55		マメコブシガニ	B	B
56		クロベンケイガニ	B	B
57		アカテガニ	B	B
58		ウモレベンケイガニ	B	B
59		フタバカクガニ	B	B
60		クシテガニ	B	B
61		ユビアカベンケイガニ	B	B
62		ベンケイガニ	B	B
63		ハマガニ	B	B
64		ヒメアシハラガニ	B	B
65		アシハラガニ	B	B
66		スネナガイソガニ	B	B
67		ヒメケフサイソガニ	B	B
68		ウモレマメガニ	B	B
69		トリウミアカイソモドキ	B	B
70		チゴガニ	B	B
71		コメツキガニ	B	B
72		オサガニ	B	B
73		ヤマトオサガニ	B	B
74		ハクセンシオマネキ	B	B
75		スナガニ	B	B
76		オナガサナエ	B	B
77		フタスジサナエ	B	B
78		オオミズムシ	B	B
79		コオイムシ	B	B
80		コマルケシゲンゴロウ	B	B
81		オオマルケシゲンゴロウ	B	B
82		コガムシ	B	B
83		シャミセンガイ属	B	B

注）カワゴカイ属は、ヒメヤマトカワゴカイ又はヤマトカワゴカイの場合に該当します。

表 11.8-35(6)　予測結果の概要(重要な種)

番号	分類群	種名	生息環境への影響	
			工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
1	陸産貝類	ナガオカモノアラガイ	B	B
2		チョウセンスナガイ	B	B
3		マルナタネガイ	B	B
4		ヒメカサキビ	B	B

表 11.8-36　予測結果の概要(注目すべき生息地)

番号	生息地	生息環境への影響	
		工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
1	夢前川右岸の水路(昆虫類)	B	B
2	加古川河口(底生動物)	C	C
3	加古川河口周辺(鳥類、魚類、昆虫類、甲殻類等、貝類、その他無脊椎動物)	C	C
4	いなみの台地のため池群(鳥類、魚類、昆虫類(水生昆虫))	B	B
5	加古川河口・下流域(鳥類、昆虫類、底生動物)	B	B
6	市川河口・下流域(魚類、底生動物)	B	B
7	夢前川河口・下流域(昆虫類)	B	B
8	姫路市東部の自然海浜(底生動物)	B	B

① 重要な種

i) 哺乳類

重要な哺乳類の予測結果は、表 11.8-37 に示すとおりです。

表 11.8-37(1)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**ジネズミ**		科名　**トガリネズミ科**	
一般生態		【全長】頭胴長約 7cm 【生息環境】低地の河畔、水辺、農耕地周辺の林、低山帯の低木林に生息する。 【食性】小型昆虫などを捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道を除く全国。県内:川西市、三田市、加古川市、小野市、加東市、宍粟市、たつの市、豊岡市、朝来市、香美町、新温泉町、丹波市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　注	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(耕作地付近)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(耕作地付近)を含む低地の河畔、水辺、農耕地周辺の林、低山帯の低木林などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(耕作地付近)を含む低地の河畔、水辺、農耕地周辺の林、低山帯の低木林などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-37(2)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**モグラ属**		科名　**モグラ科**	
一般生態		【全長】頭胴長約 12.5～18.5cm、尾長約 1.5～3.0cm 【生息環境】草原や農耕地、森林等。 【食性】ミミズや虫等。 【繁殖生態】繁殖期は春から初夏であり、2～6 個体を出産する。 【分布】国内:本州西部、四国、九州、種子島、屋久島、対馬などの属島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　A			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地、市街地等(林縁・河川付近)の 9 地点で、9 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、市街地等(林縁・河川付近)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、市街地等(林縁・河川付近)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

注) 坑道による確認で種の特定ができないため、可能性が考えられるコウベモグラの一般生態及び選定基準を記載しました。

表 11.8-37(3)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**アカネズミ**		科名　**ネズミ科**	
一般生態		【全長】頭胴長約 8～14cm 【生息環境】森林、農耕地、河川敷などに生息する。 【食性】種子、植物根茎、昆虫を食べる。 【繁殖生態】交尾期は春秋の 2 回であるが環境によって異なる。本州では 1 腹産子数は 1～8 個体である。 【分布】国内:北海道から九州とその属島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑針葉樹二次林、植林地、耕作地の 15 地点で、15 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 15 地点のうち 3 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑針葉樹二次林、植林地、耕作地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 15 地点のうち 3 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑針葉樹二次林、植林地、耕作地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-37(4)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**カヤネズミ**		科名　**ネズミ科**	
一般生態		【全長】頭胴長約 60～70mm 【生息環境】草原、水田、耕作地などに生息する。 【食性】小麦などの植物、バッタなどの昆虫を食べる。 【繁殖生態】繁殖期は春と秋の 2 回で 2～8 個体を出産する。ススキ、エノコロクサ、チガヤなどを用いて球形の巣をつくる。 【分布】国内:太平洋側では福島県以南、日本海側では石川県以南から九州、隠岐島、淡路島などの島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　A			
確認状況		落葉広葉樹二次林(ため池付近の林縁)、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(造成地の草地)の 18 地点で、22 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 18 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林(ため池付近の林縁)、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(造成地の草地)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 18 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林(ため池付近の林縁)、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(造成地の草地)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-37(5)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**タヌキ**			科名　**イヌ科**	
一般生態		【全長】頭胴長約 50～70cm、尾長約 13～25cm 程度 【生息環境】平地から亜高山帯の林や林縁に生息する。 【食性】果実、昆虫、ミミズ、ネズミなどを食べる雑食性である。 【繁殖生態】交尾期は 2～4 月、出産期は 5～6 月であり、年 1 回 1～8 個体を出産する。 【分布】国内:本州から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　－		
		Ⅶ明石市RL2019　B				
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等の 35 地点で、39 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 35 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路の影響が考えられますが、移動経路は工事の実施区域では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 35 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路の影響が考えられますが、移動経路は都市計画対象道路では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-37(6)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**キツネ**			科名　**イヌ科**	
一般生態		【全長】頭胴長約 60～75cm 【生息環境】海岸から高山にかけて生息し、農林地、森林、原野、集落地が混在する環境を好む。 【食性】哺乳類、鳥類、爬虫類、昆虫などの動物質から果実などを食べる。 【繁殖生態】交尾期は 12～2 月、2～7 個体を出産する。 【分布】国内:本州から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　調		
		Ⅶ明石市RL2019　B				
確認状況		常緑広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、耕作地、その他草地群落、市街地等の 15 地点で、15 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 15 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、耕作地、その他草地群落、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路の影響が考えられますが、移動経路は工事の実施区域では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 15 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、耕作地、その他草地群落、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路の影響が考えられますが、移動経路は都市計画対象道路では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-37(7)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**イタチ属**		科名　**イタチ科**	
一般生態		【全長】頭胴長:雄約 27～37cm、雌約 16～25cm 【生息環境】平野部や山間部に生息する。 【食性】ネズミや昆虫、魚などの小動物を主に食べる。 【繁殖生態】交尾期は 4～5 月で年 1 回 4～5 個体を出産する。 【分布】国内:北海道から九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　調	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、市街地等の 27 地点で、27 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 27 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路の影響が考えられますが、移動経路は工事の実施区域では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 27 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路の影響が考えられますが、移動経路は都市計画対象道路では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

注）糞による確認で種の特定ができないため、可能性が考えられるニホンイタチの一般生態及び選定基準を記載しました。

表 11.8-37(8)　重要な種の予測結果(哺乳類)

項目		種名　**アナグマ**		科名　**イタチ科**	
一般生態		【全長】頭胴長約 44～68cm 【生息環境】低山帯の森林や低木林に巣穴のトンネルを掘って生活している。 【食性】ミミズ類、昆虫類、両生類、果実類などを食べる。 【繁殖生態】繁殖期は春で、1 回に 1～4 仔を産む。完全な「冬眠」はしないが、厳冬期には穴の中にこもってなかなか外にでないことがある。 【分布】国内:本州、四国、九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		市街地等(緑地、公園等)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は市街地等(緑地、公園等)を含む低山帯の森林や低木林などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路への影響が考えられますが、移動経路は工事の実施区域では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は市街地等(緑地、公園等)を含む低山帯の森林や低木林などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種については、生息環境を結ぶ移動経路への影響が考えられますが、移動経路は都市計画対象道路では確認されていません。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

ii) 鳥類

重要な鳥類の予測結果は、表 11.8-38 に示すとおりです。

表 11.8-38(1)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**オシドリ**</td><td colspan="2">科名　**カモ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 41～51cm
【生息環境】冬期は岸を林が覆っている湖や池、河川などに移動し、群れで生活する。
【食性】ドングリを好んで食べる他、穀類や水生植物、小動物などを採食する。
【繁殖生態】繁殖期には、山地の渓流で生活し、森林の樹洞で営巣する。
【分布】国内:北海道から九州。県内:神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市、洲本市、伊丹市、豊岡市、加古川市、宝塚市、三木市、川西市、三田市、加西市、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、稲美町、太子町、香美町
※県内繁殖有</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td colspan="2">Ⅲ環境省RL2020　DD</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　B</td><td colspan="2">Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">湿地・河川・池沼植生の 1 地点で、12 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(2)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**ヨシガモ**</td><td colspan="2">科名　**カモ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 48cm
【生息環境】湖沼、ダム湖、河川、沼沢地、潟湖、干潟、水田などに生息する。
【食性】夜間に水田に出て採食する。主として植物食でイネ科、タデ科などの種子などを食べる。
【繁殖生態】繁殖期は 6～7 月頃。水辺の木株や土くれの上の草に覆われたところに草の葉や茎で皿形の巣を作る。
【分布】国内:冬鳥として本州、四国、九州。県内:播磨地域、丹波地域、阪神地域で主に越冬、淡路や但馬地域の円山川でも確認。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td colspan="2">Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　－</td><td colspan="2">Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(ため池)の 5 地点で、53 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む湖沼、ダム湖、河川、沼沢地、潟湖、干潟、水田などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む湖沼、ダム湖、河川、沼沢地、潟湖、干潟、水田などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(3)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　シマアジ		科名　カモ科	
一般生態		【全長】約 38cm 【生息環境】湖沼、沼沢地、湿地の小さい池、干潟、水田などに現れる。繁殖地では、林の中の水辺や、小さい池が多数散在する草の茂った湿地地帯にすむ。 【食性】流れのない、狭くて浅い水面で採食する。水中に首を入れたり、くちばしでこしとったりする。雑食性だが、主として植物食で、イネ科やタデ科などの種子・植物片、ときにはアオミドロも食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 4～6 月、一夫一妻で繁殖する。巣は窪みに草を敷いた皿形で、雌がつくり、産座に自分の綿毛を敷く。 【分布】国内:旅鳥として、春と秋の渡り期に立ち寄る。県内:春・秋に通過する旅鳥。多くは播磨地域の溜池、但馬地域の円山川流域で確認。越冬期の出現はまれで、近年の越冬確認情報はない。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　C	Ⅵ神戸版RL2020　通過 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(ため池)の 2 地点で、4 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む湖沼、沼沢地、湿地の小さい池、干潟、水田などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む湖沼、沼沢地、湿地の小さい池、干潟、水田などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(4)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　クロガモ		科名　カモ科	
一般生態		【全長】約 48cm 【生息環境】海上や内湾、海岸 【食性】潜水して貝類や甲殻類などを採食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:冬鳥として北海道、本州、四国、沖縄。県内:主に 9～翌 3 月に確認。重油や化学物質の流出による被害で、海上の群れが大きな打撃を受ける例がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　C	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(ため池)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む海上や内湾、海岸などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む海上や内湾、海岸などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(5)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名	オオハム	科名	アビ科		
一般生態		【全長】約 58～73cm 【生息環境】主に外海や内海に生息し、稀に内湾、河口、沿岸近くの湖沼などで見られる。 【食性】潜水をして魚類を捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:冬鳥として北海道、本州、四国、九州。県内:主に 11～翌 4 月に確認。重油や化学物質の流出による被害で、海上の群れが大きな打撃を受けることがある。					
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020	－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2025	調	Ⅵ神戸版RL2020	－
		Ⅶ明石市RL2019	－				
確認状況		市街地等(ため池)の 1 地点で、1 個体を確認しました。					
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む主に外海や内海などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む主に外海や内海などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B

表 11.8-38(6)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名	コウノトリ	科名	コウノトリ科		
一般生態		【全長】約 112cm 【生息環境】樹林が散在する湿地草原で繁殖する。冬は河口や入江の干潟、潟湖、水田、大きい河川などの砂泥地で見られる。 【食性】主にドジョウやコイなどの魚、両生類、昆虫などを食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 4～6 月、一夫一妻で繁殖する。見通しのよい枯れ木などの上の高さ 4～17m のところに巣を作る。 【分布】国内:ごくまれに渡来する冬鳥、ほぼ全国。県内:留鳥として豊岡盆地に生息していたコウノトリは 1971 年に絶滅。2005 年に野生復帰事業による 5 羽が放鳥され、近年は、野生復帰事業による放鳥・繁殖個体の記録が大半を占めている。					
選定基準		Ⅰ文化財保護法	特別	Ⅱ種の保存法	国内	Ⅲ環境省RL2020	CR
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2025	A	Ⅵ神戸版RL2020	－
		Ⅶ明石市RL2019	－				
確認状況		耕作地、市街地等(上空)の 3 地点で、8 個体を確認しました。					
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(上空)を含む樹林が散在する湿地草原、河口や入江の干潟、潟湖、水田、大きい河川などの砂泥地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(上空)を含む樹林が散在する湿地草原、河口や入江の干潟、潟湖、水田、大きい河川などの砂泥地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B

表 11.8-38(7)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**ゴイサギ**		科名　**サギ科**	
一般生態		【全長】約 57cm 【生息環境】湖沼、池、河川、海岸など 【食性】夜間、水辺で昆虫、オタマジャクシやカエル、ドジョウやフナ、アメリカザリガニなどを食べる。ほとんどが魚類だが、ハタネズミのような小型哺乳類も食べる。また、コロニー内の他のサギ類の雛を襲うこともある。 【繁殖生態】繁殖期は4～7月、年に1回の繁殖がふつうで、一夫一妻で繁殖する。コサギ、アマサギ、ダイサギなどと混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林などの樹上に営巣する。 【分布】国内:夏鳥又は留鳥で、本州から九州で繁殖。県内:繁殖期は山間地域を除く県内全域に、越冬期は県南部に偏在。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 13 地点で、31 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(8)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**ササゴイ**		科名　**サギ科**	
一般生態		【全長】約 52cm 【生息環境】平地の河川や池沼に生息する。 【食性】小魚類やカエル類、エビ類、昆虫類などの水辺の小動物を捕食する。 【繁殖生態】河畔林や社寺林などの大木に小集団で営巣する。 【分布】国内:北海道、天売島、本州、佐渡、隠岐、見島、四国、九州、対馬、男女群島、屋久島、種子島、伊豆諸島、小笠原群島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、先島諸島、大東諸島。県内:神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、伊丹市、豊岡市、加古川市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、篠山市、養父市、丹波市、朝来市、宍粟市、加東市、たつの市、稲美町、播磨町、佐用町、香美町、新温泉町　※県内繁殖有。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　C	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B	
		Ⅶ明石市RL2019　調			
確認状況		市街地等(水路)の 6 地点で、6 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路)を含む平地の河川や池沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路)を含む平地の河川や池沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(9)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　　**アマサギ**</td><td>科名　**サギ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 50cm
【生息環境】農耕地や草原、河原、湖沼地などに生息するが、他のサギ類と比べると乾いた草地を好む。
【食性】水田やハス田の畦道や草原で、イナゴ、バッタなどの昆虫やカエルなどをよく食べる。
【繁殖生態】繁殖期は 4 月～9 月、年に 1 回の繁殖がふつうで、一夫一妻で繁殖するが、まれに一夫二妻の場合もある。コサギ、チュウサギ、ダイサギなどと混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林などの樹上に営巣する。
【分布】国内:夏鳥として渡来、本州から九州で繁殖。県内:夏鳥として渡来、少数の越冬例もあり。2007 年のコロニー調査では 10 コロニーが確認されたが、県北部には確認されなかった。アマサギのみの単独コロニーは確認されず、他のサギ類と共に営巣する規模の大きな混合コロニーに観察される例が多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">耕作地、市街地等(ため池)の 2 地点で、10 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は耕作地、市街地等(ため池)を含む農耕地や草原、河原、湖沼地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は耕作地、市街地等(ため池)を含む農耕地や草原、河原、湖沼地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(10)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　　**ダイサギ**</td><td>科名　**サギ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 88～98cm
【生息環境】河川、湖沼、池、水田、湿地、河口、干潟など。
【食性】水の中をゆっくり歩いて魚類を捕まえる。両生類、甲殻類のほかネズミなどの小哺乳類も食べる。
【繁殖生態】繁殖期は 4～9 月、年に 1 回の繁殖がふつうで、一夫一妻で繁殖する。他のサギ類とともに混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林などの樹上に営巣する。
【分布】国内:関東地方から九州で繁殖する。県内:全域で他のサギ類との混合コロニーで繁殖。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 133 地点で、168 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 133 地点のうち 9 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 133 地点のうち 9 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(11)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**チュウサギ**</td><td colspan="2">科名　**サギ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 68cm
【生息環境】平地の水田、湿地、時には大きな川に生息する。
【食性】昆虫、クモ類、ドジョウやフナなどの魚類、アメリカザリガニなどの甲殻類、カエルなどの両生類を食べる。
【繁殖生態】繁殖期は 4～9 月頃。コサギ、アマサギ、ダイサギ、ゴイサギなどと混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林などでコロニーを作る。枯れ枝などを用いて粗雑な皿型の巣を作る。
【分布】国内:夏鳥として本州から九州で繁殖する。県内:夏鳥として渡来、他のサギ類との混合コロニーで繁殖している。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　NT</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">耕作地(水田等)の 14 地点で、24 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 14 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は耕作地(水田等)を含む湿地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 14 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は耕作地(水田等)を含む湿地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(12)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**コサギ**</td><td colspan="2">科名　**サギ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 61cm
【生息環境】河川、水田、湖沼、池、湿地、河口、干潟、海岸など
【食性】川の浅瀬や水田を歩いて、ドジョウ、フナ、ウグイ、オイカワなどの魚類、カエル、アメリカザリガニなどをくちばしではさみとる。
【繁殖生態】繁殖期は 4～9 月、年に 1 回の繁殖がふつうで、一夫一妻で繁殖する。ゴイサギ、チュウサギ、ダイサギなどと混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林などの樹上に営巣する。
【分布】国内:夏鳥又は漂鳥で、本州から九州で数多く繁殖する。県内:生息分布域は広く、山間地域の水辺でもよくみられる。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">低木群落、耕作地、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 79 地点で、115 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 79 地点のうち 5 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は低木群落、耕作地、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。 予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 79 地点のうち 5 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は低木群落、耕作地、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(13)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　クイナ		科名　クイナ科	
一般生態		【全長】約 29cm 【生息環境】平地から低山の湖沼、河川、水田などの草むらや、ヨシやマコモが密生する湿地に生息する。 【食性】湿地を歩いたり泳いだりしながら昆虫、クモ、カエル、エビ、小魚などを食べる。 【繁殖】繁殖期は 5～8 月頃。湖沼、河川の湿地の草むらに枯れたアシや草で皿形の巣を作る。 【分布】国内:東北地方北部から北海道。県内:冬鳥として、県南部で多く確認。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		耕作地、湿地・河川・池沼植生の 2 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(14)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ヒクイナ		科名　クイナ科	
一般生態		【全長】約 23cm 【生息環境】平地から低山の湖沼、河川、水田などの水辺の湿地の草むらや、ヨシやマコモが密生する場所に生息する。水辺近くの畑や草原にまで出てくることがある。 【食性】湿地を歩いたり泳いだりしながら、昆虫、クモ、カエル、エビ、小魚などをついばむ。植物質ではタデ科、イネ科、キク科などの草の種子も食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 5 月～8 月、年に 1～2 回、一夫一妻で繁殖すると考えられているが詳細は不明である。湖沼、河川、水田の水辺やヨシ原などの湿地に巣をつくるが、低木の低い枝に巣をつくることもある。イネ科植物、ヨシ、スゲ類の葉や茎を利用して、そのまま葉や茎を折り曲げて皿形の巣をつくる。比較的狭い範囲の湿地でも繁殖する。 【分布】国内:夏鳥として渡来、ほぼ全国で繁殖。冬は中国南部、インドシナ半島などに渡るが、東海地方以西の暖地では割合多く越冬していると思われる。県内:以前は、夏鳥として渡来し、平地の水辺の茂みで繁殖するとされていた。しかし、県南部では 2000 年頃から越冬期にも観察されることが増えた。生息確認地は播磨東部地域とその近隣に偏る傾向がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B 越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　A			
確認状況		耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(自然裸地)の 6 地点で、7 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 6 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(自然裸地)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 6 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(自然裸地)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(15)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ホトトギス		科名　カッコウ科	
一般生態		【全長】約 28cm 【生息環境】托卵習性をもち、主な仮親はウグイスである。そのため、生息環境もウグイスと一致して、低地から山地のササ藪のある林に生息する。 【食性】昆虫を主食とし、樹上で鱗翅類の幼虫を好んで食べる。 【繁殖生態】産卵期は、仮親であるウグイスと一致する 5～6 月で、ウグイス以外の仮親としては、ミソサザイ、センダイムシクイ、クロツグミ、アオジ、ベニマシコの記録がある。 【分布】国内:夏鳥として渡来し、北海道南部から九州で繁殖。県内:全域で繁殖期の生息確認記録あり。カッコウ科の中では、本種だけが淡路地域での観察例が多い。以前と近年の生息分布に変化はない。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、竹林の 8 地点で、8 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 8 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、竹林などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 8 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、竹林などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(16)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ケリ		科名　チドリ科	
一般生態		【全長】約 36cm 【生息環境】水田、河原、荒れ地、芝原、牧草地、灌木が散在する草原など、平坦で開けた場所に生息する。 【食性】湿田、水田、砂泥地などで、地上を歩いたり走ったりして採食する。昆虫の成虫・幼虫、イネ科やタデ科などの草の種子をついばむ。 【繁殖生態】繁殖期は 3～6 月、一夫一妻で繁殖する。地上の砂地に窪みを掘り、枯れ草、蘚類、地衣類、木片などを敷いて巣を作る。 【分布】国内:夏鳥として本州の中部以北で繁殖、兵庫県あたりが南限。北海道にはめったに現れない。県内:東播磨地域、丹波地域、但馬地域の平野部での繁殖、越冬記録が確認されている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		耕作地(水田)、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)の 55 地点で、98 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 55 地点のうち 3 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地(水田)、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 55 地点のうち 3 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地(水田)、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(17)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ムナグロ		科名　チドリ科	
一般生態		【全長】約 24cm 【生息環境】渡り期には、水を張った水田、掘り起こした水田、河原、砂浜、牧草地などで見られ、冬は乾田、芝生、干拓地、荒れ地、干潟、サトウキビを刈りとった跡地などにいる。 【食性】昆虫、甲殻類、貝類、ミミズやゴカイ類などの動物食だが、草の種子も食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 6～7 月ごろ、一夫一妻で繁殖する。巣は地上に窪みをつくり、草や葉を敷く。 【分布】国内:渡りの途上の 8～10 月と 4～6 月に立ち寄る旅鳥、一部は本州中部以南で越冬。県内:旅鳥として国内の干潟や河口、内陸部の水田や畑、河原に飛来。主に移動期に内陸部の休耕田や河川敷等での観察例が多い。以前と近年の生息分布域には違いが極めて小さい。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　通過 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(水路)の 7 地点で、32 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路)を含む水田、河原、砂浜などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路)を含む水田、河原、砂浜などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(18)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　イカルチドリ		科名　チドリ科	
一般生態		【全長】約 21cm 【生息環境】砂礫地がある河川、湖沼、池、水田などに生息する。 【食性】主として、砂礫地の水辺やその周辺を走ったり歩いたりしながら、地上や水面、あるいは水底の泥の表面からついばむ。甲虫など昆虫の成虫、幼虫を食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 3～7 月、一夫一妻で繁殖する。巣は礫の間の地上に雌雄で窪みをつくり、植物の破片を敷く。 【分布】国内:本州、四国、九州で繁殖。県内:全域の河川敷に生息しているが、繁殖の確認は減少している。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B 越冬 B	
		Ⅶ明石市RL2019　調			
確認状況		塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 11 地点で、22 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(19)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　コチドリ		科名　チドリ科	
一般生態		【全長】約 16cm 【生息環境】河川、埋立地、造成地の草の少ない砂泥地や砂礫地などに生息する。 【食性】砂泥地の表面から、昆虫の成虫・幼虫をくわえとる。 【繁殖生態】繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖する。巣は砂地に雌雄で浅い窪みを掘り、内装に小石や貝殻の破片、あるいは植物片などを敷く。 【分布】国内:夏鳥として北海道、本州、四国、九州で繁殖。県内:夏鳥として渡来し、繁殖地の分布は東播磨地域、阪神地域、丹波地域の円山川流域で増えている。また、一部は県内南部地域で越冬している。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		耕作地(水田)、市街地等の 37 地点で、86 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 37 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地(水田)、市街地を含む河川、埋立地、造成地の草の少ない砂泥地や砂礫地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 37 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地(水田)、市街地を含む河川、埋立地、造成地の草の少ない砂泥地や砂礫地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(20)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　シロチドリ		科名　チドリ科	
一般生態		【全長】約 17cm 【生息環境】川の下流や海岸に生息する。 【食性】鞘翅類や半翅類などの昆虫、クモ類、ハマトビムシなどの甲殻類、ミミズやゴカイ類、小型の貝類などを食べ、引く波を追いかけ、砂に隠れるヨコエビ類を捕まえる。 【繁殖生態】繁殖期は 3～7 月、一夫一妻で繁殖する。巣は、砂地の漂流物の間や疎らな草の間などの浅い窪みに、木片、小石、貝殻片などを敷いて巣を作る。 【分布】国内:北海道では夏鳥、本州以南では留鳥。県内:近年東播磨地域、阪神地域、但馬地域の丸山川流域に増えている。一部は冬季にも県内に留まるが、越冬地は南部の地域に偏る傾向がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　A	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B 越冬 B	
		Ⅶ明石市RL2019　A			
確認状況		市街地等(水路、砂浜)の 8 地点で、25 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路、砂浜)を含む川の下流や海岸です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路、砂浜)を含む川の下流や海岸です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(21)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　セイタカシギ		科名　セイタカシギ科	
一般生態		【全長】約 35～40cm 【生息環境】湖沼畔、河口、湿地、水田などに生息する。 【食性】泥中の水生昆虫類や魚類、甲殻類などを採食する。 【繁殖生態】繁殖時期は 4-6 月で、水際の見通しのよい場所に枯れ草などを重ねて営巣し 4 卵を産む。抱卵は雌雄共同で行い、抱卵日数は 26-27 日。 【分布】国内:北海道、本州、佐渡、舳倉島、見島、四国、九州、伊豆諸島、小笠原群島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島。県内:神戸市、姫路市、明石市、西宮市、洲本市、伊丹市、豊岡市、加古川市、高砂市、篠山市、南あわじ市、淡路市、稲美町、播磨町。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　通過 B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		市街地等の 1 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等を含む湖沼畔、河口、湿地、水田などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等を含む湖沼畔、河口、湿地、水田などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(22)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ヤマシギ		科名　シギ科	
一般生態		【全長】約 34cm 【生息環境】平地から山地の森林に生息し、主に夜間に行動する。 【食性】林内や林縁、農耕地などでミミズ類を好んで採食する。 【繁殖生態】一夫一妻のつがい関係を持ち、地上に一腹約 4 卵を産み、メスが抱卵する。21～24 日でふ化し、15～20 日後に巣立つ。 【分布】国内:北海道、本州北部では夏鳥、本州中部では留鳥又は冬鳥、本州南西部、四国、九州、沖縄では冬鳥。県内:主に 10～翌 4 月上旬に見られる。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		その他草地群落の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落を含む平地から山地の森林などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落を含む平地から山地の森林などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(23)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**タシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 26cm 【生息環境】干潟、溜池、沼地、水田、河川などのふち、また隠れた泥地などで見られる。 【食性】昆虫の幼虫、ミミズ、小型の甲殻類、小型の軟体動物などを食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖する。番(つがい)は雛が孵化すると解消される。巣は地上の乾いたところの草陰や藪の下などの窪みにつくり、草片で内張りをする。 【分布】国内:旅鳥として各地に現れ、本州南部以南では越冬するものもいる。県内:近年は越冬期に但馬地域、東播磨、神戸市西区の農耕地での観察例が多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　C	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林(耕作地付近の林縁)、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)の 15 地点で、37 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(24)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**チュウシャクシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 42cm 【生息環境】海岸の干潟、砂浜の水溜り、マングローブ林のふち、河川の砂泥地、水田などで見られる。 【食性】大きい体と下湾した長いくちばしを使って泥地を歩き、もっぱら泥の中に探りを入れ、こじるようにしてカニやカエルなどをほじり出す。水生昆虫の幼虫やベリーなども食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 6～7 月、一夫一妻で繁殖する。巣はツンドラ内の乾いた地上に窪みをつくり、植物片で内張りをする。 【分布】国内:旅鳥として9～10 月と4～5 月に、各地に少なからず現れる。県内:旅鳥として、干潟や河口、内陸の河川や農耕地に飛来する。確認記録は、主に移動期の海岸部が多いが、神戸市西区や東播磨地域の内陸部での観察例もある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　通過 B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		植林地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路)の 11 地点で、49 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は植林地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は植林地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(25)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**アオアシシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 32cm 【生息環境】繁殖地では、寒帯の海岸から山岳までの開けた泥沼地、湖沼縁の湿地、枯れ木の多い荒れ地、蘚類や地衣類の多い灌木地などに生息する。非繁殖期には、河川、河口、干潟、海岸の水溜まり、潟湖、池沼、水田などの砂泥地で見られる。 【食性】水生昆虫、甲殻類、ミミズ、カエル類や小魚も食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖するが、一夫二妻もしばしば記録されている。樹木や石のそばに巣を作る。 【分布】国内:旅鳥として各地に現れ、8～10 月と 4～5 月に見られる。県内:旅鳥として春・秋に通過する。東播磨地域から神戸市西部で確認。また、南部地域では越冬期にも確認。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　通過 B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(ため池)の 3 地点で、3 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む河川、河口、干潟、海岸の水溜まり、潟湖、池沼、水田などの砂泥地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む河川、河口、干潟、海岸の水溜まり、潟湖、池沼、水田などの砂泥地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(26)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**クサシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 22cm 【生息環境】河口、海岸の干潟、内陸の河川、溝、湖沼など、草の疎らな砂泥地に生息する。 【食性】浅く水につかる砂泥地を歩いて、表面にいる甲虫や双翅類などの昆虫、甲殻類、クモ、軟体動物をついばむ。植物の種子なども食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖する。カラス、モズ、ツグミ類などの古巣を利用し、地衣類や蘚類で内張りをして巣を作る。倒木上や地上に作ることもある。 【分布】国内:日本には各地の旅鳥として現れ、普通に見られるが、秋の方がよく見かける。本州以南で少数が越冬する。県内:越冬期に播磨地域南部、神戸市西部、但馬地域東部、丹波地域の河川や池湖畔でよく観察されている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(ため池、水路)の 7 地点で、8 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池、水路)を含む河口、海岸の干潟、内陸の河川、溝、湖沼など、草の疎らな砂泥地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池、水路)を含む河口、海岸の干潟、内陸の河川、溝、湖沼など、草の疎らな砂泥地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(27)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**タカブシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 20cm 【生息環境】河口、河川、湿地、池沼、水田、ハス田などに生息する。 【食性】昆虫類や甲殻類、ミミズ類などを採食する。 【繁殖生態】国内では繁殖せず、旅鳥として春期、秋期に全国の湿地などで観察される。また関東以南では冬鳥として越冬する。 一夫一妻で繁殖を行う。5 月～7 月中旬に疎林内のコケ湿原の窪みに作られた巣に通常 4 個産卵する。他種の樹上の古巣も利用することもある。 【分布】国内:北海道では旅鳥、本州、四国、九州では旅鳥又は冬鳥、沖縄では冬鳥。県内:主に 3～5 月と 8～11 月に見られるが、冬にも記録がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　通過 C	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		市街地等(ため池)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む河口、河川、湿地、池沼、水田、ハス田などです。予測の結果、一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む河口、河川、湿地、池沼、水田、ハス田などです。予測の結果、一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(28)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**キアシシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 25cm 【生息環境】繁殖地では石の多い森林ツンドラ、あるいは山地の河原などに生息する。越冬期や渡り期には、海岸の砂浜、波うち際や干潟、サンゴ礁、マングローブ林の水際、河川の砂泥地や砂礫地に現れる。春の渡り期には内陸の河原でも普通に現れる。 【食性】浅く水につかる泥地や砂礫地で水の中に入って歩き、表面や水中から甲虫や双翅類などの昆虫をついばむ。 【繁殖生態】繁殖期や繁殖についてはあまりわかっていない。7 月に巣が見つかり、雛は 8 月に観察されている。巣は川辺の石の間にある。 【分布】国内:旅鳥として全国に現れ、8～10 月と 5～6 月にふつうに見られる。県内:移動期の観察例がほとんどである。県南部では河口や干潟、砂浜などの海岸部での観察が多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　通過 B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路、砂浜)の 13 地点で、36 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路、砂浜)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路、砂浜)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(29)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**イソシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 20cm 【生息環境】川や湖沼に生息する。 【食性】水辺を歩いて、昆虫をついばんだりほじくり出したりする。とくに、ユスリカ類を長いくちばしでつまみとるようについばむ。 【繁殖生態】繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖するものが多いが、同時的な一夫二妻、継時的な一妻多夫の例がある。砂地に浅い窪みを掘り、枯れ草を敷いて皿型の巣を作る。 【分布】国内:全国で繁殖するが、北日本では夏鳥。県内:河川や池沼畔で観察例がある。越冬期では主要河川沿いでの観察例が多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　C	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		植林地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 44 地点で、48 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 44 地点のうち 3 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は植林地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 44 地点のうち 3 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は植林地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(30)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**トウネン**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 15cm 【生息環境】渡り期や越冬地では、海岸の砂浜の波打ちぎわや水溜り、内湾や河口部の潮干帯の干潟砂泥地、湖沼、溜池、河川の岸辺や中州の砂泥地、水を張った水田など、薄く水につかるところや、乾きかけた平坦な泥地で見られる。 【食性】ミミズ、ゴカイ類、甲殻類、昆虫、小貝、草の種子などを泥の表面からつまみとったり、軽く突きさしたり、いくらか探りを入れたりして捕える。 【繁殖生態】繁殖期は多分 5～7 月。繁殖の詳しいことはわかっていないが、多分一夫一妻で繁殖する。 【分布】国内:旅鳥として全国に多数が現れ、最も普通に見られる小型のシギである。県内:移動期に、海岸部の河口、干潟、内陸部の河原、池畔、水田での観察例が数多くある。以前には数百羽の大きな群れや姫路市で越冬期の観察例があったが、近年は飛来場所が減少したせいか、個体数が激減している。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　通過 B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(ため池)の 1 地点で、4 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む海岸の砂浜の波打ちぎわや水溜り、内湾や河口部の潮干帯の干潟砂泥地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む海岸の砂浜の波打ちぎわや水溜り、内湾や河口部の潮干帯の干潟砂泥地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(31)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**オジロトウネン**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 14cm 【生息環境】干潟、水田、溜池などの湿った砂泥地で見られる。 【食性】浅く水に浸かって、あるいは湿った泥地を気忙に歩いて表面からついばみ、あまり探りを入れる採食はしない。双翅類の幼虫・成虫などの昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類などを食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 5～7 月、番の関係は短期的でルーズで、雄は一夫多妻的、雌は一妻多夫的である。巣は灌木の根元の地上につくり、浅い窪みに枯れ草で内張りをする。 【分布】国内:旅鳥として、少数が北海道、本州、九州に現れる。8～9 月と 4～5 月に見られ、秋のほうが多い。県内:春秋の移動期に渡来する旅鳥であるが、近年は越冬期に観察されることも多い。おもに播磨南部地域のため池、河川の湿地に生息する。少数の群れでいることが多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		市街地等(ため池)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む干潟、水田、溜池などの湿った砂泥地です。 予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む干潟、水田、溜池などの湿った砂泥地です。 予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(32)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**ハマシギ**		科名　**シギ科**	
一般生態		【全長】約 21cm 【生息環境】渡り期や越冬地では海岸の砂浜、干潟の水溜り、潟湖、溜池、水を張った水田、内陸の湖沼や大きい河川の砂泥地などに現れる。 【食性】砂泥地を歩き回って、水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 5～7 月頃。草や潅木の根元に浅い窪みを作り、枯れ草や蘚類を敷いて巣を作る。 【分布】国内:旅鳥として 8～10 月頃と 4～5 月頃に現れる。県内:春秋の移動期に、県南部の海岸地域の河口、干潟、ため池などで群れて動くことが多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　C	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		市街地等(ため池、水路)の 6 地点で、65 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池、水路)を含む海岸の砂浜、干潟の水溜り、潟湖、溜池などです。 予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(ため池、水路)を含む海岸の砂浜、干潟の水溜り、潟湖、溜池などです。 予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(33)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**ズグロカモメ**		科名　**カモメ科**	
一般生態		【全長】約 30cm、翼開長約 88cm 【生息環境】内湾や干潟、海上に生息する。 【食性】カニ類、エビ類、魚類、貝類、昆虫類などの小動物や魚類の死骸などを採食する。 【繁殖生態】5 月中旬に通常 3 卵を産む。雌雄交代で約 22 日間抱卵し、雛は孵化後すぐに巣を離れる。飛翔まで約 1 ヶ月かかる。繁殖地の中国遼寧省で標識放鳥したものが、日本の九州各地、四国、本州西部及び韓国南西部で発見されたことにより、これら繁殖個体群と越冬個体群との関係が明確になった。 【分布】国内:北海道、本州、佐渡、角島、四国、九州、対馬、伊豆諸島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島。県内:姫路市、明石市、西宮市、加古川市、高砂市、たつの市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		市街地等(水路、河口付近の河川)の 5 地点で、32 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路、河口付近の河川)を含む内湾や干潟、海上などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路、河口付近の河川)を含む内湾や干潟、海上などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(34)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**オオセグロカモメ**		科名　**カモメ科**	
一般生態		【全長】約 64cm 【生息環境】ほとんどの個体が海岸から沿岸海上に周年生息する。 【食性】魚類、甲殻類などを食べる。 【繁殖生態】人やキツネ等の捕食者が近づけない孤島、崖地、離岸防波堤、建物の屋上などで主に集団繁殖する。 【分布】国内:北海道、本州北部の沿岸域で繁殖。越冬期は北海道から関東地方で多数が、それ以南では少数が越冬する。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(水路)の 3 地点で、3 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路)を含む海岸から沿岸海上などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(水路)を含む海岸から沿岸海上などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(35)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ミサゴ		科名　ミサゴ科	
一般生態		【全長】約 57cm 【生息環境】海岸、大きな川、湖などに生息する。 【食性】ボラ、スズキ、トビウオ、イワシなどの魚類だけを食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 3～7 月頃。人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に巣を作る。 【分布】国内:全国。県内:一年を通して観察される。以前は海岸部での観察例が多かったが、近年、内陸の河川沿い、池沼での観察例が増えている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 A 越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　A			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、市街地等(ため池、水路)の 80 地点で、82 個体を確認しました。猛禽類を対象とした定点観察測時には 33 例を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 80 地点のうち 12 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、市街地等(ため池、水路)を含む海岸、大きな川、湖などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 80 地点のうち 12 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、市街地等(ため池、水路)を含む海岸、大きな川、湖などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(36)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ハチクマ		科名　タカ科	
一般生態		【全長】約 55cm 【生息環境】標高 1,500m 以下の丘陵地や低山の山林に生息し、ナラなどの落葉広葉樹林やアカマツなどの針葉樹林で繁殖する。 【食性】名前が示すようにハチの幼虫や蛹を好んで食べ、クロスズメバチなどのジバチ類をとくに好む。秋・冬には他の昆虫、ネズミ類、トカゲ類なども捕食する。 【繁殖生態】繁殖期は 5 月下旬から 9 月、年に 1 回、一夫一妻で繁殖する。低山帯の大木の枝上に、他の猛禽類の古巣を利用して皿形の巣をつくるが、古巣に新しい巣材を補充していくためかなり大きな巣になる。 【分布】国内:夏鳥として 5 月ごろ渡来し、本州、佐渡島、北海道で繁殖。県内:春秋の渡りの時期には県内各地で確認。特に 9 月後半には山地だけでなく平地でも渡っていく姿を多く観察することができる。繁殖期の生息確認情報は、北部と東部に集中する。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(37)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**ハイタカ**		科名　**タカ科**	
一般生態		【全長】雄約 32cm、雌約 39cm 【生息環境】平地から亜高山帯の林に生息する。 【食性】林内、林縁の高地や草地などで獲物を捕らえる。餌は主にツグミくらいまでの小鳥を狩るが、ネズミやリス、ヒミズ等を捕らえることもある。 【繁殖】繁殖期は 3～8 月頃。カラマツの枝を主材に、皿形の巣を作る。 【分布】国内:北海道と本州では留鳥、四国、九州では冬鳥。県内:県内では繁殖しておらず、北部の山岳部を除く全域で越冬している。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　C	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地の 4 地点で、5 個体を確認しました。また、猛禽類を対象とした定点観察時には、17 例を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 4 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 4 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(38)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**オオタカ**		科名　**タカ科**	
一般生態		【全長】雄約 50cm、雌約 56cm 【生息環境】平地から亜高山帯(秋・冬は低山帯)の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林に生息する。 【食性】餌は主にツグミ級の小鳥で、ハト、カモ、シギ、キジ等の中、大型の鳥や、ネズミ、ウサギ等も食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 1～8 月頃。幹の上部が大きく又状に枝分かれした太いアカマツの枝等を積み重ねて厚みのある皿形の巣を作る。 【分布】国内:主に留鳥として、北海道、本州、四国、九州で繁殖。県内:近年、繁殖期、越冬期とも情報数は県南東部の都市近郊に多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B 越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　A			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地、市街地等(造成地の上空)の 6 地点で、6 個体を確認しました。また、猛禽類を対象とした定点観察時には 126 例を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の営巣地は、猛禽類を対象とした定点観察時に工事の実施区域周辺で確認されています。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、市街地等(造成地の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 一方、一部の営巣地周辺では、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置に伴う樹林地の消失・縮小により、繁殖に影響が生じる可能性が考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生息環境は保全されない可能性があると予測されます。			A
	道路の存在	本種の営巣地は、猛禽類を対象とした定点観察時に都市計画対象道路周辺で確認されています。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、市街地等(造成地の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 一方、一部の営巣地周辺では、都市計画対象道路の存在に伴う樹林地の消失・縮小により、繁殖に影響が生じる可能性が考えられます。 なお、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、道路に沿って侵入防止柵が設置される計画であり、道路上空を飛翔する高度は一定以上に維持されると考えられることから、影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生息環境は保全されない可能性があると予測されます。			A

表 11.8-38(39)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**ノスリ**		科名　**タカ科**	
一般生態		【全長】約 54cm、翼開長約 122～137cm 【生息環境】平地、丘陵地から山地の林に生息する。 【食性】山間から平地の農耕地や牧場、池沼、河原などの草原でネズミ類、ヘビ類、小型鳥類、昆虫類などを捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、南千島、本州、佐渡、舳倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、男女群島、屋久島、種子島、伊豆諸島、小笠原諸島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島。県内:神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、稲美町、市川町、福崎町、神河町、太子町、佐用町、香美町、新温泉町　※県内繁殖有。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、竹林、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池の上空)の 12 地点で、18 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(40)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**フクロウ**		科名　**フクロウ科**	
一般生態		【全長】約 50cm 【生息環境】低地、低山帯から亜高山帯にかけて、様々なタイプの樹林に生息する。特に大きい樹木のある落葉広葉樹林や針広混交林を好む。 【食性】夜行性で、林縁や下枝の少ない樹林などでネズミ類、小型哺乳類、鳥類等を食べる。 【繁殖】繁殖期は 3～5 月頃。樹洞やカラス等他種の古巣、巣箱に巣を作る。 【分布】国内:北海道から本州、四国、九州。個体数は多くないが、普通にいる留鳥である。県内:1 年を通して、ほぼ全域で確認。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B 越冬 B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 2 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(41)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　カワセミ		科名　カワセミ科	
一般生態		【全長】約 17cm 【生息環境】河川、湖沼、湿地、小川、用水などの水辺に生息する。 【食性】水辺の杭や水草、枝などに止まり、餌を見つけると水面に飛び込んで捕食する。餌は主に川魚であり、ザリガニ、エビ、カエルなども食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 3～8 月頃。水辺の土質の崖に 50～100cm ぐらいの深さの巣穴を掘る。 【分布】国内:北海道では夏鳥、本州以南では留鳥として全国で繁殖。県内:全域の水辺に生息するが、山間部には少ない傾向がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　注	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　A			
確認状況		耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 29 地点で、31 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(42)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　アリスイ		科名　キツツキ科	
一般生態		【全長】約 18cm 【生息環境】開けた森林、林縁、農耕地などに生息する。 【食性】地上や樹上でアリ類を好んで採食する。 【繁殖生態】他の鳥などがあけた樹洞を利用して営巣する。一腹 7～10 卵を産み、雌雄が抱卵する。 【分布】国内:北海道、南千島、本州北部、本州中・南西部、粟島、佐渡、舳倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、五島列島、種子島、伊豆諸島、トカラ列島、奄美大島、琉球諸島。県内:神戸市、姫路市、明石市、西宮市、洲本市、伊丹市、豊岡市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、川西市、小野市、三田市、南あわじ市、淡路市、加東市、猪名川町、稲美町、香美町。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		耕作地、その他草地群落、ゴルフ場・芝地の 3 地点で、3 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、その他草地群落、ゴルフ場・芝地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、その他草地群落、ゴルフ場・芝地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(43)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**アカゲラ**		科名　**キツツキ科**	
一般生態		【全長】約 24cm 【生息環境】落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。 【食性】大木の幹を螺旋状に登りながら、主に昆虫類などを捕食する。 【繁殖生態】枯れかけた木の幹に穴を掘り、一腹 4～6 卵を産む。雌雄交代で 12～15 日間抱卵する。 【分布】国内:北海道、本州。九州、四国では繁殖せず観察例は少ない。亜種アカゲラが本州に、別亜種エゾアカゲラが北海道にそれぞれ留鳥として分布する。県内:周年見られる。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　注	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑針葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑針葉樹二次林を含む落葉広葉樹林や針広混交林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑針葉樹二次林を含む落葉広葉樹林や針広混交林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(44)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**チョウゲンボウ**		科名　**ハヤブサ科**	
一般生態		【全長】約 35cm 【生息環境】平地から高山の草地、農耕地、川原、埋め立て地などに生息する。 【食性】小哺乳類や小鳥を捕まえるが、とくにネズミ類が主食である。 【繁殖生態】繁殖期は 4～7 月、一夫一妻で繁殖する。巣は崖の洞穴やカラスなど他の鳥の古巣につくる。 【分布】国内:本州中部の長野県、山梨県、栃木県又は宮城県などで繁殖し、冬は全国に広がる。県内:繁殖期にも確認されているが、多くは冬鳥として河川敷、農耕地、埋め立て地などの開けた場所で観察されている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 A	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		耕作地、市街地等(造成地の上空)の 31 地点で、31 個体を確認しました。また、猛禽類を対象とした定点観察時には 5 例を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 31 地点のうち 3 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(造成地の上空)を含む草地、農耕地、川原、埋め立て地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 31 地点のうち 3 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(造成地の上空)を含む草地、農耕地、川原、埋め立て地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(45)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**コチョウゲンボウ**</td><td>科名　**ハヤブサ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="3">【全長】約 28～31cm
【生息環境】平地の森林や農耕地、海岸、埋立地などに生息する。
【食性】田畑や埋立地の草原で主に小鳥類やネズミ類、昆虫類を捕食する。
【繁殖生態】ユーラシア大陸中央部の営巣地では、単独つがいで営巣し、地上に小枝などを敷いて巣をつくり、一腹 4～5 卵を産む。
【分布】国内:冬鳥として少数が渡来。県内:主に 9～翌 4 月に記録がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　越冬 B</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="3">常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、低木群落、耕作地の 1 地点で、1 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="2">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、低木群落、耕作地などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="2">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、低木群落、耕作地などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、本種の営巣地は調査地域に確認されていないこと、都市計画対象道路における利用頻度が低いことから、影響は小さいと考えられます。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(46)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**ハヤブサ**</td><td>科名　**ハヤブサ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="3">【全長】雄約 42cm、雌約 49cm
【生息環境】海岸や海岸に近い山地の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野等を生活域にする。
【食性】餌はヒヨドリ級の中型の小鳥で、まれにネズミやウサギを食べる。
【繁殖生態】繁殖期は 1～7 月頃。海岸や海岸に近い断崖の岩棚の窪みに、脚で砂泥や草の根等をかき出して産座を作り直接産卵する。
【分布】国内:留鳥として北海道から九州。特に東北地方と北海道の沿岸部に多い。県内:海岸や山地の崖地に営巣し、開けた場所で狩りをするため、生息確認情報が多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　国内</td><td>Ⅲ環境省RL2020　VU</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　B</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 A
越冬 C</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="3">市街地等の 15 地点で、17 個体を確認しました。また、猛禽類を対象とした定点観察時には 7 例を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="2">本種の確認地点 15 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は市街地等を含む海岸や海岸に近い山地の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="2">本種の確認地点 15 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は市街地等を含む海岸や海岸に近い山地の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として自動車の走行が考えられますが、橋梁部は路面高・幅員が周辺の建物や道路の高さと比較して突出した高さ・幅員ではないことから、影響は小さいと考えられます。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(47)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　サンショウクイ		科名　サンショウクイ科	
一般生態		【全長】約 20cm 【生息環境】主に標高 1,000m 以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に多い。以前は市街地の社寺林にも生息していたというが、都市化の進行とともに平地から姿を消した鳥の一つである。 【食性】樹冠部の葉や小枝が茂る下側で、ホバリングしながら虫や網にいるクモを、木の枝先で昆虫やクモを捕まえる。また、空中を飛ぶ昆虫に向かってフライングキャッチして捕食する。雛にも鱗翅類の幼虫やクモを多く与える。 【繁殖生態】繁殖期は 5～7 月、年に 1 回の繁殖がふつうと思われる。一夫一妻。ハンノキ、ハルニレなどの高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣をつくる。 【分布】国内:夏鳥として北海道を除き本州から西表島。個体数はあまり多くない。県内:移動期、繁殖期に観察記録がある。山地での観察例が多いが、その分布は南北に偏っている。近年、県南部の繁殖地は激減し、北部の但馬地域が主な繁殖地になっている。渡り時期は春季が 5 月上旬まで、秋季は 8 月下旬以降になっているため、複数群の観察例はわたり個体が多い。近年は九州地方、中国地方、四国地方で亜種リュウキュウサンショウクイの繁殖例が増加しているため、今後は県下への分布拡大の可能性が考えられる。		
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　注	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		竹林、市街地等(住宅地の上空)の 3 地点で、3 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は竹林、市街地等(住宅地の上空)を含む丘陵、平地の高い木のある広葉樹林などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は竹林、市街地等(住宅地の上空)を含む丘陵、平地の高い木のある広葉樹林などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(48)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　メボソムシクイ上種		科名　ムシクイ科	
一般生態		【全長】約 13cm 【生息環境】亜高山帯の針葉樹林や落葉広葉樹林に生息し繁殖する。 【食性】樹上で昆虫類やクモ類を採食する。 【繁殖生態】亜高山帯の針葉樹林や落葉広葉樹林に生息し繁殖する。 【分布】国内:本州、佐渡、四国、九州、伊豆諸島、沖縄島、八重山諸島、大東諸島。県内:神戸市、姫路市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、豊岡市、加古川市、赤穂市、三木市、高砂市、川西市、三田市、加西市、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、上郡町、香美町、新温泉町　※県内繁殖有。		
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD[*1]	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　B[*2]	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(緑地、公園等)の 7 地点で、8 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 7 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は市街地等(緑地、公園等)を含む針葉樹林や落葉広葉樹林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 7 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は市街地等(緑地、公園等)を含む針葉樹林や落葉広葉樹林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

注）姿による確認で種の特定ができず、オオムシクイ又はメボソムシクイの可能性があるため、一般生態はメボソムシクイ、選定基準はオオムシクイ[*1]、メボソムシクイ[*2]の内容を記載しました。

表 11.8-38(49)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**オオムシクイ**		科名　**ムシクイ科**	
一般生態		【全長】約 10～13cm 【生息環境】－ 【食性】－ 【繁殖生態】夏鳥として北海道の知床半島や千島列島、サハリン、カムチャツカで繁殖する。 【分布】国内:旅鳥として全国。個体数が多い。渡りの時期、春は 5 月中旬～6 月中旬、秋は 9 月中旬～10 月中旬によく見られる。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、竹林、耕作地、その他草地群落、ゴルフ場・芝地、市街地等(緑地、公園等)の 23 地点で、26 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 23 地点のうち 5 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、竹林、耕作地、その他草地群落、ゴルフ場・芝地、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 23 地点のうち 5 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、竹林、耕作地、その他草地群落、ゴルフ場・芝地、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(50)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**オオヨシキリ**		科名　**ヨシキリ科**	
一般生態		【全長】約 18cm 【生息環境】全国各地の水辺のヨシ原に生息し、海岸や河口などの低地の湿地や、山地の湖岸や川岸の湿地でふつうに繁殖する。竹林で繁殖する地方もある。 【食性】茎から茎へと移動しながら細く尖ったくちばしで昆虫を捕まえるが、空中に飛び出して飛んでいる昆虫をフライングキャッチすることもある。雛の餌には鱗翅類の幼虫とクモ類が多く、双翅類や直翅類、鱗翅類の成虫、マイマイなども与える。 【繁殖生態】繁殖期は 5～8 月、年に 1～2 回繁殖するが、本州中部以北では年に 1 回の繁殖がふつう。一夫多妻で繁殖する。 【分布】国内:夏鳥として、4 月下旬ごろ北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来する。8～9 月には渡去し、東南アジアで越冬する。県内:夏鳥として渡来し、県内全域のヨシ原のある池沼、河川敷、海岸などに生息し繁殖する。近年、溜池が多い東播磨～阪神西部地域、但馬地域の円山川流域に確認情報が多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　注	Ⅵ神戸版RL2020　繁殖 B	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		常緑広葉樹二次林(水路付近)、低木群落(ため池付近)、耕作地(ため池・水路付近)、その他草地群落、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 29 地点で、34 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 29 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 29 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(51)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名	ルリビタキ	科名	ヒタキ科	
一般生態		【全長】約 14cm 【生息環境】冬は低山から平地に移動し、山麓の暗い斜面や渓流沿いに生息する。 【食性】主に昆虫類、クモ類、ミミズ類などの小動物の他、秋から冬には草木の実なども採食する。 【繁殖生態】夏は高山の針葉樹林や針広混交林に生息し林床や倒木の窪みなどで繁殖する。 【分布】国内:北海道、南千島、本州、粟島、佐渡、舳倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、男女群島、屋久島、種子島、伊豆諸島、小笠原群島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島。北海道では夏鳥、本州、四国では留鳥、九州、沖縄では冬鳥。県内:神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、市川町、神河町、上郡町、佐用町、香美町、新温泉町　※県内繁殖有。平地では主に 10～翌 4 月に見られるが、一部の高い山地では 5～8 月の記録がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2025	A	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、市街地等(緑地、公園等)の 5 地点で、7 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-38(52)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名	ジョウビタキ	科名	ヒタキ科	
一般生態		【全長】約 15cm 【生息環境】平地から山地の農耕地や疎林、河原、緑の多い住宅地などに生息する。 【食性】昆虫やクモ、草木の実などを採食する。 【繁殖生態】日本では全国各地で越冬するが、最近、本州の一部で繁殖を始めた。 【分布】国内:北海道、南千島、礼文島、利尻島、焼尻島、天売島、本州、飛島、粟島、佐渡、舳倉島、隠岐、竹島、見島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、男女群島、甑島列島、宇治群島、草垣群島、上三島諸島、種子島、屋久島、伊豆諸島、小笠原群島、西之島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島。全国各地で越冬するが、最近、本州の一部で繁殖を始めた。 県内:神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町、香美町、新温泉町 ※県内全域の平地から里山の疎林や農耕地、公園緑地などで単独で縄張りを構えて、4 月頃まで定着し越冬する。以前は繁殖はしていなかったが、2013 年と 2016 年に養父市鉢伏高原で繁殖が確認された。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2025	注	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		兵庫県版 RL2025 でランク外から注目種となりました。現地調査時は一般種であったため、確認個体数や確認環境の情報はありませんが、冬季に越冬する個体をほぼ全域で確認しました。繁殖期の確認はありません。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-38(53)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ノビタキ**</td><td>科名　**ヒタキ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 13cm
【生息環境】背の低い草原に生息する。渡りの時期には平地の水田や川原を通過し、灌木の先や杭、草の葉先などに止まることが多い。
【食性】主に昆虫類を食べる。
【繁殖生態】灌木や草の根元で営巣する。
【分布】国内:北海道、南千島、本州北・中部、本州南西部、粟島、佐渡、舳倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、男女群島、屋久島、種子島、伊豆諸島、小笠原群島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島。県内:神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、芦屋市、伊丹市、豊岡市、加古川市、赤穂市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、上郡町、香美町、新温泉町　※県内繁殖有。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　A</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">耕作地、その他草地群落、市街地等(造成地の上空)の 9 地点で、29 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 9 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は耕作地、その他草地群落、市街地等(造成地の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 9 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は耕作地、その他草地群落、市街地等(造成地の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(54)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**コサメビタキ**</td><td>科名　**ヒタキ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 13cm
【生息環境】平地から低山の明るい林に生息する。
【食性】見通しの良い木の枝に止まって、飛んでいる昆虫類をフライングキャッチして食べる。
【繁殖生態】大木の横枝にコケやクモ類の糸を利用して皿形の巣を造る。
【分布】国内:北海道、南千島、本州、粟島、佐渡、舳倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、男女群島、伊豆諸島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島。県内:神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、伊丹市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、宝塚市、三木市、川西市、三田市、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、播磨町、神河町、上郡町、香美町　※県内繁殖有。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路の上空)の 22 地点で、23 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 22 地点のうち 3 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 22 地点のうち 3 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-38(55)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**キビタキ**		科名　**ヒタキ科**	
一般生態		【全長】約 14cm 【生息環境】丘陵や山地の常緑樹林、落葉樹林、針広混交林に生息する。 【食性】林の中層の枝に止まり、木の葉の裏面にいる虫や空中を飛翔する昆虫を狙う。 【繁殖生態】繁殖期は 5～8 月頃。樹洞や樹木の裂け目、茂った葉や蔓の間などに枯れ葉、枯れ草、コケ類などを用いて深い椀形に巣を作る。 【分布】国内:夏鳥としてほぼ全国。県内:以前は県中部には生息確認情報がなかったが、近年、丹波地域はじめ全域に広がっていることが確認され、生息域を浅い山林にも広げつつある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　注	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、竹林、耕作地、市街地等(緑地、公園等)の 34 地点で、40 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 34 地点のうち 5 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、竹林、耕作地、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 34 地点のうち 5 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、植林地、竹林、耕作地、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(56)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**オオルリ**		科名　**ヒタキ科**	
一般生態		【全長】約 16cm 【生息環境】主として低山帯から亜高山帯にかけての山地や丘陵に生息し、とくに渓流沿いのよく茂った林に多い。林の中の湖のほとりや、牧場と林の境などでも見られる。渡りの時期には市街地の公園でも観察される。 【食性】フライングキャッチ法で空中を飛ぶチョウ、ガ、ウンカ、アブ、羽化した水生昆虫などを捕え、また元の枝に舞いもどる。育雛期には雛にアオムシなどの昆虫の成虫・幼虫、ムカデなどを与える。 【繁殖生態】繁殖期は 5～8 月、年に 1 回、一夫一妻で繁殖する。崖地、渓流近くの落葉広葉樹林内の岩又は土の崖地に営巣し、渓流に面した岩壁や土壁につくることが多い。家屋の軒先やキャンプ場の建造物に営巣することもある。椀形の巣をつくる。 【分布】国内:夏鳥として 4 月下旬ごろに渡来し、南西諸島を除く北海道から九州までの全国各地で繁殖。県内:夏鳥として、九州以北の低山から山地の林に渡来、沢沿いや渓流を好む。移動期には、市街地の公園などでも観察される。移動期、繁殖期に全域で山地の沢筋での観察例、繁殖例が多くある。近年、丹波地域で観察例が増えたが、北播磨地域での観察例は少ない。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　注	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　調			
確認状況		常緑広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、市街地等(水路の上空)の 9 地点で、13 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 9 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、市街地等(水路の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 9 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、市街地等(水路の上空)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(57)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　セグロセキレイ		科名　セキレイ科	
一般生態		【全長】約 21cm 【生息環境】低地、低山帯、ときには亜高山帯の河川とその周辺に生息する。川の周辺の水田や集落、市街地でも見られる。 【食性】水辺の地上、湿った冬の水田の地上などを歩いて餌をついばむ。ほとんど昆虫食で、トビケラ類、カワゲラ類、カゲロウ類、双翅類などの幼虫・成虫を食べ、ときには籾などの種子も食べる。 【繁殖生態】繁殖期は 3～7 月、一夫一妻で繁殖するが、一夫二妻の記録もある。川の土手の窪み、河原の石や流木の下、人家の石垣や屋根、瓦の隙間などに巣を作る。 【分布】国内:留鳥として北海道、本州、四国、九州。冬鳥として対馬、伊豆諸島、奄美大島。県内:一年を通して全域で数多く確認されている。繁殖記録も、全域で記録されている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　調			
確認状況		落葉広葉樹二次林(ため池付近の林縁)、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、ゴルフ場・芝地、市街地等(ため池付近の林縁)の 95 地点で、127 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 95 地点のうち 8 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、ゴルフ場・芝地、市街地等(ため池付近の林縁)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 95 地点のうち 8 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、ゴルフ場・芝地、市街地等(ため池付近の林縁)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(58)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　ホオアカ		科名　ホオジロ科	
一般生態		【全長】約 16cm 【生息環境】夏は高原の草原やササ原に生息し、冬は広い灌木草原や河川敷、農耕地周囲の草むらやヨシ原に生息する。 【食性】繁殖期には昆虫類やクモ類を、秋から冬にはイネ科やタデ科の草の実を採食する。 【繁殖生態】草や低木の根元で営巣する。 【分布】国内:夏鳥として北海道、本州北・中部。冬鳥として本州南西部、四国、一部は繁殖。冬鳥として沖縄。県内:平地では主に 10～翌 5 月に見られるが、一部の高い山地では 6～8 月の記録がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　A	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		耕作地の 1 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む高原の草原やササ原、広い灌木草原や河川敷です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む高原の草原やササ原、広い灌木草原や河川敷です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(59)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**アオジ**		科名　**ホオジロ科**	
一般生態		【全長】約 16cm 【生息環境】山地帯上部から亜高山帯下部にかけての比較的乾いた明るい林にすみ、疎林で藪が多いところ、林縁、若木林などを好む。 【食性】ほとんど地上で採食する。タデ科、イネ科などの種子、ズミ、イボタノキなどの果実、夏には昆虫の成虫・幼虫も食べる。 【繁殖】繁殖期は 5～7 月頃。地上 1～2m ぐらいの藪の中の枝の叉上に乗せるように巣を作る。 【分布】国内:本州の中部以北、北海道で繁殖。冬は本州西南部、四国、九州から台湾、中国南部にかけてすごす。県内:移動期には山地やヨシ原などで渡りが確認され、越冬期には全域の農耕地、山林、河川敷等で観察されている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、ゴルフ場・芝地、市街地等(緑地、公園等)の 45 地点で、71 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 45 地点のうち 8 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、ゴルフ場・芝地、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 45 地点のうち 8 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、植林地、低木群落、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、ゴルフ場・芝地、市街地等(緑地、公園等)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(60)　重要な種の予測結果(鳥類)

項目		種名　**クロジ**		科名　**ホオジロ科**	
一般生態		【全長】約 17cm 【生息環境】夏はササなど、林床植物の繁った落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。冬には低山や山麓、丘陵の薄暗い森や社寺林に移動する。林の外にはめったに出ない。 【食性】林床の昆虫類や草木の実などを採食する。 【繁殖生態】本州中部以北で繁殖し、本州南西部以南で越冬する。巣は地上 1～2m の低木の中、ササの茎が密生する上に乗せるようにつくる。造巣はメスのみが行い、5～8 月に一腹 3～5 卵を産み、雌雄が約 12 日間抱卵する。 【分布】国内:夏鳥として北海道、夏鳥又は留鳥として本州北・中部、冬鳥として本州南西部、四国、九州、沖縄。本州南西部の高山では局地的に繁殖するところがある。県内:平地では主に 10～翌 5 月に見られるが、一部の高い山地では 7 月の記録がある。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2025　A	Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑広葉樹二次林の 1 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林を含む落葉広葉樹林や針広混交林や低山や山麓、丘陵の薄暗い森や社寺林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林を含む落葉広葉樹林や針広混交林や低山や山麓、丘陵の薄暗い森や社寺林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-38(61)　重要な種の予測結果(鳥類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**オオジュリン**</td><td>科名　**ホオジロ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 16cm
【生息環境】冬は本州以南のヨシ原、草地、農耕地などに生息する。
【食性】植物の種子や昆虫類などを食べる。
【繁殖生態】留鳥又は漂鳥として北海道、本州北部の平地の限られた草原、ヨシ原、牧草地などで繁殖する。
【分布】国内:夏鳥として北海道、留鳥又は漂鳥として本州、冬鳥として四国、九州。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2025　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　越冬 C</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路)の 5 地点で、12 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

iii) 爬虫類・両生類

重要な爬虫類の予測結果は表 11.8-39、重要な両生類の予測結果は表 11.8-40 に示すとおりです。

表 11.8-39(1) 重要な種の予測結果(爬虫類)

項目		種名 ニホンスッポン		科名 スッポン科	
一般生態		【全長】甲長約 15～30cm 程度 【生息環境】河川や湖沼に生息する。 【食性】魚、水生昆虫、甲殻類を主に捕食する。 【繁殖生態】6～8 月に 8～50 個の球形の卵を産卵する。 【分布】国内:本州から九州とその属島。県内:神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、明石市、加古川市、小野市、加東市、多可町、赤穂市、宍粟市、たつの市、佐用町、朝来市、丹波市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2017 調	Ⅵ神戸版RL2020 C	
		Ⅶ明石市RL2019 －			
確認状況		耕作地、市街地等(ため池、住宅地付近の水路)の 8 地点で、9 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(ため池、住宅地付近の水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(ため池、住宅地付近の水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-39(2) 重要な種の予測結果(爬虫類)

項目		種名 ニホンヤモリ		科名 ヤモリ科	
一般生態		【全長】雌雄とも頭胴長約 50～60mm 【生息環境】住家棲で民家とその周辺で見られる。 【食性】昆虫を主に捕食する。 【繁殖生態】5～7 月に 2 卵を 2～3 回に分けて産卵する。 【分布】国内:本州から九州とその属島。県内:神戸市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、加古川市、高砂市、小野市、加東市、姫路市、上郡町、豊岡市、洲本市、南あわじ市、淡路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2017 注	Ⅵ神戸版RL2020 －	
		Ⅶ明石市RL2019 －			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、市街地等(公園内の建物、住宅地)の 38 地点で、60 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 38 地点のうち 9 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、市街地等(公園内の建物、住宅地)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 38 地点のうち 9 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、市街地等(公園内の建物、住宅地)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-39(3)　重要な種の予測結果(爬虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ニホントカゲ**</td><td>科名　**トカゲ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 20cm 程度
【生息環境】山地や平地に生息する。
【食性】昆虫、クモ、ミミズを食べる。
【繁殖生態】5 月下旬から 6 月上旬に巣穴で 5～16 個の卵を産卵する。卵が孵化するまで卵の世話をする。
【分布】国内:近畿地方以南の本州から九州とその属島。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、市街地等(公園の道路脇、住宅地付近の草地)の 12 地点で、13 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 12 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、市街地等(公園の道路脇、住宅地付近の草地)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 12 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、市街地等(公園の道路脇、住宅地付近の草地)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-39(4)　重要な種の予測結果(爬虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**シマヘビ**</td><td>科名　**ナミヘビ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 80～150cm
【生息環境】開けた太陽の当たる環境を好む。昼行性。
【食性】トカゲやカエルを中心にさまざまな脊椎動物を食べる。
【繁殖生態】4～6 月に交尾し、夏に 4～16 卵を産む。
【分布】国内:北海道から九州とその属島。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　調</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">常緑広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(河川敷の草地)の 7 地点で、7 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 7 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(河川敷の草地)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 7 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(河川敷の草地)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-39(5)　重要な種の予測結果(爬虫類)

項目		種名　**アオダイショウ**		科名　**ナミヘビ科**		
一般生態		【全長】約 100～160cm 【生息環境】樹上性である。 【食性】鳥獣を主食とし、幼体はカエルやトカゲも食べる。 【繁殖生態】5～6 月に交尾し、7～8 月に 4～17 卵を産む。 【分布】国内:北海道から九州とその属島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　調		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、市街地等(工業地帯の水路)の 3 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、市街地等(工業地帯の水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、市街地等(工業地帯の水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-39(6)　重要な種の予測結果(爬虫類)

項目		種名　**ヒバカリ**		科名　**ナミヘビ科**		
一般生態		【全長】約 40～60cm 【生息環境】水田や湿地帯などの水辺環境に生息する。 【食性】カエル類、小魚、ミミズ類を捕食する。 【繁殖生態】7～8 月に 4～10 個の卵を産卵する。 【分布】国内:本州から九州とその属島。県内:川西市、加古川市、西脇市、小野市、加東市、姫路市、宍粟市、たつの市、豊岡市、養父市、朝来市、新温泉町、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　注	Ⅵ神戸版RL2020　C		
		Ⅶ明石市RL2019　B				
確認状況		耕作地、市街地等(ため池付近の樹林)の 7 地点で、7 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(ため池付近の樹林)を含む水田や湿地帯などです。 予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(ため池付近の樹林)を含む水田や湿地帯などです。 予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-40(1)　重要な種の予測結果(両生類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　セトウチサンショウウオ</td><td colspan="2">科名　サンショウウオ科</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="5">【全長】約 9～11cm
【生息環境】平地や丘陵地の湿潤な環境に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】1 月上旬から 4 月下旬にかけて止水に産卵する。
【分布】国内:大阪府から広島県東部、香川県、徳島県の瀬戸内海沿岸部。県内:西宮市からたつの市、宝塚市、三田市、猪名川町、西脇市、三木市、小野市、加東市、多可町、福崎町、太子町、丹波篠山市、南あわじ市、洲本市、淡路市など。(本種はカスミサンショウウオ岡山型又は瀬戸内型とされていたが、2019 年に遺伝的、形態的な違いから新種記載。)</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　特二</td><td>Ⅲ環境省RL2020　VU</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　B</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　B</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　A</td><td colspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="5">常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落の 18 地点で、44 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="4">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落を含む平地や丘陵地の湿潤な環境です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="4">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落を含む平地や丘陵地の湿潤な環境です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-40(2)　重要な種の予測結果(両生類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　ニホンアカガエル</td><td colspan="2">科名　アカガエル科</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="5">【全長】頭胴長約 35～70mm
【生息環境】平地や丘陵地に生息し、山地には少ない。
【食性】クモや昆虫類を捕食する。
【繁殖生態】繁殖期は 1～3 月であり水田などの浅い止水に産卵する。
【分布】県内:神戸市、宝塚市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町、姫路市、たつの市、太子町、豊岡市、朝来市、香美町、新温泉町、丹波篠山市、丹波市、洲本市、淡路市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　C</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　A</td><td colspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="5">常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)の 22 地点で、192 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="4">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="4">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-40(3)　重要な種の予測結果(両生類)

項目		種名	トノサマガエル	科名	アカガエル科	
一般生態		【全長】約 55～90mm 【生息環境】水田、河川、池沼などに生息する。 【食性】クモ類、昆虫類のほか、カエル類も捕食する。 【繁殖生態】繁殖期は 4～6 月で水田や河川に卵塊を産む。 【分布】国内:本州から九州。関東地方から仙台平野には分布しない。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	B			
確認状況		落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、住宅地付近の水路)の 41 地点で、115 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 41 地点のうち 3 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、住宅地付近の水路)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 41 地点のうち 3 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、住宅地付近の水路)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-40(4)　重要な種の予測結果(両生類)

項目		種名	ナゴヤダルマガエル	科名	アカガエル科	
一般生態		【全長】頭胴長約 55～65mm 【生息環境】繁殖期、非繁殖期ともに低湿地帯の水辺に生息する。 【食性】クモ類、昆虫類のほか、カエル類も捕食する。 【繁殖生態】4 月下旬から 7 月中旬が繁殖期であり、水田などの浅い止水で産卵する。 【分布】国内:中部地方南部、東海、近畿地方中部、山陽地方東部。県内:神戸市、尼崎市、明石市、加古川市、高砂市、稲美町、相生市、赤穂市、たつの市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　EN
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	A	Ⅵ神戸版RL2020　A
		Ⅶ明石市RL2019	A			
確認状況		耕作地の 8 地点で、22 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む低湿地帯の水辺です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む低湿地帯の水辺です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

iv) 魚類

重要な魚類の予測結果は、表 11.8-41 に示すとおりです。

表 11.8-41(1)　重要な種の予測結果(魚類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ニホンウナギ**</td><td colspan="2">科名　**ウナギ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="5">【全長】約 60cm
【生息環境】川では石の間などに潜む。
【食性】魚やカニなど。
【繁殖生態】産卵は北マリアナ海嶺付近で行い、レプトケファルス幼生が黒潮に乗って日本沿岸に達し、変態後に稚魚が河川を遡上する。
【分布】国内:北海道から琉球列島。県内:ほぼ全域の大河川から小河川・水路・ため池まで分布域は広い。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　EN</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　C</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="5">市街地等(開放水域)の 8 地点で、11 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="5">本種の確認地点 8 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="5">本種の確認地点 8 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-41(2)　重要な種の予測結果(魚類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ヌマムツ**</td><td colspan="2">科名　**コイ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="5">【全長】約 14～20cm
【生息環境】緩流域や止水域
【食性】雑食性
【繁殖生態】6～7 月
【分布】国内:静岡県以西の本州、瀬戸内海地方、九州北部。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="5">草本群落内のため池の 2 地点で、62 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="5">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境はため池を含む緩流域や止水域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="5">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境はため池を含む緩流域や止水域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-41(3)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名	ドジョウ	科名	ドジョウ科	
一般生態		【全長】約 13cm 【生息環境】水田や農業水路、ため池、湿地など流れのない泥底。 【食性】雑食性。ユスリカの幼虫など。 【繁殖生態】初夏に梅雨の増水に乗じて、水田や溜りなどの一時的水域に遡上し産卵。 【分布】国内:全国。県内:多くの河川に分布。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	注	Ⅵ神戸版RL2020　C
		Ⅶ明石市RL2019	A			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 8 地点で、20 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む水田や農業水路、ため池、湿地など流れのない泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む水田や農業水路、ため池、湿地など流れのない泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-41(4)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名	アユ	科名	アユ科	
一般生態		【全長】約 10～30cm 【生息環境】河川。成魚は川の上流から中流に生息する。 【食性】海から川に遡上した頃は水生昆虫などを食べ、次第に石に付いた付着藻類(緑藻、らん藻等)をくし状の歯でこそげ取るようにして食べる。 【繁殖生態】秋に生まれた稚魚は海まで流されて冬をこし、春に川をさかのぼって、1 年で一生を終える。 【分布】国内:北海道西部以南から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	－	Ⅵ神戸版RL2020　C
		Ⅶ明石市RL2019	B			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、147 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の上流から中流です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の上流から中流です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-41(5)　重要な種の予測結果(魚類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**シラウオ**</td><td>科名　**シラウオ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 8cm
【生息環境】河口から内湾の沿岸域、汽水湖。
【食性】動物プランクトン。
【繁殖生態】早春に河川に遡上して砂底に産卵。
【分布】国内:北海道から九州北部の河口汽水域と汽水湖。県内:加古川市、高砂市、豊岡市(円山川、加古川の河口域)。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　A</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　A</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 2 地点で、30 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口から内湾の沿岸域、汽水湖です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口から内湾の沿岸域、汽水湖です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-41(6)　重要な種の予測結果(魚類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ミナミメダカ**</td><td>科名　**メダカ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 4cm
【生息環境】流れの緩い小川や水路など。
【食性】動物プランクトンなど。
【繁殖生態】春から夏にかけて産卵
【分布】国内:日本海側では京都府以西、太平洋側では岩手県以西の本州、四国、九州、南西諸島。県内:県内での分布は広い。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　VU</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　注</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　C</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">落葉広葉樹二次林(樹林内の水路)、その他草地群落(河川敷の湿地)、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)の 24 地点で、370 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 24 地点のうち 8 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は樹林内の水路、河川敷の湿地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)を含む流れの緩い小川や水路です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 24 地点のうち 8 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は樹林内の水路、河川敷の湿地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池、水路)を含む流れの緩い小川や水路です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-41(7)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　クルメサヨリ		科名　サヨリ科	
一般生態		【全長】約 12cm 【生息環境】比較的大きな河川の汽水域、汽水性の湖沼、内湾。 【食性】動物プランクトン。 【繁殖生態】春から夏にかけてアマモなどの水生植物に産卵。 【分布】国内:本州と九州の北部に局所的に分布。県内:姫路市(揖保川)。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、3 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の汽水域、汽水性の湖沼、内湾です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の汽水域、汽水性の湖沼、内湾です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(8)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　タケノコメバル		科名　メバル科	
一般生態		【全長】約 35cm 【生息環境】沿岸の岩礁の藻場。 【食性】小型甲殻類や魚類。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、青森県～三重県の平洋沿岸。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　NT	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 9 地点で、17 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む沿岸の岩礁です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む沿岸の岩礁です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(9)　重要な種の予測結果(魚類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**トサカギンポ**</td><td>科名　**イソギンポ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 7cm
【生息環境】内湾や河口の岩礁、転石のあるような環境。
【食性】動物食。
【繁殖生態】－
【分布】国内:富山湾から熊本県天草の日本海、東シナ海沿岸、東京湾から土佐湾の太平洋沿岸、瀬戸内海。県内:加古川市、高砂市、姫路市、赤穂市、たつの市、豊岡市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　調</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 2 地点で、2 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の岩礁などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の岩礁などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-41(10)　重要な種の予測結果(魚類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ミミズハゼ**</td><td>科名　**ハゼ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 6～8cm
【生息環境】ミミズのような細長い体で、川の中流から河口の石や砂利の隙間に潜んで生息する。
【食性】－
【繁殖生態】川で生まれた稚魚は海に下り、少し大きくなると川に戻ってくる。
【分布】国内:北海道から鹿児島、屋久島。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　C</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 2 地点で、10 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む川の中流から河口です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む川の中流から河口です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-41(11)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　**ヒモハゼ**		科名　**ハゼ科**	
一般生態		【全長】約 6cm 【生息環境】河口干潟や前浜干潟の砂泥底。アナジャコ類などが作った生息孔を生息場、産卵場に利用。 【食性】－ 【繁殖生態】5～8 月 【分布】国内:青森県以南の本州、四国、九州、及び南西諸島の一部。県内:加古川市、高砂市、赤穂市、たつの市、豊岡市(円山川、千種川、揖保川、加古川の河口域)。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　C	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 9 地点で、48 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟や前浜干潟の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟や前浜干潟の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(12)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　**シロウオ**		科名　**ハゼ科**	
一般生態		【全長】約 5cm 【生息環境】遡河回遊魚で、沿岸に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】春の産卵期に海から遡上し、河川下流域の小石の下に巣を作り、産卵する。 【分布】国内:北海道から九州。県内:日本海側の 3 河川、瀬戸内海側の 3 河川の下流域。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 4 地点で、49 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川下流域から沿岸です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川下流域から沿岸です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(13)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　**トビハゼ**		科名　**ハゼ科**		
一般生態		【全長】約 10cm 【生息環境】内湾や河口の泥干潟に生息する。 【食性】干潟の上にいる小動物を食べる。 【繁殖生態】5～8 月。オスは泥に穴を掘って巣を作り、求愛ジャンプでメスを誘う。 【分布】国内:東京湾から南西諸島、瀬戸内海、有明海。県内:加古川市、高砂市、姫路市、赤穂市、たつの市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　A	Ⅵ神戸版RL2020　－		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、4 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の泥干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の泥干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-41(14)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　**マサゴハゼ**		科名　**ハゼ科**		
一般生態		【全長】約 3cm 【生息環境】河川の河口域の浅く平坦な泥底に生息。 【食性】カイアシ類やデトリタス 【繁殖生態】5～9 月 【分布】国内:宮城県以西の太平洋沿岸、対馬以南の日本海、東シナ海沿岸、瀬戸内海沿岸。県内:加古川市、高砂市、姫路市、赤穂市、たつの市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　A	Ⅵ神戸版RL2020　－		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		その他草地群落(河川敷の湿地)、市街地等(開放水域)の 3 地点で、30 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は河川敷の湿地、市街地等(開放水域)を含む河口域の浅く平坦な泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は河川敷の湿地、市街地等(開放水域)を含む河口域の浅く平坦な泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-41(15)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　**ヒナハゼ**		科名　**ハゼ科**	
一般生態		【全長】約 4cm 【生息環境】河川の河口域から中流域に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東京湾以西の太平洋側、福井県以西の日本海側。県内:日本海側の円山川と瀬戸内海側の揖保川の河口部。河口域の流れの緩やかな砂泥底で、石積護岸などの固い基質のある環境で確認される。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　調	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、6 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の河口域から中流域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の河口域から中流域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(16)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　**ゴクラクハゼ**		科名　**ハゼ科**	
一般生態		【全長】約 5～10cm 【生息環境】河川中流域から汽水域。 【食性】雑食性 【繁殖生態】9～11 月 【分布】国内:秋田県以南の本州から九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		落葉広葉樹二次林(樹林内の湿地)、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 13 地点で、63 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 13 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林(樹林内の湿地)、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河川中流域から汽水域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 13 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林(樹林内の湿地)、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河川中流域から汽水域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(17)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　シマヒレヨシノボリ		科名　ハゼ科	
一般生態		【全長】約 4cm 【生息環境】陸封型。池や沼、それにつながる水路、河川中・下流域のワンド、河川敷の池など流れの緩やかな場所。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:和歌山県北部から広島県、徳島県～愛媛県の瀬戸内海側。県内:日本海側の円山川水系、瀬戸内海側、及び淡路島の各水系。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　調	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林(樹林内の湿地)、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 39 地点で、475 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 39 地点のうち 10 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林(樹林内の湿地)、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 39 地点のうち 10 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林(樹林内の湿地)、耕作地、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(18)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名　ウキゴリ		科名　ハゼ科	
一般生態		【全長】約 13cm 【生息環境】汽水域から河川の中・下流域、池などの流れの緩い環境。 【食性】動物食性。水生昆虫、甲殻類など。 【繁殖生態】春に転石の下に産卵。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:河川の中・下流域を中心に広く確認。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　C	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 7 地点で、71 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 7 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む汽水域から河川の中・下流域、池などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 7 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む汽水域から河川の中・下流域、池などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-41(19)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名	チクゼンハゼ	科名	ハゼ科	
一般生態		【全長】約 5cm 【生息環境】河口干潟や前浜干潟の砂底～砂泥底。スナモグリ類、アナジャコ類などが作った生息孔を生息場、産卵場に利用。 【食性】－ 【繁殖生態】1～6 月 【分布】国内:太平洋側は北海道から鹿児島県まで、日本海側は京都府から鹿児島県まで、また、瀬戸内海の沿岸。県内:加古川市、高砂市、姫路市、赤穂市、たつの市(瀬戸内海側の数河川)。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 VU		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2017 A	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 11 地点で、90 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟や前浜干潟の砂底や砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟や前浜干潟の砂底や砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-41(20)　重要な種の予測結果(魚類)

項目		種名	クボハゼ	科名	ハゼ科	
一般生態		【全長】約 5cm 【生息環境】河口干潟の砂底～砂泥底。アナジャコ類などが作った生息孔を生息場、産卵場に利用。 【食性】－ 【繁殖生態】冬～春 【分布】国内:静岡県から宮崎県の太平洋沿岸、福井県から鹿児島県の日本海、東シナ海沿岸、瀬戸内海沿岸。県内:加古川市、高砂市、姫路市、赤穂市、たつの市、豊岡市(日本海側の 1 河川、瀬戸内海側の数河川の河口域)。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 EN		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2017 A	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 12 地点で、74 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟の砂底や砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟の砂底や砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-41(21)　重要な種の予測結果(魚類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**エドハゼ**</td><td>科名　**ハゼ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 5cm
【生息環境】河口干潟や前浜干潟の砂泥底に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】無脊椎動物のスナモグリ類が作った生息孔を生息場、産卵場に利用し、雄は生息孔に産み付けられた卵を保護する。
【分布】国内:宮城県から宮崎県の太平洋沿岸、瀬戸内海沿岸、兵庫県から熊本県にかけての日本海、東シナ海沿岸。県内:日本海側の 1 河川、瀬戸内海側の数河川の河口域に限られる。河口干潟、前浜干潟などに生息するが、個体数は少ない。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　VU</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2017　A</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 2 地点で、49 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟や前浜干潟の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟や前浜干潟の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

v) クモ類・昆虫類

重要なクモ類の予測結果は表 11.8-42、重要な昆虫類の予測結果は表 11.8-43 に示すとおりです。

表 11.8-42(1) 重要な種の予測結果(クモ類)

項目		種名	キノボリトタテグモ	科名	トタテグモ科	
一般生態		【全長】雌約 10～12mm、雄約 8～10mm 【生息環境】あまり日光の直射しない社寺林の樹幹上や古木の樹皮上、低山の切り通しに、扉をつけた 2～3cm の住居をつくる。樹齢の古い大木の並ぶ社寺林に見つかることが多いが、空の巣も少なくない。地表が過度に清掃された社寺林ではほとんど見つからない。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州南部、四国、九州、南西諸島、伊豆諸島、小笠原父島など。県内:北部、中部、南部、淡路島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 NT		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2017 A	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		耕作地の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む社寺林や古木、低山の切り通しなどです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む社寺林や古木、低山の切り通しなどです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-42(2) 重要な種の予測結果(クモ類)

項目		種名	カコウコモリグモ	科名	コモリグモ科	
一般生態		【全長】雌約 5.8～8.4mm、雄約 4.4～5.3mm 【生息環境】河口付近のヨシの草間に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州中部以南、九州。県内:豊岡市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2017 A	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		湿地・河川・池沼植生の 1 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生を含む河口付近の草間です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生を含む河口付近の草間です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(1)　重要な種の予測結果(昆虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　オツネントンボ</td><td colspan="2">科名　アオイトトンボ科</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】腹長約 26～31mm、後翅長約 20～24mm
【生息環境】平地から山地の抽水植物が繁茂する池沼。
【食性】－
【繁殖生態】成虫で越冬する。繁殖活動は 3 月末～5 月で、幼虫は急速に成長し、次の世代が 6 月後半から現れる。その成虫は池から離れて移動し、そのまま夏秋冬を越して、翌年の春に繁殖に適した池を探して集まり、繁殖活動を行う。水生植物内に産卵する。この時期まだ水生植物が繁茂していないこともあり、昨年枯れて倒れた抽水植物に産卵することが多い。
【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、姫路市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、淡路市、加東市、たつの市、猪名川町、稲美町、神河町、太子町、香美町。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2022　調</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">常緑広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林を含む平地から山地の抽水植物が繁茂する池沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林を含む平地から山地の抽水植物が繁茂する池沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-43(2)　重要な種の予測結果(昆虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　セスジイトトンボ</td><td colspan="2">科名　イトトンボ科</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】腹長約 21～29mm、後翅長約 13～22mm
【生息環境】沖積平野を流れる河川下流部や、その周辺の池沼に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】未熟なうちは周辺の草地に潜り込んで生活しており、特に樹林に依存しているようには見えない。速くは 4 月下旬から現れ、10 月に入るまで見られる。一年に二化していると考えられている。産卵基質には沈水植物を好み、カナダモ類が繁茂した池では大発生することがある。
【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、姫路市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、播磨町、福崎町、神河町、上郡町、佐用町。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2022　調</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 3 地点で、3 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川下流部やその周辺の池沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川下流部やその周辺の池沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-43(3)　重要な種の予測結果(昆虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**マルタンヤンマ**</td><td colspan="2">科名　**ヤンマ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="5">【全長】腹長約 43～63mm、後翅長約 41～50mm
【生息環境】平地から丘陵地の、樹林に囲まれた抽水植物の豊富な池沼や湿地、放棄水田等に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】1 年 1 世代で、成虫は初夏季から秋季にかけて出現し、薄暮時に上空を直線的に飛翔する。
【分布】国内:本州、四国、九州、種子島、屋久島、奄美大島。県内:加古川市、高砂市、姫路市、豊岡市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2022　調</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　C</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="5">市街地等(ため池)の 2 地点で、2 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="5">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む平地から丘陵地の樹林に囲まれた抽水植物の豊富な池沼や湿地、放棄水田等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="5">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(ため池)を含む平地から丘陵地の樹林に囲まれた抽水植物の豊富な池沼や湿地、放棄水田等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-43(4)　重要な種の予測結果(昆虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**カトリヤンマ**</td><td colspan="2">科名　**ヤンマ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="5">【全長】約 67～76mm 程度
【生息環境】平地から丘陵地の樹林沿いの水田の畦間や池沼、湿地のたまり等に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、南西諸島。県内:神戸市、芦屋市、宝塚市、三田市、明石市、加古川市、高砂市、西脇市、豊岡市、養父市、洲本市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2022　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　B</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　調</td><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="5">常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、耕作地の 4 地点で、4 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="5">本種の確認地点 4 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、耕作地を含む平地から丘陵地の樹林沿いの水田の畦間や池沼、湿地のたまり等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="5">本種の確認地点 4 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、耕作地を含む平地から丘陵地の樹林沿いの水田の畦間や池沼、湿地のたまり等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-43(5)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　サラサヤンマ		科名　ヤンマ科		
一般生態		【全長】約 58～68mm 程度 【生息環境】丘陵地から低山地のハンノキ林や休耕田等に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、種子島、屋久島。県内:神戸市、西宮市、芦屋市、宝塚市、三田市、加古川市、西脇市、小野市、加西市、加東市、多可町、姫路市、たつの市、赤穂市、豊岡市、香美町。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　B	Ⅵ神戸版RL2020　B		
		Ⅶ明石市RL2019　B				
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む丘陵地から低山地のハンノキ林や休耕田等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む丘陵地から低山地のハンノキ林や休耕田等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(6)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　フタスジサナエ		科名　サナエトンボ科		
一般生態		【全長】腹長約 32.0～35.0mm、後翅長約 26.0～29.0mm 【生息環境】主に平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼に生息し、成熟したオスは岸辺の植物等に静止して縄張りを形成する。 【食性】－ 【繁殖生態】成虫は 4 月下旬～6 月中旬に見られる。未熟期は発生地近くの草地や林縁で過ごし、成熟すると水辺に戻り、岸辺で生殖活動を行う。 【分布】国内:福井県、静岡県以西の本州、四国、九州。県内:神戸市、三田市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、加西市、姫路市、相生市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　－		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		耕作地、市街地等の 3 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等を含む平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等を含む平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(7)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ハネビロエゾトンボ		科名　エゾトンボ科	
一般生態		【全長】約 57～70mm 程度 【生息環境】平地から丘陵地の湿地や水田脇の細流等に生息し、幼虫は流れの緩い場所の落ち葉や石下に潜む。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、芦屋市、宝塚市、三田市、加古川市、高砂市、小野市、加東市、姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、豊岡市、丹波篠山市、南あわじ市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　B	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		竹林の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は竹林を含む平地から丘陵地の湿地や水田脇の細流等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は竹林を含む平地から丘陵地の湿地や水田脇の細流等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(8)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ノシメトンボ		科名　トンボ科	
一般生態		【全長】約 37～52mm 【生息環境】水田や池に生息。 【食性】－ 【繁殖生態】成虫は夏から秋に見られ、夏は林の縁にいて、秋に田んぼやため池で卵を産む。 【分布】国内:北海道から九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　調	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　調			
確認状況		耕作地の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む水田や池などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む水田や池などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(9)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	マイコアカネ	科名	トンボ科	
一般生態		【全長】腹長約 17.0～25.0mm、後翅長約 20.0～28.0mm 【生息環境】平地～丘陵地の、雑木林に囲まれた水生植物の豊富な池沼、湿地に生息。水深の浅い植生豊かな環境を好む。成虫は 7 月～11 月上旬に見られる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】－				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	B	Ⅵ神戸版RL2020 C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		ゴルフ場・芝地の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境はゴルフ場・芝地を含む平地～丘陵地の雑木林に囲まれた水生植物の豊富な池沼、湿地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境はゴルフ場・芝地を含む平地～丘陵地の雑木林に囲まれた水生植物の豊富な池沼、湿地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(10)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	オオキトンボ	科名	トンボ科	
一般生態		【全長】約 45～52mm 程度 【生息環境】平地から丘陵地の開放的で岸辺に露出面があり、周囲に草地を伴う池沼に生息し、幼虫は抽水植物の根際や沈積した植物質の陰などに潜んでいる。成虫は 7～11 月に見られる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、加古川市、高砂市、稲美町、小野市、加西市、加東市、姫路市、たつの市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 EN
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	B	Ⅵ神戸版RL2020 C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		耕作地、湿地・河川・池沼植生の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地、湿地・河川・池沼植生です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(11)　重要な種の予測結果(昆虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**カヤコオロギ**</td><td colspan="2">科名　**マツムシ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 8～10mm
【生息環境】明るいチガヤ等のイネ科草地に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:本州、四国、九州。県内:加古川市、赤穂市、新温泉町。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2022　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　C</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林の 2 地点で、2 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林を含む明るいチガヤ等のイネ科草地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林を含む明るいチガヤ等のイネ科草地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-43(12)　重要な種の予測結果(昆虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**ハルゼミ**</td><td colspan="2">科名　**セミ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 23～32mm
【生息環境】平地から低山地のマツ林等に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:本州、四国、九州。県内:姫路市、上郡町、豊岡市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2022　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　B</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">常緑針葉樹二次林の 1 地点で、3 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は常緑針葉樹二次林を含む平地から低山地のマツ林等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は常緑針葉樹二次林を含む平地から低山地のマツ林等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-43(13)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	シロヘリツチカメムシ	科名	ツチカメムシ科	
一般生態		【全長】約 6～8mm 【生息環境】ビャクダン科のカナビキソウに寄生。地表性で寄主植物からあまり離れない。 【食性】ビャクダン科のカナビキソウに寄生し、果実を吸汁する。 【繁殖生態】幼虫の腹部は赤色。雌には卵を保護する習性が知られる。 【分布】国内:本州、四国、九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　調
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		常緑広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林を含む草地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林を含む草地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(14)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	エサキアメンボ	科名	アメンボ科	
一般生態		【全長】約 7.9～10.5mm 【生息環境】ヨシ等の抽水植物群落内に生息し、早春や晩秋以外は開放水面では見られない。成虫はほぼ周年見られる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国。県内:加古川市、稲美町、小野市、加西市、たつの市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	B	Ⅵ神戸版RL2020　C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等の 1 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等を含むヨシ等の抽水植物群落内です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等を含むヨシ等の抽水植物群落内です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(15)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**メミズムシ**		科名　**メミズムシ科**	
一般生態		【全長】約 4.1～5.5mm 【生息環境】池、河川、水田等のへりの湿地等に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　調	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		竹林の 1 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は竹林を含む池、河川、水田のへりの湿地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は竹林を含む池、河川、水田のへりの湿地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(16)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**ラクダムシ**		科名　**ラクダムシ科**	
一般生態		【全長】開張約 15～20mm 【生息環境】山地の樹林に生息。 【食性】幼虫はマツの樹皮下等に潜み、小昆虫を捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:高砂市、丹波市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　調	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、市街地等の 2 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、市街地等を含む山地の樹林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、市街地等を含む山地の樹林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(17)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	セグロベニトゲアシガ	科名	ニセマイコガ科	
一般生態		【全長】開帳約 13～15mm 【生息環境】6～7 月に蛾はササの葉裏にいる。 【食性】幼虫はササのワタムシを捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(18)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	コチャバネセセリ	科名	セセリチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 14～19mm、開張約 30～36mm 【生息環境】平地から丘陵地、山地の明るい雑木林やその林縁が主な生息場所である。成虫は山道等でよく見かけるが、農耕地やその周辺でも見られる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:広く分布しているが淡路島では少ない。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		常緑広葉樹二次林、耕作地の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地を含む平地から丘陵地、山地の明るい雑木林や林縁です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地を含む平地から丘陵地、山地の明るい雑木林や林縁です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(19)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	アカシジミ	科名	シジミチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 18mm 【生息環境】成虫は、昼間は樹葉上に静止し、驚かさなければほとんど飛翔しない。 【食性】幼虫の食樹はクヌギやコナラ等のブナ科の植物である。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、宝塚市、川西市、三田市、明石市、小野市、加西市、多可町、姫路市、宍粟市、上郡町、豊岡市、養父市、香美町。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	B			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地の 5 地点で、9 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 5 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 5 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(20)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ウラナミアカシジミ	科名	シジミチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 16～23mm 【生息環境】平地から低山地の落葉広葉樹林に生息。 【食性】幼虫はクヌギ、コナラ、アベマキ等を食べる。 【繁殖生態】年 1 化性で、成虫は 6～7 月に出現する。 【分布】国内:北海道、本州、四国。県内:神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、宝塚市、川西市、三田市、加古川市、姫路市、たつの市、宍粟市、赤穂市、豊岡市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	注	Ⅵ神戸版RL2020 C
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地の 3 地点で、5 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 3 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地を含む平地から低山地の落葉広葉樹林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 3 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地を含む平地から低山地の落葉広葉樹林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(21)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ミドリシジミ		科名　シジミチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 16～23mm 【生息環境】平地から山地のハンノキ林に生息。 【食性】幼虫はハンノキやヤマハンノキ等を食べる。 【繁殖生態】年 1 化性で、成虫は 6～8 月に出現する。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、宝塚市、川西市、三田市、明石市、加古川市、西脇市、姫路市、市川町、相生市、たつの市、宍粟市、淡路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　注	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地の 3 地点で、10 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林や耕作地を含む平地から山地のハンノキ林です。 予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林や耕作地を含む平地から山地のハンノキ林です。 予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(22)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ゴイシシジミ		科名　シジミチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 10～17mm 【生息環境】山地の林縁等に生息。 【食性】幼虫はササ類等につくアブラムシを捕食する。 【繁殖生態】年多化性で、成虫は 5～10 月に出現する。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、壱岐、対馬。県内:神戸市、西宮市、宝塚市、川西市、三田市、明石市、小野市、加西市、多可町、姫路市、宍粟市、上郡町、豊岡市、養父市、香美町。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　B	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　B			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む山地の林縁等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む山地の林縁等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(23)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ウラキンシジミ	科名	シジミチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 14～20mm 【生息環境】低山地から山地の落葉広葉樹林に生息。 【食性】幼虫はコバノトネリコやシオジ等を食べる。 【繁殖生態】年 1 化性で、成虫は 6～7 月に出現する。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、芦屋市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町、西脇市、姫路市、市川町、福崎町、たつの市、赤穂市、豊岡市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	注	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		耕作地の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む落葉広葉樹林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む落葉広葉樹林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(24)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	シルビアシジミ	科名	シジミチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 8～14mm 【生息環境】農耕地の畦畔や河川の土手の草地が主な生息地である。 【食性】幼虫はミヤコグサやコマツナギ等を食べる。 【繁殖生態】年多化性で、成虫は 4～11 月に出現する。 【分布】国内:本州、四国、九州、壱岐、対馬。県内:神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、猪名川町、明石市、加古川市、高砂市、姫路市、福崎町、相生市、たつの市、赤穂市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 EN
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	B	Ⅵ神戸版RL2020 A
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		耕作地の 1 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む農耕地の畦畔や河川の土手の草地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む農耕地の畦畔や河川の土手の草地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(25)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ミドリヒョウモン	科名	タテハチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 31～40mm、開張約 65～75mm 【生息環境】林に近い明るい草地に生息。 【食性】成虫は夏から秋に見られ、ヒヨドリバナなどいろいろな花で蜜を吸い、幼虫はスミレ類の葉を食べて育つ。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	B			
確認状況		常緑針葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑針葉樹二次林を含む林に近い明るい草地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑針葉樹二次林を含む林に近い明るい草地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(26)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	メスグロヒョウモン	科名	タテハチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 30～40mm 【生息環境】－ 【食性】食草はスミレ科のタチツボスミレなど。 【繁殖生態】年 1 化性で、成虫は 5 月下旬から出現し、クリ、ウツギなどで吸蜜する。盛夏には夏眠し、秋になって再び現れる。越冬態は 1 齢幼虫。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	注	Ⅵ神戸版RL2020 調
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		常緑広葉樹二次林、竹林の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、竹林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、竹林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(27)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	イチモンジチョウ	科名	タテハチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 24～36mm、開張約 45～55mm 【生息環境】成虫は樹間・叢上を敏活に飛翔し、緑葉上や路上に静止することが多い。 【食性】幼虫の食草はスイカズラ科の植物である。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、川西市、三田市、猪名川町、西脇市、三木市、姫路市、市川町、福崎町、相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、上郡町、佐用町、豊岡市、香美町。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(28)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ツマグロキチョウ	科名	シロチョウ科	
一般生態		【全長】前翅長約 16～22mm 【生息環境】河川敷などの草地に生息。 【食性】幼虫はカワラケツメイを食べる。 【繁殖生態】年多化性で、年 3～4 回発生する。 【分布】国内:本州、四国、九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 EN
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	注	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む河川敷などの草地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む河川敷などの草地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(29)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	スグドクガ	科名	ドクガ科	
一般生態		【全長】開張:雌約 40mm、雄約 31～37mm 【生息環境】湿地のガ類として有名。 【食性】マツカサススキやヒメガマ、ヨシ等が幼虫の食草として知られる。 【繁殖生態】年 2 化、5～6 月と8～9 月に出現する。 【分布】国内:北海道、本州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		その他草地群落の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は草本群落を含む湿地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は草本群落を含む湿地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(30)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	キスジウスキヨトウ	科名	ヤガ科	
一般生態		【全長】開張約 29～44mm 【生息環境】低層湿地、内陸の盆地に生息し、幼虫はガマ属やミクリ属等の水生植物の茎中に潜んでいる。 【食性】食草はガマ(ガマ科)、ミクリ(ミクリ科)が知られる。 【繁殖生態】年 1 化、6～9 月に出現する。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、対馬。県内:神戸市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　VU
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		耕作地の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む低層湿地の水生植物などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む低層湿地の水生植物などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(31)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**クロシオキシタバ**		科名　**ヤガ科**	
一般生態		【全長】開張約 58～68mm 【生息環境】低木の照葉樹林等に生息。 【食性】幼虫はウバメガシを食べる。 【繁殖生態】年 1 化性で、成虫は 7～9 月まで見られる。 【分布】国内:本州、四国、九州、屋久島。県内:神戸市、尼崎市、猪名川町、姫路市、赤穂市、洲本市、南あわじ市、淡路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　注	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、市街地等の 2 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(32)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**キシタアツバ**		科名　**ヤガ科**	
一般生態		【全長】開張約 30mm 【生息環境】人里的な環境に生息することが知られる。 【食性】食草はヤブマオが知られている。 【繁殖生態】4～9 月に出現するが、詳しい化性は不明。 【分布】国内:本州、四国、九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		湿地・河川・池沼植生の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生を含む人里的な環境です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生を含む人里的な環境です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(33)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ミズアブ		科名　ミズアブ科	
一般生態		【全長】約 13～20mm 【生息環境】幼虫は水生で、池沼や水田等で発生する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、明石市、たつの市、養父市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　調	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む池沼や水田等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む池沼や水田等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(34)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ルリハナアブ		科名　ハナアブ科	
一般生態		【全長】約 10～12mm 【生息環境】－ 【食性】生態は不明であるが、幼虫は水生で腐植物を食していると考えられている。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、三田市、小野市、佐用市、淡路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　調	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		耕作地の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(35)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**タナカツヤハネゴミムシ**		科名　**オサムシ科**	
一般生態		【全長】約 11～12mm 【生息環境】比較的珍しいとされていたが、放棄水田等の湿地環境に生息し、場所によって個体数は多い。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、宝塚市、川西市、小野市、加古川市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 2 地点で、4 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む放棄水田等の湿地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む放棄水田等の湿地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(36)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**キノコゴミムシ**		科名　**オサムシ科**	
一般生態		【全長】約 13～15mm 【生息環境】ヒラタケ類等がたくさん生えた衰弱木や立ち枯れ木で見られることが多い。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:広く分布している。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(37)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	オオトックリゴミムシ	科名	オサムシ科	
一般生態		【全長】約 12～13.2mm 【生息環境】平地から丘陵地や低山地にかけての河川、ため池、ダム湖等の水辺環境に限って生息している。兵庫県下での生息地は多く、個体数も多い。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州、南西諸島。県内:広く分布していると思われる。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む河川、ため池、ダム湖の水辺です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む河川、ため池、ダム湖の水辺です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(38)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ウミホソチビゴミムシ	科名	オサムシ科	
一般生態		【全長】約 1.8～2.3mm 【生息環境】汽水域種で満潮時には水底に潜み，潮が引くとともに干潟表面で活動する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州、奄美大島。県内:加古川市、姫路市、たつの市、赤穂市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	C	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		塩沼地植生の 1 地点で、11 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(39)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ヨドシロヘリハンミョウ	科名	ハンミョウ科	
一般生態		【全長】約 9～12mm 【生息環境】河口の汽水域に成立する砂泥質の干潟に生息。 【食性】水辺で小昆虫等を捕食する。 【繁殖生態】成虫は初夏～初秋に出現し、幼虫で越冬する。幼虫は満潮時に巣穴が水没するような場所に見られる。 【分布】国内:本州、四国、九州、種子島。県内:尼崎市、加古川市、高砂市、南あわじ市。(現在、生息が確認されているのは加古川市のみ)				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　VU
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	A	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		湿地・河川・池沼植生の 2 地点で、12 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生を含む汽水域の砂泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生を含む汽水域の砂泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(40)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	スジヒラタガムシ	科名	ガムシ科	
一般生態		【全長】約 3.8～4.3mm 【生息環境】丘陵地や山間部のため池や水田、湿地に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】メスは腹部に卵を付着させて保護し、繁殖期も長く、生息地での個体数は多い。 【分布】国内:本州、四国、九州、南西諸島。県内:神戸市、伊丹市、川西市、三田市、加古川市、三木市、小野市、加西市、姫路市、神河町、佐用町、豊岡市、養父市、香美町、新温泉町。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、ゴルフ場・芝地の 2 地点で、6 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、ゴルフ場・芝地を含む丘陵地や山間部のため池、水田、湿地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、ゴルフ場・芝地を含む丘陵地や山間部のため池、水田、湿地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(41)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	コガムシ	科名	ガムシ科	
一般生態		【全長】約 16～18mm 【生息環境】水田や河川敷の水たまり等。 【食性】成虫は水草を食し、幼虫は肉食性である。 【繁殖生態】水田や河川敷の水たまり等の不安定な止水域で繁殖をするが、ため池等の安定した水域では繁殖しない。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、宝塚市、加古川市、小野市、姫路市、佐用町、豊岡市、香美町。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　DD
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等の 10 地点で、16 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等を含む水田や河川敷の水たまりです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等を含む水田や河川敷の水たまりです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(42)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ヤマトアオドウガネ	科名	コガネムシ科	
一般生態		【全長】約 17～26mm 【生息環境】海岸寄りの地域に多い種である。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、伊丹市、川西市、明石市、加古川市、丹波市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	C	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		砂丘植生、塩沼地植生、市街地等の 3 地点で、4 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は砂丘植生、塩沼地植生、市街地等を含む海岸寄りの地域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は砂丘植生、塩沼地植生、市街地等を含む海岸寄りの地域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(43)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	コカブトムシ	科名	コガネムシ科	
一般生態		【全長】約 18～24mm 【生息環境】成虫は灯火に飛来するほか、朽ち木内や樹木の洞内で発見されることもある。 【食性】強い肉食性を示す。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、南西諸島。県内:神戸市、加古川市、姫路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 調
		Ⅶ明石市RL2019	B			
確認状況		落葉広葉樹二次林、竹林の 3 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(44)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ツシマヒメサビキコリ	科名	コメツキムシ科	
一般生態		【全長】約 17～26mm 【生息環境】海浜の砂地等に生息することが知られる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、九州、対馬。県内:神戸市、西宮市、明石市、姫路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	調	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、市街地等の 19 地点で、193 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 19 地点のうち 3 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、市街地等を含む海浜の砂地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 19 地点のうち 3 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、低木群落、耕作地、その他草地群落、市街地等を含む海浜の砂地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(45)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　スナサビキコリ		科名　コメツキムシ科		
一般生態		【全長】約 4～5mm 【生息環境】海岸や河川の砂地に生息し、草の根際等にみられる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:加古川市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　調	Ⅵ神戸版RL2020　－		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等の 5 地点で、12 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等を含む海岸や河川の砂地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等を含む海岸や河川の砂地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(46)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ヘイケボタル		科名　ホタル科		
一般生態		【全長】約 7～10mm 【生息環境】平地から低山地にかけての水田周辺等に生息。 【食性】幼虫は水中にすみ、モノアラガイ類等を捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町、三木市、豊岡市、朝来市、香美町、新温泉町。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　注	Ⅵ神戸版RL2020　調		
		Ⅶ明石市RL2019　調				
確認状況		常緑広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、市街地等の 20 地点で、126 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 20 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、市街地等を含む平地から低山地にかけての水田周辺等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 20 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、市街地等を含む平地から低山地にかけての水田周辺等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 また、本種の生息環境に質的変化を及ぼす影響要因として道路照明が考えられますが、波長や漏れ光に配慮した照明等の設置を検討することから影響は小さいと考えられます。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(47)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	イソジョウカイモドキ	科名	ジョウカイモドキ科	
一般生態		【全長】約 4mm 【生息環境】岩礁の潮間帯から潮上帯にかけて生息。 【食性】幼虫・成虫共に、同所的に生息する小型の節足動物を捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州、屋久島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　DD
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		常緑広葉樹二次林、市街地等の 2 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、市街地等を含む岩礁の潮間帯から潮上帯です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、市街地等を含む岩礁の潮間帯から潮上帯です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(48)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ジュウサンホシテントウ	科名	テントウムシ科	
一般生態		【全長】約 4.5～7mm 【生息環境】平地の湿地にあるヨシ群落等に生息。河川中下流域やため池周辺のヨシ原等にも見られる。 【食性】アブラムシ類を捕食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:宝塚市、加古川市、小野市、加西市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		耕作地の 2 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含むヨシ群落等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含むヨシ群落等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(49)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　ハマベゾウムシ		科名　ゾウムシ科		
一般生態		【全長】約 3.8～4.2mm 【生息環境】海域にアマモが生育する砂地海岸に生息する。 【食性】成虫、幼虫ともに岸辺に打ち上げられたアマモを食する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:姫路市、たつの市、赤穂市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　調	Ⅵ神戸版RL2020　－		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		市街地(砂地海岸)の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地(砂地海岸)を含む、海域にアマモが生育する砂地海岸です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地(砂地海岸)を含む、海域にアマモが生育する砂地海岸です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(50)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　オオセイボウ		科名　セイボウ科		
一般生態		【全長】約 12～20mm 【生息環境】低地帯、丘陵帯、里山。 【食性】成虫は 6 ～ 9 月に出現し、ヤブカラシやオミナエシなどに訪花する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　－		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		耕作地、市街地等の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地、市街地等を含む低地帯、丘陵地、里山です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 2 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地、市街地等を含む低地帯、丘陵地、里山です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(51)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	トゲアリ	科名	アリ科		
一般生態		【全長】約 7～8mm 【生息環境】広葉樹林を好み、山地の森林にも生息するが、低山地の里山に特に多い。 【食性】小型の昆虫を狩るほか、アブラムシなどの甘露をおもな餌とする。 【繁殖生態】社会寄生性種のアリで、クロオオアリやムネアカオオアリの巣を乗っ取り、自身の子供を寄主のアリに育てさせる。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、加東市。					
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020	VU
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020	調
		Ⅶ明石市RL2019	－				
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林の 4 地点で、46 個体を確認しました。					
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林を含む低山地の里山です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林を含む低山地の里山です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B

表 11.8-43(52)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	フタモンアシナガバチ本土亜種	科名	スズメバチ科		
一般生態		【全長】約 12～18mm 【生息環境】人家の軒下や壁面に営巣するが、山地では樹木の細枝に営巣する。 【食性】－ 【繁殖生態】軒下や木の枝に巣をつくることが多い。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、屋久島。県内:詳細は不明であるが広く分布していると思われる。					
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020	－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020	－
		Ⅶ明石市RL2019	調				
確認状況		耕作地、ゴルフ場・芝地、市街地等の 12 地点で、15 個体を確認しました。					
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 12 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地、ゴルフ場・芝地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B
	道路の存在	本種の確認地点 12 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地、ゴルフ場・芝地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。					B

表 11.8-43(53)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ヤマトアシナガバチ	科名	スズメバチ科	
一般生態		【全長】約 15～22mm 【生息環境】平地、低山地に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】草本の葉裏や樹木の細枝、人家の軒下等に営巣する。 【分布】国内:本州、四国、九州、南西諸島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　DD
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		竹林、耕作地、市街地等の 6 地点で、6 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は竹林、耕作地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は竹林、耕作地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(54)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ハラナガハムシドロバチ	科名	スズメバチ科	
一般生態		【全長】約 9～12mm 【生息環境】林、草地。 【食性】幼虫の餌としてハムシ類の幼虫を狩る。 【繁殖生態】ヨシや竹の細い茎の内部に、泥で仕切りを作り営巣する。 【分布】国内:北海道、本州、四国。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		耕作地の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む林や草地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地を含む林や草地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(55)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**モンスズメバチ**		科名　**スズメバチ科**	
一般生態		【全長】約 21～30mm 【生息環境】－ 【食性】セミやトンボ等の大形昆虫を好んで捕獲するほか、樹液にも来集する。 【繁殖生態】樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣する。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、佐渡島。県内:神戸市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　調			
確認状況		落葉広葉樹二次林、竹林の 6 地点で、69 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、竹林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(56)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名　**アカアシハヤバチ**		科名　**ギングチバチ科**	
一般生態		【全長】約 12～13mm 【生息環境】－ 【食性】バッタ目の昆虫類(バッタやキリギリス等)を狩る。 【繁殖生態】ハヤバチの仲間は、土中に営巣。 【分布】国内:本州、四国、九州、南西諸島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2022　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　調			
確認状況		耕作地、その他草地群落の 2 地点で、3 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、その他草地群落です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、その他草地群落です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(57)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ヤマトスナハキバチ本土亜種	科名	ドロバチモドキ科	
一般生態		【全長】約 12mm 【生息環境】河川や海岸の砂浜に生息する。 【食性】ヨコバイやキジラミ類等を狩る。 【繁殖生態】砂地に営巣。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、屋久島。県内:豊岡市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　DD
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		砂丘植生、市街地等の 3 地点で、9 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は砂丘植生、市街地等を含む河川や海岸の砂浜です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は砂丘植生、市街地等を含む河川や海岸の砂浜です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(58)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	キアシハナダカバチモドキ	科名	ドロバチモドキ科	
一般生態		【全長】約 23mm 【生息環境】砂浜海岸、砂質の河川敷に生息している。 【食性】幼虫の餌として、バッタ、ササキリ等のバッタ目の成虫を狩ることが知られる。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、宝塚市、三田市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　VU
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等の 6 地点で、6 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 6 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等を含む砂浜海岸や砂質の河川敷です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 6 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等を含む砂浜海岸や砂質の河川敷です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(59)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	ヤマトルリジガバチ	科名	アナバチ科	
一般生態		【全長】約 15～20mm 【生息環境】－ 【食性】ヒメグモ科やアシナガグモ科等のクモ類を狩る。 【繁殖生態】竹筒やヨシ等の筒状の物に営巣する。 【分布】国内:本州、四国、九州、伊豆諸島、小笠原諸島、南西諸島。県内:三田市、姫路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	調			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(60)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名	シロスジフトハナバチ	科名	ミツバチ科	
一般生態		【全長】約 14～15mm 【生息環境】準海浜性のハナバチである。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2022	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	B			
確認状況		市街地等(住宅地付近の造成地)の 1 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(住宅地付近の造成地)を含む海浜です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(住宅地付近の造成地)を含む海浜です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-43(61)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名 トモンハナバチ		科名 ハキリバチ科	
一般生態		【全長】約 14mm 【生息環境】－ 【食性】－ 【繁殖生態】ヨモギ等の綿毛を集めて、竹筒や建物の隙間等に巣を作る。 【分布】国内:本州、四国。県内:神戸市、尼崎市、小野市、加東市、加古川市、西脇市、たつの市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2022 調	Ⅵ神戸版RL2020 調	
		Ⅶ明石市RL2019 －			
確認状況		耕作地、市街地等の 5 地点で、11 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 5 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は耕作地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種の確認地点 5 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は耕作地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(62)　重要な種の予測結果(昆虫類)

項目		種名 キヌゲハキリバチ		科名 ハキリバチ科	
一般生態		【全長】約 11mm 【生息環境】典型的な海浜性のハナバチ。 【食性】広食性種であるが、ハマゴウのスペシャリスト的な送粉者として知られる。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州、屋久島、種子島。県内:神戸市、香美町。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2022 －	Ⅵ神戸版RL2020 調	
		Ⅶ明石市RL2019 －			
確認状況		常緑広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、砂丘植生、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等の 8 地点で、25 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、砂丘植生、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、耕作地、その他草地群落、砂丘植生、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-43(63)　重要な種の予測結果(昆虫類)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　キバラハキリバチ</td><td colspan="2">科名　ハキリバチ科</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 15～17mm
【生息環境】一般には良好な砂浜海岸や河川敷に生息するとされる。
【食性】広食性であるが、花粉を採集できる花資源は大型のマメ科植物に限定される。
【繁殖生態】－
【分布】国内:本州中部以南、四国、九州、伊豆諸島、屋久島、種子島。県内:尼崎市、南あわじ市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td colspan="2">Ⅲ環境省RL2020　NT</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2022　－</td><td colspan="2">Ⅵ神戸版RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　調</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(公園内の樹木)の 1 地点で、1 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(公園内の樹木)を含む砂浜海岸や河川敷です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(公園内の樹木)を含む砂浜海岸や河川敷です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

vi) 底生動物

重要な底生動物の予測結果は、表 11.8-44 に示すとおりです。

表 11.8-44(1)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**ツボミガイ**		科名　**ユキノカサガイ科**	
一般生態		【全長】殻径約 5～7mm 【生息環境】内湾奥部や河川汽水域の干潟、河川汽水域の砂礫や砂泥床に生息するウミニナやホソウミニナの殻上、小礫など、面積の狭い基盤に付着する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:宮城県以南。県内:瀬戸内海流入河川、淡路島中部、南部。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　C	Ⅵ神戸版RL2020　A	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部や河川汽水域の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部や河川汽水域の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(2)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**イボキサゴ**		科名　**ニシキウズガイ科**	
一般生態		【全長】殻径約 20mm 【生息環境】沿岸の浅海から内湾、干潟細砂環境に多産する傾向にある。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道南部から九州。県内:瀬戸内海と淡路島の細砂海岸の潮間帯や潮下帯。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　C	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、4 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む沿岸の浅海から内湾、干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む沿岸の浅海から内湾、干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(3)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　ミヤコドリガイ		科名　ユキスズメガイ科	
一般生態		【全長】長径約 10mm、短径約 7mm 程度の傘形 【生息環境】主に内湾や河口の潮間帯において、泥に半ば埋もれた岩礫の裏面や底床付近に付着する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:千葉県・新潟県以南。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　C	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、5 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の潮間帯です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の潮間帯です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(4)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　オオタニシ		科名　タニシ科	
一般生態		【全長】殻長約 60mm 【生息環境】河川や用水路、ため池、湖沼。水田内に生息することはほとんどなく、水田周辺では湧水があるなどあまり高温にならない環境を好む。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、9 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 2 地点は工事の実施区域に存在し、直接改変により移動性が低い本種の一部の生息地が消失・縮小します。 したがって、直接的な影響により、本種の生息環境は保全されない可能性があると予測されます。			A
	道路の存在	本種の確認地点 2 地点は都市計画対象道路に存在し、直接改変により移動性が低い本種の一部の生息地が消失・縮小します。 したがって、直接的な影響により、本種の生息環境は保全されない可能性があると予測されます。			A

表 11.8-44(5)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**コゲツノブエガイ**		科名　**オニノツノガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 25mm 【生息環境】内湾奥部の泥干潟。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:房総半島・北長門海岸から南西諸島。県内:淡路島、加古川。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、4 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の泥干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の泥干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(6)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**ホソウミニナ**		科名　**ウミニナ科**	
一般生態		【全長】殻長約 25～35mm 【生息環境】泥の少ない河口や干潟、磯。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:全国。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　－	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 6 地点で、13 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む泥の少ない河口や干潟、磯です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む泥の少ない河口や干潟、磯です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(7)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**ウミニナ**</td><td colspan="2">科名　**ウミニナ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】殻長約 30mm
【生息環境】砂質干潟。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:干潟のほとんどない日本海側にはあまり生息せず、太平洋側に広く分布。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　NT</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　A</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 11 地点で、55 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(8)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**フトヘナタリガイ**</td><td colspan="2">科名　**キバウミニナ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】殻長約 35～40mm
【生息環境】内湾干潟の砂泥底。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:東京湾以南。県内:瀬戸内海の大型河川を中心に多産箇所が存在。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　NT</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 6 地点で、23 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾干潟の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾干潟の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(9)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**ヘナタリガイ**		科名　**キバウミニナ科**	
一般生態		【全長】殻長約 20～30mm 【生息環境】淡水の影響する内湾奥部の砂泥干潟に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:房総半島・北長門海岸から南西諸島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の砂泥干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の砂泥干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(10)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　***カワアイガイ***		科名　**キバウミニナ科**	
一般生態		【全長】殻長約 35～50mm 【生息環境】河川水が影響する内湾や河口の汽水域下部において、干潮時にできる泥地や砂泥地の浅い溜まりなど。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:太平洋側では房総半島、日本海側では兵庫県以南。県内:加古川にまとまった個体群が存在する。加古川以外の産地は極めて脆弱。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 4 地点で、18 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や河口の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(11)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　クリイロカワザンショウガイ		科名　カワザンショウガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 4～6.5mm 【生息環境】内湾奥部や河口、海水の影響のある池沼などのヨシ帯や漂着物の下など。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東北から九州、種子島。県内:瀬戸内海沿岸や淡路島中部、南部の河口干潟。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　C	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 5 地点で、35 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部や河口、池沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部や河口、池沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(12)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　ヒラドカワザンショウガイ		科名　カワザンショウガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 8mm 【生息環境】河口や淡水の影響する内湾奥部にある岩礫帯やヨシ帯。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東海地方から九州。県内:播磨灘流入の河口にある干潟のヨシ帯から礫場。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　B	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域、ヨシ群落等)の 10 地点で、224 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 10 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在し、直接改変により移動性が低い本種の一部の生息地が消失・縮小します。 したがって、直接的な影響により、本種の生息環境は保全されない可能性があると予測されます。			A
	道路の存在	本種の確認地点 10 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在し、直接改変により移動性が低い本種の一部の生息地が消失・縮小します。 したがって、直接的な影響により、本種の生息環境は保全されない可能性があると予測されます。			A

表 11.8-44(13)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ**</td><td>科名　**カワザンショウガイ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】殻長約 5mm
【生息環境】ヨシの生える河口汽水域に広く分布し、群落内の砂泥上や漂着物の下などに多く生息。ヨシ群落に対する依存性が高い。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:東北から四国・九州、瀬戸内海。県内:瀬戸内海流入河川の加古川以西の河口汽水域の干潟。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　NT</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　B</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 4 地点で、10 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含むヨシの生える河口汽水域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含むヨシの生える河口汽水域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(14)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**エドガワミズゴマツボ**</td><td>科名　**ミズゴマツボ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】殻長約 2mm
【生息環境】内湾や汽水域の砂泥や岩礫上、シオグサやアナアオサなどの葉上で生活。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:宮城・福井県以西の本州、四国、九州。県内:瀬戸内海流入河川、淡路島南部及び中部、日本海側流入河川では円山川の汽水域。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　NT</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 3 地点で、14 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域の砂泥や岩礫上です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域の砂泥や岩礫上です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(15)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	イナザワハベガイ	科名	イトカケガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 10mm 【生息環境】潮間帯のタテジマイソギンチャクに付着する。 【食性】－ 【繁殖生態】夏期に砂粒でかためた俵状の卵嚢を産む。 【分布】国内:相模湾から九州、瀬戸内海、日本海西部。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	B	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		常緑広葉樹二次林(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(16)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	アラムシロガイ	科名	ムシロガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 15mm 【生息環境】内湾の砂礫底や岩礫底。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道南部以南。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	－	Ⅵ神戸版RL2020 C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 13 地点で、61 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の砂礫底や岩礫底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の砂礫底や岩礫底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(17)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	カキウラクチキレモドキ	科名	トウガタガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 4mm 【生息環境】内湾や汽水域。内湾や比較的泥の多い干潟に形成されるマガキ礁に生息し、垂直護岸や岩場に固着する。 【食性】マガキの軟体成分を吸引しているものと考えられる。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東北以南。県内:播磨地域、淡路島中部及び南部の河川汽水域や内湾奥部。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 C		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 3 地点で、5 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や汽水域の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾や汽水域の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(18)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ヒガタヨコイトカケギリガイ	科名	トウガタガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 10～12mm 【生息環境】河口汽水域下流部から内湾海水域にかけての干潟中・低潮帯において砂泥底、軟泥底の表層に生息。干潮時にも水が残る場所を好む。 【食性】多毛類か貝類に取り付いて体液を吸うと推察。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:陸奥湾から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 DD		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 －	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、4 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口から内湾の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口から内湾の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(19)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**シゲヤスイトカケギリガイ**		科名　**トウガタガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 7mm 【生息環境】内湾奥部の河口汽水域下流部の干潟。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:宮城県万石浦から九州、沖縄島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、5 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口汽水域の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口汽水域の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(20)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**ヌカルミクチキレガイ**		科名　**トウガタガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 5mm 【生息環境】河口汽水域から内湾奥部。干潟中・低潮帯の砂泥質表層に生息。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東北から九州。県内:淡路島中部の内湾最奥部。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口汽水域から内湾奥部の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口汽水域から内湾奥部の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(21)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**コシダカヒメモノアラガイ**		科名　**モノアラガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 10～12mm 【生息環境】平野を流れる河川やクリーク。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:全国。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 7 地点で、8 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(22)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**モノアラガイ**		科名　**モノアラガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 15～25mm 【生息環境】川の淀み、池沼などの水草や礫に付着。池沼や流れの緩い河川で、水草が繁茂している所に多く生息する。 【食性】植食性で微小な藻類を削り取って食べる。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:全国。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む池沼や流れの緩い河川です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林を含む池沼や流れの緩い河川です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(23)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**ヒラマキミズマイマイ**		科名　**ヒラマキガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 5mm 【生息環境】池沼や水路、水田などの周辺水域。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:全国。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 5 地点で、52 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(24)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**クルマヒラマキガイ**		科名　**ヒラマキガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 2mm、殻径約 10mm 【生息環境】ハス田や休耕田、湧水湿地、ごく浅い池沼など。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:近畿地方から沖縄諸島。本州での生息地は散見的。県内:神戸市や播磨東部、播磨西部の水田やハス田、池沼。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　B	Ⅵ神戸版RL2020　B	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 5 地点で、25 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境はその他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(25)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ナガオカモノアラガイ	科名	オカモノアラガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 15mm 【生息環境】水田周辺の土手や水路脇草地、休耕田や湿地の草地等に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州(主に関東以西)、四国、九州。県内:神戸市、西宮市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	－	Ⅵ神戸版RL2020　C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、その他草地群落、市街地等(開放水域)の 8 地点で、23 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、その他草地群落、市街地等(開放水域)を含む水田周辺の土手や水路脇草地、休耕田や湿地の草地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、その他草地群落、市街地等(開放水域)を含む水田周辺の土手や水路脇草地、休耕田や湿地の草地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(26)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ニッポンマメアゲマキガイ	科名	ウロコガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 10mm 【生息環境】内湾奥部や河口干潟。潮間帯の砂泥や泥に浅く埋もれた転石裏面などに付着する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東北から九州。県内:播磨西部の中型河川、淡路島南部の内湾環境。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	A	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部や河口干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部や河口干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(27)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ウネナシトマヤガイ	科名	フナガタガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 30～40mm 【生息環境】汽水域の転石の下側面、礫やマガキ礁の隙間に足糸で付着。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東北地方以南。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	－	Ⅵ神戸版RL2020　C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 4 地点で、6 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(28)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ヤマトシジミ	科名	シジミ科	
一般生態		【全長】殻長約 30mm 【生息環境】河川汽水域や汽水湖の泥・砂泥底に生息。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道～九州。県内:広く分布。15 河川ほどで記録。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	C	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 3 地点で、5 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域の泥・砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域の泥・砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(29)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**ハナグモリガイ**		科名　**ハナグモリ科**	
一般生態		【全長】殻長約 25mm 【生息環境】内湾奥部の汽水域に形成される泥底、砂泥底、砂泥礫底に生息。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:房総半島から瀬戸内海を経て有明海・八代海、沖縄島、西表島。県内:播磨東部、淡路島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　VU	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域の泥底、砂泥底、砂泥礫底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む汽水域の泥底、砂泥底、砂泥礫底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(30)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**ユウシオガイ**		科名　**ニッコウガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 20mm 【生息環境】内湾奥部の砂泥質干潟。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:陸奥湾から九州。県内:淡路島。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 6 地点で、12 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の砂泥質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の砂泥質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(31)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ヒメシラトリガイ	科名	ニッコウガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 35mm 【生息環境】内湾の潮間帯から水深 20m の泥底に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	－	Ⅵ神戸版RL2020 A
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 7 地点で、10 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の潮間帯から水深 20m の泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の潮間帯から水深 20m の泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(32)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ウズザクラガイ	科名	ニッコウガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 10mm 【生息環境】内湾の潮間帯～潮下帯の砂泥底。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道南部から九州。県内:淡路島。潮下帯のアマモ場周辺には多産する生息地もあるが、干潟では個体数は多くない。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	B	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の潮間帯～潮下帯の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の潮間帯～潮下帯の砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(33)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	マテガイ	科名	マテガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 100mm、殻高約 15mm の扁平な筒状形 【生息環境】前浜干潟や大型河川の河口端の砂泥・細砂干潟から潮下帯に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】県内:高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、洲本市、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 注	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 8 地点で、36 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む前浜干潟や大型河川の河口干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む前浜干潟や大型河川の河口干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(34)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	オオノガイ	科名	オオノガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 100mm 【生息環境】内湾奥部の泥砂質干潟に深く潜って生息。 【食性】濾過食。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から九州。県内:播磨灘、淡路島北部から中部の東岸の河口干潟や沿岸海域。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 NT		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の泥砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾奥部の泥砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(35)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	クシケマスオガイ	科名	オオノガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 20mm 【生息環境】内湾の淡水の影響する奥部や河口干潟の泥底に巣穴を掘るアナジャコ類の生息孔に生息するらしい。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:伊勢湾から九州、南西諸島の内湾環境下。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	B	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟の泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口干潟の泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(36)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	マキントシチロリ	科名	チロリ科	
一般生態		【全長】約 2～10cm 【生息環境】干潟などの泥砂底。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:関東以南。県内:姫路市、たつの市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	C	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 4 地点で、7 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む干潟などの泥砂底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む干潟などの泥砂底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(37)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	チロリ	科名	チロリ科	
一般生態		【全長】約 3～10cm 【生息環境】沿岸の砂底に生息する。 【食性】普段は隠れた状態の巨大な口吻をもち、これを裏返すように素早く突出させ、先端部にある 4 本の鉤状の歯で獲物を捕らえる。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から西表島。県内:神戸市、たつの市、豊岡市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む沿岸の砂底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む沿岸の砂底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(38)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	コケゴカイ	科名	ゴカイ科	
一般生態		【全長】10cm になるが、通常は約 5cm 【生息環境】内湾の干潟域などの砂泥中に、砂粒でできた薄くやわらかい筒状の巣を作り、その中に棲む。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:青森県大湊湾以南。県内:加古川市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、豊岡市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 9 地点で、23 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(39)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ヒメヤマトカワゴカイ**</td><td>科名　**ゴカイ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 4cm
【生息環境】淡水の流入する河口域や干潟の潮間帯に生息し、砂質から泥質までの底土中にU字型の棲管を作り棲む。
【食性】－
【繁殖生態】雌が巣穴の中又はその周辺で産卵し、その付近で雄が精子を放出し受精が成立するのではないかと推測される。
【分布】－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域、ヨシ群落等)の 3 地点で、3 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 3 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口域や干潟の潮間帯です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 3 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口域や干潟の潮間帯です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

注）選定基準Ⅴ：兵庫県版 RL2014 における「カワゴカイ属の数種」の選定基準を記載しました。

表 11.8-44(40)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ヤマトカワゴカイ**</td><td>科名　**ゴカイ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 10cm
【生息環境】淡水の流入する河口域や干潟の潮間帯に生息し、砂質から泥質までの底土中にU字型の棲管を作り棲む。
【食性】－
【繁殖生態】雌雄の多数の成熟個体が大潮の夜の満潮時刻直後に一斉に水中に泳ぎだし、水中で放卵、放精を行う。
【分布】－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域、ヨシ群落等)の 3 地点で、13 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 3 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口域や干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 3 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口域や干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

注）選定基準Ⅴ：兵庫県版 RL2014 における「カワゴカイ属の数種」の選定基準を記載しました。

表 11.8-44(41)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td>種名　カワゴカイ属</td><td colspan="2">科名　ゴカイ科</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="3">【全長】約 15cm
【生息環境】淡水の流入する河口域や干潟の潮間帯に生息し、砂質から泥質までの底土中にU字型の棲管を作り、その中に棲む。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:全国。県内:西宮市、加古川市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、豊岡市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="3">市街地等(開放水域、ヨシ群落等)の 11 地点で、95 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="2">本種の確認地点 11 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口域や干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="2">本種の確認地点 11 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口域や干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

注）選定基準Ⅴ：兵庫県版 RL2014 における「カワゴカイ属の数種」の一般生態及び選定基準を記載しました。

表 11.8-44(42)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td>種名　スナイソゴカイ</td><td colspan="2">科名　ゴカイ科</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="3">【全長】約 10cm
【生息環境】内湾の砂泥底や礫底にある転石下など。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:本州以南。県内:高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、豊岡市、洲本市。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　調</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="3">市街地等(開放水域)の 6 地点で、12 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="2">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の砂泥底や礫底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="2">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の砂泥底や礫底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(43)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**スゴカイイソメ**</td><td colspan="2">科名　**ナナテイソメ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 20～40cm
【生息環境】内湾の砂地の潮間帯から水深数 m に生息する。10cm ほどの長さの棲管を作り、その中に潜む。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:青森県大湊湾以南。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">塩沼地植生の 1 地点で、2 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は塩沼地植生を含む内湾の砂地の潮間帯から水深数 m です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は塩沼地植生を含む内湾の砂地の潮間帯から水深数 m です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(44)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**コアシギボシイソメ**</td><td colspan="2">科名　**ギボシイソメ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 10～30cm
【生息環境】内湾浅海の砂泥底や汚泥底に生息する。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:本州以南。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 2 地点で、2 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾浅海の砂泥底や汚泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾浅海の砂泥底や汚泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(45)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**タマシキゴカイ**</td><td>科名　**タマシキゴカイ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 300mm
【生息環境】波静かな砂質から砂泥質の干潟に U 字型の深い巣穴を掘り、地表にとぐろ状の糞塊を築く。
【食性】－
【繁殖生態】卵塊は独特の形状をしており、漫画の吹き出しのような形のゼリー状で、干潟表面に付着している。
【分布】国内:北海道室蘭以南。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質から砂泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質から砂泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(46)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="3">種名　**ヌマエラビル**</td><td>科名　**ウオビル科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】約 15mm
【生息環境】川や沼に生息する淡水カメ類の体表に外部寄生する。
【食性】－
【繁殖生態】－
【分布】国内:兵庫県と島根県のみ。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　DD</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　－</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 1 地点で、2 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種の確認地点 1 地点は工事の実施区域に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む川や沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種の確認地点 1 地点は都市計画対象道路に存在します。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む川や沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(47)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	サラサフジツボ	科名	フジツボ科	
一般生態		【全長】約 10～30mm 【生息環境】内湾の潮間帯下部から潮下帯の岩盤下面や転石下、貝殻上に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州以南。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 －	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、5 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の潮間帯下部から潮下帯です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の潮間帯下部から潮下帯です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(48)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	シロスジフジツボ	科名	フジツボ科	
一般生態		【全長】約 10～15mm 【生息環境】河口域から海域にかけての潮間帯中部の岩や護岸、異形ブロックなどのさまざまな構造物に付着する。 【食性】水中に懸濁する微小な植物プランクトンや有機物。 【繁殖生態】産卵・幼生:産卵期は主に高水温期。 【分布】国内:本州以南。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 －	Ⅵ神戸版RL2020 調		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		常緑広葉樹二次林、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 16 地点で、45 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)、河口域から海域にかけての潮間帯中部の岩や護岸です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は常緑広葉樹二次林、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)、河口域から海域にかけての潮間帯中部の岩や護岸です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(49)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ミゾレヌマエビ	科名	ヌマエビ科	
一般生態		【全長】約 30mm 【生息環境】河口から中流域の流れの緩やかな場所を好む。淡水から汽水の上端付近に生息するが、両側回遊性であり、幼生は海へ降下しないと成長できない。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:日本海側では新潟県以南、太平洋側では千葉県以南。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		その他草地群落(開放水域、ヨシ群落等)の 3 地点で、14 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 3 地点のうち 2 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境はその他草地群落(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口から中流域です。 予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 3 地点のうち 2 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境はその他草地群落(開放水域、ヨシ群落等)を含む河口から中流域です。 予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(50)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	シラタエビ	科名	テナガエビ科	
一般生態		【全長】約 70mm 【生息環境】河口域。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道函館以南。県内:加古川以西(加古川市、高砂市、姫路市、赤穂市、豊岡市)。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、11 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(51)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	テッポウエビ	科名	テッポウエビ科	
一般生態		【全長】約 70mm 【生息環境】波静かな砂質もしくは砂泥底の海岸を好み、干潟や浅海域に穴居。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道忍路湾以南。県内:西宮市、高砂市、姫路市、たつの市、洲本市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 4 地点で、12 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質もしくは砂泥底の海岸、干潟、浅海域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質もしくは砂泥底の海岸、干潟、浅海域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(52)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	エビジャコ属	科名	エビジャコ科	
一般生態		【全長】約 25mm 【生息環境】河川汽水域、内湾、前浜干潟などの細砂底やアマモ場。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から九州。県内:日本海・瀬戸内海流入河川、淡路島中部の汽水域や前浜干潟。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 4 地点で、13 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川汽水域、内湾、前浜干潟、アマモ場です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川汽水域、内湾、前浜干潟、アマモ場です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(53)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	テナガツノヤドカリ	科名	ヤドカリ科	
一般生態		【全長】甲長約 10mm 【生息環境】砂質干潟の潮間帯～潮下帯水深 10m ほどに生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】抱卵雌は 4 月～10 月くらいまでみられるが、産卵期のピークである 7、8 月には大部分の個体が潮下帯に移動し、秋には潮間帯に戻ってくる。 【分布】国内:三陸海岸から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	DD	Ⅴ兵庫県版RL2014	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		塩沼地植生の 1 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む砂質干潟の潮間帯～潮下帯水深 10m です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む砂質干潟の潮間帯～潮下帯水深 10m です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(54)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ニホンスナモグリ	科名	スナモグリ科	
一般生態		【全長】約 50mm 【生息環境】内湾の前浜干潟や河口干潟に巣穴を掘る。 【食性】アナジャコ類が懸濁物食者であるのに対し、スナモグリ類は堆積物食者である。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道有珠湾から沖縄県。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	C	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、5 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の前浜干潟や河口干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む内湾の前浜干潟や河口干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(55)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ヨコヤアナジャコ	科名	アナジャコ科	
一般生態		【全長】約 50mm 【生息環境】砂泥質を好むアナジャコに比べると底質選好性には幅があり、河口域の石混じりの泥底や砂質の前浜干潟などにも巣穴を掘る。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:青森県陸奥湾から沖縄県西表島。県内:播磨東部から西部、淡路島中部及び日本海側。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	C	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 7 地点で、22 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口域の前浜干潟などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河口域の前浜干潟などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(56)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	マメコブシガニ	科名	コブシガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 20mm 【生息環境】砂泥質から砂質干潟。澪筋や汀線付近など、わずかに水深がある場所を歩きまわる。 【食性】－ 【繁殖生態】夏 【分布】国内:陸奥湾から奄美大島。県内:播磨東部から西部、淡路島及び日本海側。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	B	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 7 地点で、8 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質から砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質から砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(57)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**クロベンケイガニ**		科名　**ベンケイガニ科**		
一般生態		【全長】甲幅約 40mm 【生息環境】河口や干潟後背の底質に巣穴を掘る。石積みの隙間に潜むこともある。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:太平洋側では宮城県以南、日本海側では男鹿半島以南から沖縄諸島。県内:神戸地域から播磨西部、淡路島及び日本海側。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　C	Ⅵ神戸版RL2020　C		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 6 地点で、14 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 6 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河口や干潟の底質です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 6 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河口や干潟の底質です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(58)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**アカテガニ**		科名　**ベンケイガニ科**		
一般生態		【全長】甲幅約 30mm 【生息環境】陸生傾向が強く、海岸近くの斜面や湿地、林などに穴を掘る。河畔林などのある比較的広い河川河口域を好む。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:青森県から九州南部。県内:神戸市、播磨東部から西部、淡路島及び日本海側。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　B	Ⅵ神戸版RL2020　B		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 10 地点で、19 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 10 地点のうち 1 地点は工事の実施区域に存在します。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む海岸近くの斜面や湿地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種の確認地点 10 地点のうち 1 地点は都市計画対象道路に存在します。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む海岸近くの斜面や湿地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(59)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ウモレベンケイガニ	科名	ベンケイガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 20mm 【生息環境】河口ヨシ帯の上部、満潮時にかろうじて冠水するような場所に生息する。打ち上がった流木や投棄された化学肥料のビニール袋の下にいることが多い。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東京湾から沖縄県。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	VU	Ⅴ兵庫県版RL2014	A	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		塩沼地植生の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む河口ヨシ帯の上部です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む河口ヨシ帯の上部です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(60)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	フタバカクガニ	科名	ベンケイガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 30mm 【生息環境】河口域の石の隙間やヨシ帯の根際など。泥と岩の混じったような底質を好み、比較的人工的な環境でも見られる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東京湾から沖縄諸島。県内:播磨東部から西部及び淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	B	Ⅵ神戸版RL2020 B
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		塩沼地植生、市街地等(開放水域)の 11 地点で、19 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、市街地等(開放水域)を含む河口域の石の隙間やヨシ帯の根際などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、市街地等(開放水域)を含む河口域の石の隙間やヨシ帯の根際などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(61)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	クシテガニ	科名	ベンケイガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 30mm 【生息環境】干潟ヨシ帯下部に広がる粘性のある泥地に巣穴を掘る。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:東京湾から九州。県内:播磨東部から西部。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 A	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む干潟ヨシ帯の泥地です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む干潟ヨシ帯の泥地です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(62)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ユビアカベンケイガニ	科名	ベンケイガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 15mm 【生息環境】河口域ヨシ帯の上部を好み、高潮線付近から上側に生息。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:静岡県から沖縄諸島。県内:播磨東部から西部、淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 3 地点で、8 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河口域ヨシ帯の上部です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河口域ヨシ帯の上部です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(63)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ベンケイガニ	科名	ベンケイガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 35mm 【生息環境】河川の中州や海岸沿いの斜面などに穴を掘っている。成体は陸生に近く、樹木で被われたような薄暗い環境を好む。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:房総半島、男鹿半島以南。県内:神戸市、加古川市、たつの市、赤穂市、新温泉町、洲本市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 A		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の中州や海岸沿いの斜面です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む河川の中州や海岸沿いの斜面です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(64)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ハマガニ	科名	モクズガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 50mm 【生息環境】河口域の中州などに形成されるヨシ帯の中部から上部に巣穴を掘る。比較的大きな河川の河畔林の低地やヨシ帯のある場所に多い。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:宮城県以南から沖縄諸島。県内:播磨東部から西部、及び淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 A		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 4 地点で、4 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(65)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ヒメアシハラガニ	科名	モクズガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 25mm 【生息環境】砂泥質干潟に巣穴を掘る。 【食性】干潟性の小型種 【繁殖生態】－ 【分布】国内:房総半島以南。県内:播磨東部から西部及び淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	NT	Ⅴ兵庫県版RL2014	B	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質干潟です。 予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質干潟です。 予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(66)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	アシハラガニ	科名	モクズガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 35mm 【生息環境】河口域や干潟後背部のヨシ帯に巣穴を掘る。ヨシ帯の豊富な河口域ではまとまった数の個体群が見られることが多く、時に群れをなして歩いていることがある。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:青森県から鹿児島県。県内:阪神地域から播磨西部、淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	C	Ⅵ神戸版RL2020　B
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 7 地点で、24 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(67)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	スネナガイソガニ	科名	モクズガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 15mm 【生息環境】潮間帯下部から潮下帯の砂泥底、アマモ場の根際や石の下に生息する。水から出ることはない。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道厚岸湾から熊本県。県内:西宮市、姫路市、たつの市、洲本市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯下部から潮下帯の砂泥底、アマモ場です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯下部から潮下帯の砂泥底、アマモ場です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(68)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ヒメケフサイソガニ	科名	モクズガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 10mm 【生息環境】潮間帯中部から下部の主にカキ礁、カキ殻の間隙に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:紀伊半島沿岸から瀬戸内海、有明海。県内:加古川市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、洲本市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯中部から下部の主にカキ礁です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯中部から下部の主にカキ礁です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(69)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ウモレマメガニ	科名	モクズガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 4mm 【生息環境】前浜干潟などの砂質干潟に、砂に埋もれるようにして生息。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:千葉県から熊本県。県内:播磨西部、淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 VU	Ⅴ兵庫県版RL2014 A	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、4 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(70)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	トリウミアカイソモドキ	科名	モクズガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 9mm 【生息環境】干潟。アナジャコやスナモグリ類の巣穴に共生する小型種。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:青森県から西表島。県内:播磨東部から西部、淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 B	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 3 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(71)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	チゴガニ	科名	コメツキガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 7mm 【生息環境】砂泥質から泥質の干潟に 15cm 程度の深さの巣穴を掘って棲む。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:宮城県から沖縄県。県内:播磨東部から西部。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 5 地点で、23 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質から泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質から泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(72)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	コメツキガニ	科名	コメツキガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 10mm 【生息環境】砂質から砂泥質の干潟に巣穴を掘って棲む。 【食性】巣穴周辺の底質をハサミですくい上げて口器で珪藻類を濾過して摂餌する。 【繁殖生態】－ 【分布】国内:北海道から九州。県内:播磨東部から西部、及び淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 5 地点で、26 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質から砂泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂質から砂泥質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(73)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	オサガニ	科名	オサガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 35mm 【生息環境】砂泥質から砂質の干潟に巣穴を掘る。比較的活発に動くため、澪筋や干潟の水溜りに取り残されるようにして潜んでいることがある。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:宮城県から九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 NT	Ⅴ兵庫県版RL2014 A	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		市街地等(開放水域)の 3 地点で、4 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂泥質から砂質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂泥質から砂質の干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(74)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	ヤマトオサガニ	科名	オサガニ科	
一般生態		【全長】甲幅約 35mm 【生息環境】河口の泥底に斜めに開口する巣穴を掘る。 【食性】－ 【繁殖生態】夏 【分布】国内:陸奥湾から種子島。県内:阪神地域から播磨西部にかけて、及び淡路島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法 －	Ⅱ種の保存法 －	Ⅲ環境省RL2020 －		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017 －	Ⅴ兵庫県版RL2014 C	Ⅵ神戸版RL2020 －		
		Ⅶ明石市RL2019 －				
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 5 地点で、9 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河口の砂泥です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む河口の砂泥です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(75)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**ハクセンシオマネキ**</td><td colspan="2">科名　**スナガニ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】甲幅約 20mm
【生息環境】砂泥質干潟の比較的地盤の高い場所を好む。
【食性】干潟表面に付着する珪藻類。
【繁殖生態】－
【分布】国内:伊豆半島から種子島。県内:阪神地域から播磨西部にかけて、及び淡路島。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　VU</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　C</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 5 地点で、12 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)を含む砂泥質干潟です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(76)　重要な種の予測結果(底生動物)

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">種名　**スナガニ**</td><td colspan="2">科名　**スナガニ科**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="4">【全長】雌甲幅約 20mm、雄甲幅約 30mm
【生息環境】砂浜海岸の中潮線から高潮線にかけて巣穴を掘る。
【食性】－
【繁殖生態】夏
【分布】国内:山形県から鹿児島県。県内:日本海側及び阪神地域から播磨西部、淡路島。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ種の保存法　－</td><td>Ⅲ環境省RL2020　－</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－</td><td>Ⅴ兵庫県版RL2014　B</td><td>Ⅵ神戸版RL2020　B</td><td></td></tr>
<tr><td>Ⅶ明石市RL2019　－</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="4">市街地等(開放水域)の 3 地点で、4 個体を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td colspan="3">本種は工事の実施区域では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂浜海岸です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td colspan="3">本種は都市計画対象道路では確認されていません。
本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む砂浜海岸です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。
したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。</td><td>B</td></tr>
</table>

表 11.8-44(77)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	オナガサナエ	科名	サナエトンボ科	
一般生態		【全長】約 60mm 【生息環境】川の中流～下流域に発生し、成虫期 5～9 月。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州。北限は青森、南限は鹿児島、種子島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	－	Ⅵ神戸版RL2020 C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む川の中流～下流域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む川の中流～下流域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(78)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	フタスジサナエ	科名	サナエトンボ科	
一般生態		【全長】腹長約 32.0～35.0mm、後翅長約 26.0～29.0mm 【生息環境】主に平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼に生息し、成熟したオスは岸辺の植物等に静止して縄張りを形成する。 【食性】－ 【繁殖生態】成虫は 4 月下旬～6 月中旬に見られる。未熟期は発生地近くの草地や林縁で過ごし、成熟すると水辺に戻り、岸辺で生殖活動を行う。 【分布】国内:福井県、静岡県以西の本州、四国、九州。県内:神戸市、三田市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、加西市、姫路市、相生市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		耕作地、市街地等(開放水域)の 3 地点で、3 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(開放水域)を含む樹林に囲まれた池沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は耕作地、市街地等(開放水域)を含む樹林に囲まれた池沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(79)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**オオミズムシ**		科名　**ミズムシ科(昆)**		
一般生態		【全長】約 10～12mm 【生息環境】植物が豊富な池沼に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、九州。県内:神戸市、小野市、加西市、福崎町、相生市、佐用町、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT		
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　C	Ⅵ神戸版RL2020　B		
		Ⅶ明石市RL2019　－				
確認状況		市街地等(開放水域)の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む植物が豊富な池沼です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む植物が豊富な池沼です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(80)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**コオイムシ**		科名　**コオイムシ科**	
一般生態		【全長】約 17～20mm 【生息環境】水深の浅い開放的な止水域に生息。 【食性】オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食する。 【繁殖生態】オスが背中で卵塊を保護する有名な昆虫である。 【分布】国内:本州から九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　NT	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 9 地点で、25 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、その他草地群落、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(81)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	コマルケシゲンゴロウ	科名	ゲンゴロウ科	
一般生態		【全長】約 2.0～2.5mm 【生息環境】池沼や湿地、水田などの水生植物の豊富な止水域に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州(福島県以南)、四国、九州、南西諸島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		湿地・河川・池沼植生の 1 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は湿地・河川・池沼植生です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(82)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名	オオマルケシゲンゴロウ	科名	ゲンゴロウ科	
一般生態		【全長】約 3.0～3.8mm 【生息環境】池沼、休耕田、湿地。植物が豊富な止水域に生息し、特に水草が繁茂する富栄養な環境を好む。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州東海地方以西。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2017	－	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む池沼、休耕田、湿地、植物が豊富な止水域です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む池沼、休耕田、湿地、植物が豊富な止水域です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-44(83)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**コガムシ**		科名　**ガムシ科**	
一般生態		【全長】約 16～18mm 【生息環境】水田や河川敷の水たまり等。 【食性】成虫は水草を食し、幼虫は肉食性である。 【繁殖生態】水田や河川敷の水たまり等の不安定な止水域で繁殖をするが、ため池等の安定した水域では繁殖しない。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、宝塚市、加古川市、小野市、姫路市、佐用町、豊岡市、香美町。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　DD	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2017　－	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)の 10 地点で、16 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、耕作地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(開放水域)です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-44(84)　重要な種の予測結果(底生動物)

項目		種名　**シャミセンガイ属**		科名　**シャミセンガイ科**	
一般生態		【全長】殻長約 20mm 【生息環境】潮間帯下部から潮下帯の細砂から砂泥底に潜って生息。特にアマモ場周辺に多い。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:全国。県内:淡路島、姫路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省RL2020　－	
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017　－	Ⅴ兵庫県版RL2014　A	Ⅵ神戸版RL2020　－	
		Ⅶ明石市RL2019　－			
確認状況		市街地等(開放水域)の 1 地点で、1 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯下部から潮下帯の細砂から砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等(開放水域)を含む潮間帯下部から潮下帯の細砂から砂泥底です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。			B

vii) 陸産貝類

重要な陸産貝類の予測結果は、表 11.8-45 に示すとおりです。

表 11.8-45(1)　重要な種の予測結果(陸産貝類)

項目		種名	ナガオカモノアラガイ	科名	オカモノアラガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 15mm 【生息環境】水田周辺の土手や水路脇草地、休耕田や湿地の草地等に生息する。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州(主に関東以西)、四国、九州。県内:神戸市、西宮市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	－	Ⅵ神戸版RL2020　C
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		落葉広葉樹二次林、その他草地群落、市街地等の 8 地点で、23 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、その他草地群落、市街地等を含む水田周辺の土手や水路脇草地、休耕田や湿地の草地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は落葉広葉樹二次林、その他草地群落、市街地等を含む水田周辺の土手や水路脇草地、休耕田や湿地の草地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-45(2)　重要な種の予測結果(陸産貝類)

項目		種名	チョウセンスナガイ	科名	キバサナギガイ科	
一般生態		【全長】殻長約 2mm 【生息環境】国内では主に内陸部で確認され、石灰岩地や山林の林床に生息するが、兵庫県では淡路島の海岸林で確認されている。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:群馬県、埼玉県、東京都、広島県、愛媛県、大分県、兵庫県など。広域分布種であるが、非常に飛び地的な分布形態は特徴的である。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020　－
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	A	Ⅵ神戸版RL2020　－
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		ゴルフ場・芝地、市街地等の 6 地点で、18 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境はゴルフ場・芝地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境はゴルフ場・芝地、市街地等です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-45(3)　重要な種の予測結果(陸産貝類)

項目		種名	マルナタネガイ	科名	マキゾメガイ科	
一般生態		【全長】殻高約 2.1mm、殻径約 2.1mm 【生息環境】広葉樹林の低木の幹、枝及び葉に付着して生息している。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:本州、四国、九州、南西諸島。県内:猪名川町、姫路市、たつの市、宍粟市、佐用町、養父市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 －
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	B	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		市街地等の 3 地点で、41 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等における広葉樹林の低木の幹、枝及び葉です。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は市街地等における広葉樹林の低木の幹、枝及び葉です。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

表 11.8-45(4)　重要な種の予測結果(陸産貝類)

項目		種名	ヒメカサキビ	科名	ベッコウマイマイ科	
一般生態		【全長】殻径約 2.8mm 【生息環境】海岸林や低山地、山麓などの環境に生息する。スギ植林、広葉樹林などの林床の落葉堆積下、常緑樹林の若干乾き気味の林床の落葉堆積下にも見られる。 【食性】－ 【繁殖生態】－ 【分布】国内:全国。主に本州、四国、九州に分布記録がある。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省RL2020 NT
		Ⅳ海洋生物RL(環境省)2017	－	Ⅴ兵庫県版RL2014	－	Ⅵ神戸版RL2020 －
		Ⅶ明石市RL2019	－			
確認状況		塩沼地植生の 2 地点で、2 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む海岸林や低山地、山麓などです。予測の結果、生息環境の一部が工事の実施区域と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていません。 本種の生息環境は塩沼地植生を含む海岸林や低山地、山麓などです。予測の結果、生息環境の一部が都市計画対象道路と重なり消失・縮小しますが、生息環境は周辺に広く分布しています。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測されます。				B

② 注目すべき生息地

注目すべき生息地の予測結果は、表 11.8-46 に示すとおりです。

表 11.8-46(1)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**夢前川右岸の水路**	分類　**昆虫類**	
概要		水路 貴重な昆虫類(トゲナベブタムシ)の生息地[注)]			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ兵庫県版RL2011　－	
		Ⅳ生物多様性:湿地　2	Ⅴ生物多様性:海域　－		
確認状況		既存文献調査によると、詳細な位置は不明ですが、夢前川右岸の水路を生息域として指定しています。また、現地調査でトゲナベブタムシは確認されていませんが、水路は事業実施区域内及び周辺に存在します。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地の一部は、工事の実施区域と重なり、水路の一部を改変しますが、周辺には同様の環境が分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本注目すべき生息地の一部は、都市計画対象道路と重なり、水路の一部を改変しますが、周辺には同様の環境が分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B

注）出典：石田眞載，石田哲載（2020）「姫路市夢前町菅生川のトゲナベブタムシの記録」『きべりはむし』43(2)，p.50-51，兵庫昆虫同好会・NPO 法人こどもとむしの会.

表 11.8-46(2)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**加古川河口**	分類　**底生動物**	
概要		塩性湿地・干潟 ヨシ原がよく保存されており、ハクセンシオマネキ、ウモレベンケイガニ、アリアケモドキ、カワアイガイ、ヘナタリ、ワカウラツボ、ヒロクチカノコといった希少種の生息地			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅴ兵庫県版RL2011　－	
		Ⅳ生物多様性:湿地　2.3	Ⅴ生物多様性:海域　－		
確認状況		既存文献調査によると、詳細な位置は不明ですが、加古川河口の塩性湿地・干潟を生息域として指定しています。現地調査で、ハクセンシオマネキ、カワアイガイは加古川河口域の干潟等で確認されています。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地である加古川河口の塩性湿地・干潟は、工事の実施区域と重ならないことから、直接改変による生息環境の変化は生じません。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境に変化は生じないと予測されます。			C
	道路の存在	本注目すべき生息地である加古川河口の塩性湿地・干潟は、都市計画対象道路と重ならないことから、直接改変による生息環境の変化は生じません。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境に変化は生じないと予測されます。			C

表 11.8-46(3)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**加古川河口周辺**	分類　**鳥類、魚類、昆虫類、甲殻類等、貝類、その他無脊椎動物**	
概要		加古川河口周辺の海域である。加古川河口周辺の河口干潟には、ヨシ原がよく保存されており、京阪神の大都市近郊にありながら、ハクセンシオマネキ、ウモレベンケイガニ、アリアケモドキといった希少カニ類、カワアイ、ヘナタリ、ワカウラツボ、ヒロクチカノコといった希少巻貝類が生息する(環境省, 2001)。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅴ兵庫県版RL2011　－	
		Ⅳ生物多様性:湿地　－	Ⅴ生物多様性:海域　3		
確認状況		既存文献調査によると、加古川河口周辺の海域の干潟及びヨシ原を生息域として指定しています。これらの環境は事業実施区域の周辺に存在します。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地である加古川河口周辺の海域の干潟及びヨシ原は、工事の実施区域と重ならないことから、直接改変による生息環境の変化は生じません。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境に変化は生じないと予測されます。			C
	道路の存在	本注目すべき生息地である加古川河口周辺の海域の干潟及びヨシ原は、都市計画対象道路と重ならないことから、直接改変による生息環境の変化は生じません。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境に変化は生じないと予測されます。			C

表 11.8-46(4)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**いなみの台地のため池群**	分類　**鳥類、魚類、昆虫類(水生昆虫)**	
概要		台地上の皿池と周辺の丘陵地のため池・湧水湿地を含む。兵庫県南部の中央に位置する「いなみの台地」は、瀬戸内式気候の影響を受け、降水量が少なく水に乏しい地域で、古くからため池が築造されてきた。現在でも約 600 のため池が残されており、これらのため池群は血管のように張りめぐらされた水路網によって結ばれている。この地域のため池群や水路網は、農業水利施設としての機能に加え、人々との関わりのなかで、地域独特の景観を形成し、多様な生物を育んでいる。植物ではアサザ、オニバス、ガガブタなどの水生植物や数多くの水生昆虫、鳥類などが生育・生息している。ため池工事に伴う環境への影響に配慮したアサザの移植作業、水草・昆虫類・鳥類・魚類などのため池に生息・生育する動植物の観察や調査といった自然環境の保全活動など、ため池や水路を守り育てる地道な取り組みが各地で進められている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅴ兵庫県版RL2011　A	
		Ⅳ生物多様性:湿地　－	Ⅴ生物多様性:海域　－		
確認状況		既存文献調査によると、いなみの台地に点在するため池を生息域として指定しています。これらの環境は事業実施区域内及び周辺に存在します。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地の一部は、工事の実施区域と重なり、ため池群の一部を改変しますが、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本注目すべき生息地の一部は、都市計画対象道路と重なり、ため池群の一部を改変しますが、周辺には同様のため池が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-46(5)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**加古川河口・下流域**	分類　**鳥類、昆虫類、底生動物**	
概要		県下で有数の大規模な干潟とヨシ群落を中心とする安定した塩性湿地が広がる。アイアシの群落が発達しシオクグ、ハマヒルガオ、ゴキヅル、ナガミノオニシバなどの塩生植物の希少種が生育する。カワアイガイ、アリアケモドキ、ウモレベンケイガニなど県下の絶滅危惧種も生息。さらに近年、タケノコカワニナ、オカミミガイなど県下初の希少種も記録されている。年間約 100 種の野鳥が飛来、うちシギ・チドリ約 30 種、ツリスガラ、ホウロクシギなどの希少種も。干潟にはヨドシロヘリハンミョウが生息する。この種は本州では瀬戸内海沿岸に生息が限られている。多様な底生動物の生息地として日本の重要湿地 500 にも選定されている。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅴ兵庫県版RL2011　A	
		Ⅳ生物多様性:湿地　－	Ⅴ生物多様性:海域　－		
確認状況		既存文献調査によると、加古川河口・下流域の干潟及びヨシ群落等の塩性湿地を生息域として指定しています。これらの環境は事業実施区域内及び周辺に存在します。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地の一部は、工事の実施区域と重なり、汽水域の一部を改変しますが、干潟及びヨシ群落等の塩性湿地は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本注目すべき生息地の一部は、都市計画対象道路と重なり、汽水域の一部を改変しますが、干潟及びヨシ群落等の塩性湿地は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-46(6)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**市川河口・下流域**	分類　**魚類、底生動物**	
概要		左右岸とも小規模ながら干潟が存在し、植物、魚類、底生動物ともに汽水域や干潟に生育・生息する希少種が多くみられる。下流域は川幅が広く、砂州や後背水域など多様な環境が形成され、河川自然植生の多様性が高い。魚類の在来種も多い。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅴ兵庫県版RL2011　B	
		Ⅳ生物多様性:湿地　－	Ⅴ生物多様性:海域　－		
確認状況		既存文献調査によると、市川河口・下流域の汽水域及び干潟を生息域として指定しています。これらの環境は事業実施区域内及び周辺に存在します。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地の一部は、工事の実施区域と重なり、汽水域の一部を改変しますが、河口・下流域付近の干潟は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本注目すべき生息地の一部は、都市計画対象道路と重なり、汽水域の一部を改変しますが、下流域付近の干潟は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-46(7)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**夢前川河口・下流域**	分類　**昆虫類**	
概要		夢前川河口は潮止め堰堤がなく、汽水域が形成され、ヨシ原のみられる干潟が残っている。ウミホソチビゴミムシ、キバナガミズギワゴミムシなど、汽水域・干潟に生息する希少種が多くみられる。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅴ兵庫県版RL2011　C	
		Ⅳ生物多様性:湿地　－	Ⅴ生物多様性:海域　－		
確認状況		既存文献調査によると、夢前川河口・下流域の汽水域及び干潟を生息域として指定しています。これらの環境は事業実施区域内及び周辺に存在します。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地の一部は、工事の実施区域と重なり、汽水域の一部を改変しますが、河口・下流域付近の干潟は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本注目すべき生息地の一部は、都市計画対象道路と重なり、汽水域の一部を改変しますが、下流域付近の干潟は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B

表 11.8-46(8)　注目すべき生息地の予測結果

項目		注目すべき生息地	名称　**姫路市東部の自然海浜**	分類　**底生動物**	
概要		砂浜・前浜干潟(白浜、的形)、岩礁(小赤壁)、塩田跡(福泊)など多様な地形を内包し、姫路市東部に残された自然海浜群として貴重である。白浜では前浜干潟に固有の底生動物種が多数記録されている。小赤壁は姫路市内唯一の岩礁海岸。福泊には塩田とそれに付随するクリークの一部が残存し、塩性湿地の生物相(ホソウミニナ、ベンケイガニ類など)がみられる。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅴ兵庫県版RL2011　B	
		Ⅳ生物多様性:湿地　－	Ⅴ生物多様性:海域　－		
確認状況		既存文献調査によると、姫路市東部の自然海浜の砂浜、岩礁、塩田跡等を生息域として指定しています。これらの環境は事業実施区域内及び周辺に存在します。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本注目すべき生息地の一部は、工事の実施区域と重なり、陸域の一部を改変しますが、自然海浜群は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本注目すべき生息地の一部は、都市計画対象道路と重なり、陸域の一部を改変しますが、自然海浜群は改変せず、周辺には同様の環境が広く分布することから、直接改変による影響の程度は小さいものと考えられます。 したがって、本注目すべき生息地の生息環境は保全されると予測されます。			B

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討

予測の結果、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在により、鳥類のオオタカ、底生動物のオオタニシ、ヒラドカワザンショウガイは、「生息環境は保全されない可能性がある」と予測されました。

このことから、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在による動物への環境影響について、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行いました。

検討の結果、「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「重要な動物種の移設等」、「使用建設機械の配慮」及び「作業者に対する環境配慮の指導」を採用します。検討した環境保全措置は、表 11.8-47 に示すとおりです。

表 11.8-47　環境保全措置の検討

環境保全措置	環境保全措置の効果	実施の適否	適否の理由
工事工程の配慮及び段階的な土地の改変	猛禽類の繁殖期を避けた工事工程の配慮及び段階的に土地を改変する(コンディショニング)ことにより、対象種の生息への影響の回避又は低減ができます。	適	猛禽類の繁殖に係る影響の回避又は低減が見込まれることから、本措置を実施します。
重要な動物種の移設等(代償措置)	一般生態、分布状況等から影響を回避又は低減することが困難な種について、適切な場所への対象種の個体移設等を行うことにより、都市計画対象道路(工事の実施区域)及びその周辺に生息する種への影響を代償できます。	適	都市計画対象道路(工事の実施区域)及びその周辺に生息する種への影響の代償が見込まれることから、本措置を実施します。
使用建設機械の配慮	低騒音・低振動型建設機械の採用により、騒音・振動の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できます。	適	猛禽類の繁殖に係る影響の低減が見込まれることから、本措置を実施します。
作業者に対する環境配慮の指導	環境配慮の方針や方法を説明し、作業者に徹底させることにより、工事中の生息環境への影響を回避又は低減できます。	適	工事中の生息環境への影響の回避又は低減が見込まれることから、本措置を実施します。

(2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(3) 検討結果の整理

環境保全措置として採用した「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「重要な動物種の移設等」、「使用建設機械の配慮」及び「作業者に対する環境配慮の指導」の実施内容、効果等について整理した結果は、表 11.8-48 に示すとおりです。

表 11.8-48(1)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	工事工程の配慮及び段階的な土地の改変
	位置	オオタカの営巣地周辺の工事の実施区域
保全対象		オオタカ
環境保全措置の効果		猛禽類の繁殖期を避けた工事工程の配慮及び段階的に土地を改変することにより、対象種の生息への影響の回避又は低減ができます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		生態系への影響が低減されます。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.8-48(2)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	重要な動物種の移設等(代償措置)
	位置	保全対象生息地近傍(生息地の状況を踏まえ、専門家等の意見を聞き決定)
保全対象		都市計画対象道路(工事の実施区域)に生息する底生動物のオオタニシ、ヒラドカワザンショウガイ
環境保全措置の効果		一般生態、分布状況等から影響を回避又は低減することが困難な種について、適切な場所への対象種の個体移設等を行うことにより、都市計画対象道路(工事の実施区域)及びその周辺に生息する種への影響を代償できます。
効果の不確実性		定着の程度に不確実性があります。
他の環境への影響		移設等を講じた先の生態系に影響を及ぼす可能性があります。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.8-48(3)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	使用建設機械の配慮
	位置	オオタカの営巣地周辺の建設機械が稼働する場所
保全対象		オオタカ
環境保全措置の効果		低騒音・低振動型建設機械の採用により、騒音・振動の発生の低減が見込まれ、猛禽類の繁殖への影響を低減できます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		騒音、振動、生態系への影響が低減されます。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.8-48(4)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	作業者に対する環境配慮の指導
	位置	工事の実施区域
環境保全措置の効果		環境配慮の方針や方法を説明し、作業者に徹底させることにより、工事中の生息環境への影響を回避又は低減できます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		植物、生態系への影響が低減されます。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

(4) 事後調査

① 事後調査の検討

予測は、重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を生態学的な知見や類似事例を参考に行っていることから、不確実性は小さいと考えられますが、環境保全措置(重要な動物種の移設等)については、移設等を講じた後の動物の定着に関する基礎データが不十分であり、その効果には不確実性が残ることから、表 11.8-49 に示すとおり、事後調査を実施します。

その他の環境保全措置は、既存の知見及び事例、専門家等の意見を参考に適切に実施することから、効果の不確実性はないと考えます。ただし、生息環境に影響があると予測されたオオタカは、繁殖時の営巣中心域や行動圏を変える特性があることから、今後影響の程度が変化する可能性があり、不確実性が残ることから、表 11.8-49 に示すとおり、事後調査を実施します。

なお、事後調査の実施時期及び実施方法等の詳細については、事業実施段階において、専門家等の指導及び助言を踏まえて検討します。

表 11.8-49　事後調査の内容

調査項目	調査内容
移設等を講じた動物の生息状況（オオタニシ、ヒラドカワザンショウガイ）	・調査時期 各種の生活史及び生息特性等に応じて設定 ・調査地域 移設等を講じた動物の生息地 ・調査方法 移設等を講じた動物の生息状況(個体数、生息場所等)、並びに生息環境の状況確認
オオタカに係る繁殖状況	・調査時期 工事中(着工前含む)の調査対象の繁殖期間を基本 ・調査地域 調査対象の猛禽類の繁殖への影響が及ぶと予測される地域 ・調査方法 直接確認による生息状況の確認

② 環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針

事後調査の結果、事前に予測し得ない環境上の著しい影響が生じた場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家等の意見及び指導を得ながら、必要に応じて追加調査等を行い、適切な措置を講じます。

③ 事後調査の結果の公表の方法

事後調査結果の公表等については、原則として事業者が行いますが、公表時期及び方法については、関係機関と連携し、適切に行います。

1) 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る動物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより評価しました。

(2) 評価結果

① 回避又は低減に係る評価

都市計画対象道路は、道路の計画段階において、重要な種等の生息地をできる限り回避した計画としています。また、工事施工ヤードは都市計画対象道路上、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画とすることを想定しており、環境負荷の回避・低減が図られています。

加えて、環境保全措置として表 11.8-48 に示す「工事工程の配慮及び段階的な土地の改変」、「重要な動物種の移設等」を講じるほか、「使用建設機械の配慮」及び「作業者に対する環境配慮の指導」を実施し、環境負荷の回避・低減を図ります。

また、予測の結果、「重要な動物種の移設等」については、移設等を講じた後の動物の定着に関する基礎データが不十分であり、その効果には不確実性が残ることから、事後調査を実施します。生息環境に影響があるとされたオオタカについては、繁殖時の営巣中心域や行動圏を変える特性があることから、今後影響の程度が変化する可能性があり、不確実性が残ると考えられるため事後調査を実施します。さらに事後調査の結果、事前に予測し得ない環境上の著しい影響が生じた場合は、関係機関と協議し、専門家等の意見及び指導を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じることとしています。

なお、特別天然記念物であるコウノトリに関しては、影響はほとんどなく生息環境は保全されると予測されましたが、近年、播磨地域のため池等への飛来数が増加している現状を踏まえ、自動車との衝突回避に配慮するため、必要に応じて関係機関や専門家等の意見を聴取した上で、今後の生息・繁殖状況に応じて適切な調査及び対策の実施を検討します。

これらのことから、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る動物への影響は、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。